

幼児教育学科（～2018年度入学生）

2019年9月27日 更新

科目名	エコロジー入門		単位数	2	実務経験	担当教員 きたの まさる なかむら よういち 北野 大・中村 陽一
ナンバリングコード	ECE1111		授業形態	講義	有・無	
授業の内容	<p>1) 現在の我が国の大気汚染や水質汚濁、廃棄物などのいわゆる公害問題及び地球温暖化、オゾン層破壊、森林破壊、砂漠化などの地球規模の環境問題の現状、原因及び対策について学ぶ。</p> <p>2) 地球温暖化に関連して我が国のエネルギー問題についても学ぶ。</p> <p>3) 食の安全について農薬や食品添加物について学ぶ。</p> <p>4) 地球にやさしい社会とするための新しい価値観及びライフスタイルについて学ぶ。</p> <p>5) 身近な作物の起源について学ぶ。</p>					
到達目標	<p>1. 現在のわが国の環境問題の現状について理解している。</p> <p>2. 地球規模の環境問題について理解している。</p> <p>3. 食の安全に関し、農薬や食品添加物の役割を理解している。</p> <p>4. 上記の理解に基づき、日常生活の中で環境に配慮した生活を送るよう意識している。</p> <p>5. 身近な作物の起源とその来歴を理解している。</p>					
学位授与方針	幼児教育学科 (①・②・③・④・⑤・⑥・⑦) 地域保育学科 (1・2・3・4・5) 文化表現学科 (1・2・3・4)					
授業計画						
第1回	内容	オリエンテーション パート1 「地球と人間」 地球の誕生と生命の誕生 人口増加の現状	担当 北野	予習	教科書の目次の全体に目を通しておき、どのようなことを学ぶのか、あらかじめ理解しておくこと。またパート1, 2について事前によく読み、理解しづらい点、不明な点などをメモに残しておくこと。	
		パート2 「地球温暖化」 地球温暖化問題 フロンによるオゾン層の破壊			復習	教科書のパート1, 2についてよく読みなおし、疑問点などのメモに対し、ノートなども参考にして回答を加えること。
第2回	内容	パート3 「原子力発電」 我が国の電源構成 原子力発電のプラスとマイナス面 放射性廃棄物問題	担当 北野	予習	教科書のパート3について事前によく読み、理解しづらい点、不明な点などをメモに残しておくこと。	
				復習	教科書のパート3についてよく読みなおし、疑問点などのメモに対し、ノートなども参考にして回答を加えること。	
第3回	内容	パート4 「大気汚染」 大気汚染の現状 PM2.5およびオキシダントの現状 酸性雨 自動車の排ガス対策	担当 北野	予習	教科書のパート4について事前によく読み、理解しづらい点、不明な点などをメモに残しておくこと。	
				復習	教科書のパート4についてよく読みなおし、ノートなども参考にして。疑問点などのメモに回答を加えること。	
第4回	内容	パート5 「水質汚濁」 水の汚れの数値化 川の汚れと生き物 排水処理の方法 トリハロメタンとは	担当 北野	予習	教科書のパート5について事前によく読み、理解しづらい点、不明な点などをメモに残しておくこと。	
				復習	教科書のパート5についてよく読みなおし、疑問点などのメモに、ノートなども参考にして回答を加えること。	
第5回	内容	パート6 「地下水汚染」 地下水の利用 地下水汚染の原因 土壌の役割 パート7 「森林破壊」 森の役割 森林破壊の現状 絶滅危惧動物 生物多様性	担当 北野	予習	教科書のパート6, 7について事前によく読み、理解しづらい点、不明な点などをメモに残しておくこと。	
				復習	教科書のパート6, 7についてよく読みなおし、ノートなども参考にして。疑問点などのメモに回答を加えること。	
第6回	内容	パート8 「資源循環」 資源の枯渇性 廃棄物の種類 ダイオキシン対策 パート9 「食の安全性」 食料自給率 食品添加物 残留農薬	担当 北野	予習	教科書のパート8, 9について事前によく読み、理解しづらい点、不明な点などをメモに残しておくこと。	
				復習	教科書のパート8, 9についてよく読みなおし、ノートなども参考にして疑問点などのメモに回答を加えること。	
第7回	内容	パート10 「食とアレルギー」 アレルギーとは シックスクール パート11 「戦争と環境問題」 パート12 「環境基本法」	担当 北野	予習	教科書のパート10, 11, 12について事前によく読み、理解しづらい点、不明な点などをメモに残しておくこと。	
				復習	教科書のパート10, 11, 12についてよく読みなおし、ノートなども参考にして疑問点などのメモに、回答を加えること。	
第8回	内容	「総復習」	担当 北野	予習	教科書のパート1から12について読みなおし、理解しづらかった点、不明な点などを改めてメモに残しておき、質問事項としてまとめておくこと。	
				復習	これまで学んだことがきちんと理解できているか、友人に説明することで自らの理解の程度を把握すること。	

	第9回	内容	身近な野菜の起源と伝播①アブラナ科の作物	担当 中村	予習 復習	アブラナ科の作物に関する配布資料を読む。 キャベツの起源についてレポートを作成。	
	第10回	内容	身近な野菜の起源と伝播②ナス科の作物	担当 中村	予習 復習	ナス科の作物に関する配布資料を読む。 ナスの起源についてレポートを作成。	
	第11回	内容	身近な野菜の起源と伝播③ウリ科の作物	担当 中村	予習 復習	ウリ科の作物に関する配布資料を読む。 キュウリの起源についてレポートを作成。	
	第12回	内容	身近な野菜の起源と伝播④根菜類	担当 中村	予習 復習	根菜類に関する配布資料を読む。 ジャガイモの起源についてレポートを作成。	
	第13回	内容	身近な穀物の起源と伝播①イネ科の作物	担当 中村	予習 復習	イネ科の作物に関する配布資料を読む。 イネの起源についてレポートを作成。	
	第14回	内容	身近な穀物の起源と伝播②マメ科の作物	担当 中村	予習 復習	マメ科の作物に関する配布資料を読む。 ダイズの起源についてレポートを作成する。	
	第15回	内容	身近な果物の起源	担当 中村	予習 復習	果物に関する配布資料を読む。 バナナの起源についてレポートを作成する。	
	予習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。						
	課題へのフィードバック	授業中に行う質問についてはその都度、正解を学生に与え、正解ごとにレポートの点数に1点加点する。(北野) 授業終了10分前に、本日の講義について感想や質問のレポートを提出し、翌週にそれらについて回答する。(北野) 作成したレポートを採点し、コメントをつけて返却する。(中村)					
	成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（ ○ ）しない 成績評価の方法： 筆記試験（90%）、レポート・課題（ %）、作品・発表（ %）、実技（ %）、授業態度（10%）					
	教科書	『地球環境問題がよくわかる本』（浦野紘平・浦野真弥、オーム社）					
	参考文献	必要に応じその都度プリントを配布し、教科書の記述内容の補完をする。					
	注意事項	授業で学んだことをぜひ実生活で実践していただきたい。					

科目名	情報機器操作	単位数	2	実務経験	担当教員 ほしの おさむ 星野 治
ナバリンクコード	EDT1111	授業形態	講義	有・無	
授業の内容	Microsoft Office に含まれる事務処理系ソフトウェア群のうち、文書作成用ソフトウェア（Word）、表計算用ソフトウェア（Excel）およびプレゼンテーション用ソフトウェア（PowerPoint）の基本的な取り扱い方を学ぶ。 授業の後半では、各ソフトウェアの同時利用などの応用課題に取り組む。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 幼児教育・保育の現場での情報メディア活用法を習得している。 2. パソコン初心者には、「覚えるよりも慣れること」の大切さを理解している。 3. パソコン経験者には、「より賢いパソコン活用の仕方」を理解している。 				
学位授与方針	幼児教育学科（①・②・③・④・⑤・⑥・⑦） 地域保育学科（1・2・3・4・5） 文化表現学科（1・2・3・4）				
授業計画	第1回	内容	ガイダンス インターネットでのメール、Windows の基礎知識、日本語の入力、ソフトウェアの起動終了、その他	予習	シラバスを読んでおく。
			復習	パソコンの基本操作を確実にやる。	
	第2回	内容	Word の学習① やさしい文書の作成、その他	予習	Word の編集画面の内容を理解する。
				復習	適当な文章を用いて入力練習をする。
	第3回	内容	Word の学習② 表の取り扱い、文書の修飾（フォント、下線、網かけ、レイアウト、等々）、その他	予習	表の取り扱い（Word の場合）について確認する。
				復習	指定された課題（表付き文書）を作成する。
	第4回	内容	Word の学習③ 文章の修飾（クリップアート、ワードアート、図・画像の挿入、ページ罫線）、その他	予習	文書の基本的な修飾機能について確認する。
				復習	指定された課題（修飾付き文書）を作成する。
	第5回	内容	Word の学習④ やや高度な文書加工（ページ番号、ヘッダー・フッター、段落、文字列の検索・置換）、その他	予習	文書の応用的な修飾機能について確認する。
				復習	指定された課題（応用修飾付き文書）を作成する。
	第6回	内容	Excel の学習① 基本的な表（数表）の作成、その他	予習	Excel の編集画面の内容を理解する。
				復習	表作成を通して、Word の操作との違いを理解する。
	第7回	内容	Excel の学習② 表（数表）の作成（関数の取り扱い、文字の装飾、行・列の加工、等々）、その他	予習	資料類にて示された組み込み関数を確認する。
				復習	指定された課題（計算付き数表）を作成する。
	第8回	内容	Excel の学習③ より高度なデータ処理（条件判定、セル参照、グラフ）、その他	予習	条件判定の指定方法について確認する。
				復習	指定された課題（条件付き数表）を作成する。
第9回	内容	Excel の学習④ より高度なデータ処理（簡単なデータベース、フィルター）、その他	予習	入力値の並べ替え方法について確認する。	
			復習	指定された課題（入力値の抽出処理）を作成する。	
第10回	内容	PowerPoint の学習① スライド作成の基本（文字入力、スライドの挿入・削除・置換）、その他	予習	PowerPoint の編集画面の内容を理解する。	
			復習	指定された課題（簡単なスライド）を作成する。	
第11回	内容	PowerPoint の学習② スライド作成の応用（図表・画像の挿入、アニメーション効果）、その他	予習	スライドの応用的な修飾方法について確認する。	
			復習	指定された課題（前回の成果物の改良）を作成する。	
第12回	内容	Word および Excel の応用① 長文レポート（鑑賞文など）の作成、その他	予習	Word および Excel の基本操作を再確認する。	
			復習	指定された課題（両ソフトの同時利用）を作成する。	
第13回	内容	Word および Excel の応用② 各ソフトウェアの同時使用、Excel を利用した数学問題の解答、その他	予習	Word および Excel の応用操作を再確認する。	
			復習	指定された課題（数学問題の求解など）を作成する。	
第14回	内容	PowerPoint の応用 Word および Excel を併用したより高度なスライドの作成、その他	予習	PowerPoint の基本操作を再確認する。	
			復習	指定された課題（授業時に指示する）を作成する。	
第15回	内容	全体のまとめ 幼児教育・保育の現場での情報メディア活用法について、各自の見解をまとめる。	予習	これまでに配布済みの全資料類に目を通しておく。	
			復習	授業時に指定された内容のレポートを作成する。	
予習に要する学習時間：概ね 90 分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね 90 分を目安とする。					
課題へのフィードバック	提出されたレポート・課題については、必要に応じて改訂増補された成果物の再提出を求める。				
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法： レポート・課題（50%）、授業態度（50%）				
教科書	プリントを随時配布する。				
参考文献	プリントを随時配布するほか、必要に応じて随時紹介する。				
注意事項	<ol style="list-style-type: none"> 1. 幼稚園教諭二種免許を必要とする人は、この科目の単位を修得すること。 2. パソコンの操作はピアノの演奏と同じく、触れる機会が多ければ多いほど早く上達する。 3. 無断欠席、無断遅刻等々、「無断～」な言動は厳禁とする。 				

科目名	情報機器操作	単位数	2	実務経験	担当教員	よしの あけみ 吉野 明美	
ナンバリングコード	EDT1111	授業形態	講義	有・無			
授業の内容	コンピュータ操作、文書作成ソフト Word、表計算ソフト Excel、プレゼンテーションソフト PowerPoint の基本的な使い方を中心に学びます。保育現場の具体的な活用方法に触れながら、今後の実践力につなげていきます。						
到達目標	1. パソコンの日常生活の利用で困らないタイピングスキルを身につけている。 2. Microsoft Office (Word・Excel・PowerPoint) の基本操作ができる。 3. 図形・画像の扱いができる。						
学位授与方針	幼児教育学科 (1・2・3・4・5・6・⑦) 地域保育学科 (1・2・3・4・5) 文化表現学科 (1・2・3・4)						
授業計画	第1回	内容	コンピュータの基礎	予習	シラバスを読んでおく		
				復習	この科目で習得すべき内容を理解する		
	第2回	内容	図形描画とイラストの扱い方	予習	著作権について調べる		
				復習	コンピュータの操作を復習する		
	第3回	内容	Word 基礎・ビジネス文書	予習	Word の機能について調べる		
				復習	ビジネス文書のレイアウトを復習する		
	第4回	内容	Word 表作成	予習	タイピングの練習をする		
				復習	表作成を復習する		
	第5回	内容	Word 表編集	予習	タイピングの練習をする		
				復習	表編集を復習する		
	第6回	内容	Word 文書レイアウト	予習	画像の扱い方についてまとめる		
				復習	文書の見やすさを考える		
	第7回	内容	Word まとめ	予習	Word の機能をまとめる		
				復習	Word の機能を復習する		
	第8回	内容	Excel 基礎・表作成と四則演算	予習	Excel の機能について調べる		
				復習	数式の入れ方を復習する		
	第9回	内容	Excel 絶対参照・データベース	予習	データベースとは何か調べる		
				復習	並べ替え、抽出を復習する		
	第10回	内容	Excel グラフ	予習	グラフの種類について調べる		
				復習	グラフの作り方を復習する		
	第11回	内容	Excel 関数の利用	予習	関数について調べる		
				復習	関数を整理する		
	第12回	内容	Excel まとめ	予習	Excel の機能をまとめる		
				復習	Excel の機能を復習する		
	第13回	内容	PowerPoint 基礎・デザイン・コンテンツ	予習	PowerPoint の機能について調べる		
				復習	PowerPoint 機能を復習する		
	第14回	内容	PowerPoint クラス紹介のスライドの作成	予習	テーマについてスライド構成を考える		
				復習	効果的なスライドについて再考する		
	第15回	内容	PowerPoint まとめと印刷	予習	PowerPoint 機能をまとめる		
				復習	PowerPoint 機能を復習する		
	予習に要する学習時間：概ね 90 分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね 90 分を目安とする。						
	課題へのフィードバック	提出課題に問題がある場合、コメントを行なう。					
	成績評価	試験期間における定期試験：実施 () する / () しない 成績評価の方法： 課題 (50%)、授業態度 (50%)					
教科書	プリントまたは PDF 形式のファイルを配布します。						
参考文献	なし						
注意事項							

科目名	英語（２）	単位数	2	実務経験	担当教員	すがま ゆきお 須釜 幸男
ナンバリングコード	ENL1112	授業形態	演習	有・無		
授業の内容	子どもや家庭、保育者が暮らす社会環境を英語や英語文化の点から把握し、胎児期から学齢期の発育発達と言語（英語）習得との関係を理解する。子ども各自の心理状態や英語の習得状況を観察し、適切な英語学習法と教材、テーマを提供・援助できる力を身に付けることを目的とする。					
到達目標	1. 旺盛な知的的好奇心と高い感性の素地となる基礎学力（英語力）の重要性を理解している 2. 保育者たる意志と学習意欲、社会人たるマナーや時事感覚を多文化的に身に付けている 3. 他者理解と自己伝達との好バランスなコミュニケーション能力向上に取り組んでいる					
学位授与方針	幼児教育学科（1・2・3・4・5・6・7） 地域保育学科（1・2・3・4・5） 文化表現学科（1・2・3・4）					
授業計画	第1回	内容	前期ガイダンス	予習	シラバスを事前に読んでおく	
				復習	当科目で前期に習得すべき内容を理解する	
	第2回	内容	幼児向け文学に触れる（基礎編） ：欧州	予習	児童向け欧州文学の概略を事前に調べておく	
				復習	欧州歴史・文化と児童文学の関係をまとめる	
	第3回	内容	幼児向け文学に触れる（基礎編） ：米国	予習	児童向け米国学の概略を事前に調べておく	
				復習	米国歴史・文化と児童文学の関係をまとめる	
	第4回	内容	幼児向け文学に触れる（基礎編） ：日本	予習	児童向け日本文学の概略を事前に調べておく	
				復習	日本歴史・文化と児童文学の関係をまとめる	
	第5回	内容	幼児向け映画を鑑賞する（基礎編） ：欧州	予習	児童向け欧州映画の概略を事前に調べておく	
				復習	欧州文化・経済と児童映画の関係をまとめる	
	第6回	内容	幼児向け映画を鑑賞する（基礎編） ：米国	予習	児童向け米国映画の概略を事前に調べておく	
				復習	米国文化・経済と児童映画の関係をまとめる	
	第7回	内容	幼児向け映画を鑑賞する（基礎編） ：日本	予習	児童向け日本映画の概略を事前に調べておく	
				復習	日本文化・経済と児童映画の関係をまとめる	
	第8回	内容	上半期のまとめ	予習	既習プリントを読み込み、不明点を抽出する	
				復習	不明点を解消し、重要事項をまとめる	
	第9回	内容	保育をめぐる海外事情を知る（基礎編） ：欧州	予習	欧州型保育の特徴・歴史を事前に調査する	
				復習	保育記事の見出し、略語、表記を整理する	
	第10回	内容	保育をめぐる海外事情を知る（基礎編） ：米国	予習	米国型保育記事の特徴・歴史を事前に調査する	
				復習	保育記事の見出し、略語、表記を整理する	
第11回	内容	保育をめぐる海外事情を知る（基礎編） ：日本	予習	日本型保育記事の特徴・歴史を事前に調査する		
			復習	保育記事の見出し、略語、表記を整理する		
第12回	内容	保育・子どもに用いる会話（基礎編） ：喜怒哀楽の表現	予習	場面と語彙（日英語）を事前に調べる		
			復習	保育現場で活用できる表現をまとめる		
第13回	内容	保育・子どもに用いる会話（基礎編） ：家庭生活での表現	予習	場面と語彙（日英語）を事前に調べる		
			復習	保育現場で活用できる表現をまとめる		
第14回	内容	保育・子どもに用いる会話（基礎編） ：集団生活での表現	予習	場面と語彙（日英語）を事前に調べる		
			復習	保育現場で活用できる表現をまとめる		
第15回	内容	下半期のまとめ	予習	既習プリントを読み込み、不明点を抽出する		
			復習	不明点を解消し、重要事項をまとめる		
第16回	内容	後期ガイダンス	予習	シラバスを事前に読んでおく		
			復習	当科目で後期に習得すべき内容を理解する		
第17回	内容	幼児向け文学に触れる（応用編） ：欧州	予習	欧州型保育と子どもの成長を事前に調査する		
			復習	保育現場に反映できる視座をまとめる		
第18回	内容	幼児向け文学に触れる（応用編） ：米国	予習	米国型保育と子どもの成長を事前に調査する		
			復習	保育現場に反映できる視座をまとめる		
第19回	内容	幼児向け文学に触れる（応用編） ：日本	予習	日本型保育と子どもの成長を事前に調査する		
			復習	保育現場に反映できる視座をまとめる		
第20回	内容	幼児向け映画を鑑賞する（応用編） ：欧州	予習	国情・時代と製作者の意図を事前調査する		
			復習	欧州型保育・子育ての環境考えをまとめる		

授 業 計 画	第 21 回	内容	幼児向け映画を鑑賞する（応用編） ：米国	予習	国情・時代と製作者の意図を事前調査する
				復習	米国型保育・子育ての環境考えをまとめる
	第 22 回	内容	幼児向け映画を鑑賞する（応用編） ：日本	予習	国情・時代と製作者の意図を事前調査する
				復習	日本型保育・子育ての環境考えをまとめる
	第 23 回	内容	上半期まとめ	予習	既習プリントを読み込み、不明点を抽出する
				復習	不明点を解消し、重要事項をまとめる
	第 24 回	内容	保育をめぐる海外事情を知る（応用編） ：欧州	予習	各メディアで近況動向を事前に調べておく
				復習	事前調査と授業との整合性を図り、理解する
	第 25 回	内容	保育をめぐる海外事情を知る（応用編） ：米国	予習	各メディアで近況動向を事前に調べておく
				復習	事前調査と授業との整合性を図り、理解する
	第 26 回	内容	保育をめぐる海外事情を知る（応用編） ：日本	予習	各メディアで近況動向を事前に調べておく
				復習	事前調査と授業との整合性を図り、理解する
	第 27 回	内容	保育・子どもに用いる会話（応用編） ：喜怒哀楽の表現	予習	喜怒哀楽で学びたい表現を事前に抽出する
				復習	保育の一日の流れに即して、整理してみる
第 28 回	内容	保育・子どもに用いる会話（応用編） ：家庭生活での表現	予習	家庭生活で学びたい表現を事前に抽出する	
			復習	保育の一日の流れに即して、整理してみる	
第 29 回	内容	保育・子どもに用いる会話（応用編） ：家庭生活での表現	予習	集団生活で学びたい表現を事前に抽出する	
			復習	保育の一日の流れに即して、整理してみる	
第 30 回	内容	下半期・授業全体のまとめ	予習	既習項目を列挙し、得意・不得意を分析する	
			復習	既習項目を体系化し、不得意の克服を図る	
予習に要する学習時間：概ね 25 分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね 20 分を目安とする。					
課題へのフィードバック	作成・提出したレポート・課題にコメントや添削を実施する。 また、語彙力や基礎文法等の重要項目、講義テーマの探求・意見形成の向上・確認をその都度、実施する。				
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法：レポート・課題（50%）、授業態度（50%） （注）単元の終了ごとに小テストを実施する。				
教科書	「なし」 毎回、プリント（A4サイズ）を配布しますので、収納用クリアフォルダ（A4サイズ）を1枚ご用意ください。例年、他科目と混入して紛失・汚損する学生が出ます。再配布は行ないませんので、「英語」授業専用のクリアフォルダを必ず用意すること。				
参考文献	毎回配布するプリントで随時、紹介します。				
注意事項	英語（2）では、既習の英語（1）の基礎を土台に、使える英語や英語文化を学んでいきます。そこで、皆さんの専門の保育や子どもにテーマを合わせ、文学や映画、アニメーション、音楽、時事問題、会話等から英語を学習していきます。この英語（2）は（1）よりも難易度の高い上級編の意味ではなく、英語で社会を広く学ぼうという意味の（2）ですので、受講に際しては「英語が苦手だから」、「不得意だから」とのいった心配は不要です。				

科目名	幼児体育	単位数	2	実務経験	担当教員 しおぎき 塩崎 みづほ
ナバリングコード	EDS1215	授業形態	演習	有・無	
授業の内容	子どもの生活は遊びが中心にあるといわれるくらい遊びによって成長し、生きていくのに必要なことを真似し学んでいきます。本講義では、子どもの発育発達の特徴を理解し、それに即した運動遊びについて学び、さらには指導法について実践的に学びます。そこでは、グループで決められた題材を用いて、ロールプレイを行います。				
到達目標	1. 子どもの発育発達に応じた運動遊びの意義とその内容を理解している。 2. 運動遊びの指導に必要な、ねらい、指導案の記入法、指導法について理解している。 3. 幼児教育者として自ら動ける身体づくりと、体力の維持・向上に努める力を習得している。				
学位授与方針	幼児教育学科 (1・2・③・4・5・6・⑦) 地域保育学科 (1・2・3・4・5) 文化表現学科 (1・2・3・4)				
授業計画	第1回	内容	講義：履修上の注意事項 乳幼児期の運動遊びの意義	予習	シラバスを見て質問等を考える
				復習	本時の内容をノートにまとめる
	第2回	内容	鬼ごっこについて考えよう	予習	教科書を読んでくる
				復習	本時の内容をノートにまとめる
	第3回	内容	米袋を使った遊び	予習	米袋を作成する
				復習	本時の内容をノートにまとめる
	第4回	内容	フープを使った遊び	予習	フープ遊びの特徴について教科書を読み考えてくる
				復習	本時の内容をノートにまとめる
	第5回	内容	縄を使った遊び	予習	縄の特性について考えてくる
				復習	本時の内容をノートにまとめる
	第6回	内容	マットを使った遊び	予習	マットを使った遊びについて考えてくる
				復習	本時の内容をノートにまとめる
	第7回	内容	身近なものを使った遊び①新聞紙	予習	新聞紙を使った遊びを考えてくる
				復習	本時の内容をノートにまとめる
	第8回	内容	身体表現遊び① ーリズムにのって踊ろうー	予習	幼児向けのリズムカルな曲を探す
				復習	動きをノートに記入する
	第9回	内容	身体表現遊び② ーシンメトリーの動きを体験しようー	予習	リズムにあった動きを見つけてくる
				復習	動きをノートに記入する
	第10回	内容	身体表現遊び③ ー群の動きー	予習	色々な隊形を考えてくる
				復習	群の動きノートにまとめる
	第11回	内容	身体表現遊び④ ーひと流れをつくろうー	予習	創作したい曲を探してくる
				復習	創作した作品をノートに記す
	第12回	内容	身体表現遊びの指導法① ー指導の流れと留意点について学ぶー	予習	身体表現の指導法の箇所の教科書を読む
				復習	指導の流れについてノートにまとめる
	第13回	内容	身体表現遊びの指導法② ー言葉がけについて考えるー	予習	前回のノートを見返し、指導の流れを思い出す
				復習	言葉掛けについてノートにまとめる
	第14回	内容	身体表現遊びの指導法③ ー模擬保育をしてみようー	予習	指導ノートに記入する題材を考えてくる
				復習	指導ノートを完成させる
	第15回	内容	身体表現遊びの指導法のまとめ	予習	指導ノートに沿った模擬指導をリハーサルする
				復習	模擬指導についての考察をする
	第16回	内容	ボールを使った遊び	予習	ボール遊びの題材を考えてくる
				復習	本時の授業内容をノートにまとめる
	第17回	内容	巧技台を使った遊び	予習	巧技台の箇所の教科書を読む
				復習	本時の授業をノートにまとめる
	第18回	内容	身近なものを使った遊び②廃材を利用して	予習	身近な廃材を探し、持参する
				復習	本時の授業をノートにまとめる
	第19回	内容	講義：運動遊びの指導について	予習	指示された箇所の教科書を読んでくる
				復習	本時の授業内容をノートにまとめる
	第20回	内容	講義：運動遊びの指導案作成	予習	指導案に用いる題材を考えてくる
				復習	指導案を完成させる

授 業 計 画	第21回	内容	運動遊びの指導案に沿った指導法を考える	予習	指導案の訂正箇所を直してくる
				復習	指導案に沿った模擬授業の流れをリハーサルする
	第22回	内容	模擬保育の実践とディスカッション① マットを使った遊び	予習	マット遊びの特性と指導法について復習する
				復習	本時の授業内容、講評をノートに記入する
	第23回	内容	模擬保育の実践とディスカッション② ボールを使った遊び	予習	ボール遊びの特性と指導法について復習する
				復習	本時の授業内容、講評をノートに記入する
	第24回	内容	模擬保育の実践とディスカッション③ 縄を使った遊び	予習	縄遊びの特性と指導法について復習する
				復習	本時の授業内容、講評をノートに記入する
	第25回	内容	模擬保育の実践とディスカッション④ 用具を使わない遊び	予習	用具を使わない遊びの特性と指導法について復習する
				復習	本時の授業内容、講評をノートに記入する
	第26回	内容	行事の立案と実践について考えるー運動会をテーマに	予習	行事の箇所の教科書を読んでくる
				復習	本時の内容をノートにまとめる
	第27回	内容	運動会の進行、留意点について考える	予習	運動会の種目を考えてくる
				復習	進行について、まとめる
	第28回	内容	運動会の実践	予習	実際の進行について想定し、言葉を考えてくる
				復習	本時の活動を振り返り、考察する
	第29回	内容	講義：行事の意義について考える グループ討議	予習	考察を見直し、発表内容を考えてくる
				復習	グループ討議の内容をまとめる
	第30回	内容	まとめ 幼児の運動遊びの指導における特徴と意義について考える グループ討議	予習	ノート提出用に、まとめる
復習				教書を見直す	
予習に要する学習時間：概ね 30分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね 60分を目安とする。					
課題へのフィードバック	ノートの提出を行い、コメントを記入して返却する。 レポートはコメントして返却。発表は講評をする。				
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（ ○ ）しない 成績評価の方法： 課題（20%）、作品（10%）、発表（10%）実技（10%）、授業態度（30%）				
教科書	『運動あそび・表現あそび 指導方法を身に付ける理論と実例』宮下恭子編著、大学図書出版				
参考文献					
注意事項	実技の際は、必ず指定のジャージを着用の事。				

科目名	子どもの保健 I	単位数	4	実務経験	担当教員	とりうみ ひろこ 鳥海 弘子
ナンバリングコード	AHS1211	授業形態	講義	有・無		
授業の内容	<p>前期は地域における保健活動や子どもの身体的特徴や発育発達を学び、子どもの発達段階に応じた事故予防や保育における衛生管理、危機管理、安全対策を理解する。</p> <p>後期は子どもの病気と対応、感染予防、慢性疾患、病児保育、母子保健、他職種との連携など組織としての健康支援を学び、保育者として必要な基礎知識を習得する。</p> <p>講義では様々なケースを DVD・動画・写真・スライドなどで紹介する。</p>					
到達目標	<p>1. 子どもの身体発育や生理的機能・運動機能・精神機能の発達と保健について理解している。</p> <p>2. 子どもの健康状態の把握と子どもの病気の予防・症状・治療方法について理解している。</p> <p>3. 子どもの発達段階に応じた事故予防について理解している。</p> <p>4. 保育における環境整備・衛生管理・危機管理・安全対策について理解している。</p> <p>5. 地域の子育て支援・母子保健など地域の連携について理解している。</p>					
学位授与方針	幼児教育学科 (1・②・3・④・⑤・⑥・7)					
授業計画	第1回	内容	オリエンテーション 子どもの健康と保健の意義 保健活動の意義と目的	予習	教科書 P1～13 を読む	
				復習	今後の授業の進め方を確認し自分自身の学習計画を立てる	
	第2回	内容	母子保健の意義と現代社会における子どもの健康に関する現状と課題	予習	教科書 P14～27 を読む	
				復習	授業で学んだ内容をノートにまとめる	
	第3回	内容	子どもの発育・発達と保健	予習	教科書 P28～35 を読む	
				復習	身体発育曲線の課題を行う(次回提出)	
	第4回	内容	子どもの運動機能の発達と保健	予習	教科書 P36～41 を読む	
				復習	授業で学んだ内容をノートにまとめる	
	第5回	内容	子どもの生理機能の発達と保健	予習	教科書 P42～50 を読む	
				復習	授業で学んだ内容をノートにまとめる	
	第6回	内容	子どもの精神機能の発達と保健 小テスト (1～5回 15分間)	予習	小テスト1～5回の内容を再確認し理解を深める	
				復習	授業で学んだ内容をノートにまとめる	
	第7回	内容	母子健康手帳からみる発達と保健	予習	自分自身の母子健康手帳から自らの発達を知る	
				復習	現在の母子健康手帳の理解を深める	
	第8回	内容	地域における保健活動子どもの虐待防止	予習	虐待についての新聞記事等を1事例をレポートし提出する(500字以内)	
				復習	自らができる虐待防止への取組みを考える	
	第9回	内容	子どもの生活習慣と食生活	予習	配布資料を読む	
				復習	授業で学んだ内容をノートにまとめる	
	第10回	内容	発達障害の理解	予習	配布資料を読む	
				復習	授業で学んだ内容をノートにまとめる	
	第11回	内容	保育における環境整備と衛生管理 小テスト (6～10回 15分間)	予習	小テスト6～10回の内容を再確認し理解を深める	
				復習	授業で学んだ内容をノートにまとめる	
	第12回	内容	保育における危機管理と安全管理	予習	配布資料を読む	
				復習	授業で学んだ内容をノートにまとめる	
	第13回	内容	子どもの事故の現状と課題	予習	「平成30年教育・保育施設等における事故報告集計」を読む	
				復習	授業で学んだ内容をノートにまとめる	
	第14回	内容	事故やけがに対する応急処置・救命処置	予習	教科書 P81～86 を読む	
				復習	1～14回 ノート提出(次回の授業)	
	第15回	内容	子どもの保健 前期のまとめ 小テスト(11～14回 15分間)	予習	小テスト11～14回の内容を再確認し理解を深める	
				復習	子どもの保健の意義を考え、後期の授業に備える	
	第16回	内容	子どもの病気① 子どもの免疫の発達と感染症の特徴	予習	教科書 P65～73 を読む	
				復習	授業で学んだ内容をノートにまとめる	
	第17回	内容	子どもの病気② 感染症の予防及び適切な対応	予習	教科書 P74～80 を読む	
				復習	授業で学んだ内容をノートにまとめる	

	第18回	内容	子どもの病気③ 予防接種と感染予防	予習	自身の予防接種歴と罹患歴を確認する
				復習	予防接種の必要性について考察する。 次回提出（500字以内）
	第19回	内容	子どもの病気④ 新生児の病気、先天性の病気の特徴と対応	予習	教科書 P91～97 を読む
				復習	授業で学んだ内容をノートにまとめる
	第20回	内容	子どもの病気⑤ アレルギー疾患の特徴と適切な対応	予習	教科書 P98～105 を読む
				復習	エピペンについてまとめる
授 業 計 画	第21回	内容	子どもの病気⑥ 循環器・呼吸器 小テスト（16～20回 15分間）	予習	小テスト16～20回の内容を再確認し理解を深める
				復習	授業で学んだ内容をノートにまとめる
	第22回	内容	子どもの病気⑦ 血液・内分泌	予習	配布資料を読む
				復習	授業で学んだ内容をノートにまとめる
	第23回	内容	子どもの病気⑧ 骨・感覚器	予習	配布資料を読む
				復習	授業で学んだ内容をノートにまとめる
	第24回	内容	子どもの病気⑨ 脳・神経	予習	配布資料を読む
				復習	授業で学んだ内容をノートにまとめる
	第25回	内容	子どもの病気⑩ 慢性疾患の特徴と適切な対応	予習	教科書 106～118 を読む
				復習	授業で学んだ内容をノートにまとめる
	第26回	内容	病児保育と家庭支援 小テスト（21～25回 15分間）	予習	小テスト21～25回の内容を再確認し理解を深める
				復習	授業で学んだ内容をノートにまとめる
	第27回	内容	保護者との情報共有と家族の支援	予習	教科書 P119～128 を読む
				復習	授業で学んだ内容をノートにまとめる
	第28回	内容	子どもの健康診断と関連機関との連携	予習	教科書 P129～137 を読む
				復習	授業で学んだ内容をノートにまとめる
	第29回	内容	子どもの保健 理解度チェック 60分間 筆記試験	予習	今までの授業内容をまとめる
				復習	ノート提出準備（次回提出）
第30回	内容	子どもの保健の総理解	予習	ノート提出準備及びまとめ	
			復習	子どもの保健を総合的に理解する	
予習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。					
課題へのフィードバック	授業内にて質問を受ける時間を設け、フィードバックできる環境を整える				
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（ ○ ）しない 成績評価の方法：筆記試験（60%）、小テスト（10%）レポート・課題・ノート（20%）、授業態度（10%）				
教科書	『授業で現場で役に立つ！子どもの保健テキスト』小林美由紀 診断と治療社				
参考文献	『乳幼児 教育・保育シリーズ 子どもの保健』岩田 力 光生館 『保育所保育指針 平成29年告示』厚生労働省 フレーベル館				
注意事項	配布プリントは1冊にファイリングする（毎回の授業に持参すること）				

科目名	音楽(2)ピアノ	単位数	2	実務経験	担当教員 しかと かずのり 鹿戸 一範 他
ナバリングコード	EDS1213	授業形態	演習	有・無	
授業の内容	音楽(1)ピアノで学んだ内容をもとに、子どもの音楽活動を支える基礎技能として、さらに高度なピアノ演奏技術を修得し、教育実習や保育所実習、採用試験で重要視されるこどもの歌の弾き歌いを中心に学ぶ。クラスを担当する複数の教員より指導を受ける。				
到達目標	1. 音楽(1)ピアノで身につけた知識、演奏技術を深め、教育実習や保育現場での実践に対応できるよう、より多くのこどものうたの弾き歌いができる。 2. コードネームを用いた楽譜から、簡単な伴奏付けをすることができる。				
学位授与方針	幼児教育学科(1・②・3・④・5・6・⑦) 地域保育学科(1・2・3・4・5) 文化表現学科(1・2・3・4)				
授業計画	第1回	内容	オリエンテーション	予習	課題曲の予習。
				復習	指導を受けた事項を中心に練習する。
	第2回	内容	園生活のうた 弾き歌い① 「おはよう」「おはようのうた」他	予習	課題曲の予習。
				復習	指導を受けた事項を中心に練習する。
	第3回	内容	園生活のうた 弾き歌い② 「おべんとう」「おかえりのうた」他	予習	課題曲の予習。
				復習	指導を受けた事項を中心に練習する。
	第4回	内容	園生活のうた 弾き歌い③ 「さよならのうた」他	予習	課題曲の予習。
				復習	指導を受けた事項を中心に練習する。
	第5回	内容	季節のうた 4月① 他 「あくしゅでこんにちは」「せんせいとおともだち」	予習	課題曲の予習。
				復習	指導を受けた事項を中心に練習する。
	第6回	内容	季節のうた 4月② 「チューリップ」「ちょうちょう」「めだかの学校」他	予習	課題曲の予習。
				復習	指導を受けた事項を中心に練習する。
	第7回	内容	季節のうた 5月① 「手をたたきましょう」「このぼり」他	予習	課題曲の予習。
				復習	指導を受けた事項を中心に練習する。
	第8回	内容	季節のうた 5月② 「ぶんぶんぶん」「むすんでひらいて」他	予習	課題曲の予習。
				復習	指導を受けた事項を中心に練習する。
	第9回	内容	季節のうた 6月① 「あめふりくまのこ」「あまだればったん」他	予習	課題曲の予習。
				復習	指導を受けた事項を中心に練習する。
	第10回	内容	季節のうた 6月② 「とけいのうた」「すてきなパパ」他	予習	課題曲の予習。
				復習	指導を受けた事項を中心に練習する。
第11回	内容	季節のうた 7・8月① 「たなばたさま」「うみ」他	予習	課題曲の予習。	
			復習	指導を受けた事項を中心に練習する。	
第12回	内容	季節のうた 7・8月② 「おばけなんてないさ」「シャボン玉」他	予習	課題曲の予習。	
			復習	指導を受けた事項を中心に練習する。	
第13回	内容	あそびのうた① 「グーチョキパーでなにつくろう」他	予習	課題曲の予習。	
			復習	指導を受けた事項を中心に練習する。	
第14回	内容	あそびのうた② 「とんとんとんひげじいさん」他	予習	課題曲の予習。	
			復習	指導を受けた事項を中心に練習する。	
第15回	内容	あそびのうた③ 「むすんでひらいて」「こぶたぬきつねこ」	予習	課題曲の予習。	
			復習	指導を受けた事項を中心に練習する。	
第16回	内容	季節のうた 9月① 「とんぼのめがね」「つき」他	予習	課題曲の予習。	
			復習	指導を受けた事項を中心に練習する。	
第17回	内容	季節のうた 9月② 「きらきら星」「どんぐりころころ」他	予習	課題曲の予習。	
			復習	指導を受けた事項を中心に練習する。	
第18回	内容	季節のうた 10月① 「やきいもグーチョキパー」「きのこ」他	予習	課題曲の予習。	
			復習	指導を受けた事項を中心に練習する。	
第19回	内容	季節のうた 10月② 「小さい秋みつけた」「まつぼっくり」他	予習	課題曲の予習。	
			復習	指導を受けた事項を中心に練習する。	
第20回	内容	季節のうた 11月① 「大きなくりの木の下で」「まっかな秋」他	予習	課題曲の予習。	
			復習	指導を受けた事項を中心に練習する。	

授業計画	第21回	内容	季節のうた 11月② 「夕やけこやけ」「たきび」他	予習	課題曲の予習。
				復習	指導を受けた事項を中心に練習する。
第22回	内容	季節のうた 12月① 「あわてんぼうのサンタクロース」他		予習	課題曲の予習。
				復習	指導を受けた事項を中心に練習する。
第23回	内容	季節のうた 12月② 「ジングルベル」他		予習	課題曲の予習。
				復習	指導を受けた事項を中心に練習する。
第24回	内容	季節のうた 1月① 「お正月」「雪」他		予習	課題曲の予習。
				復習	指導を受けた事項を中心に練習する。
第25回	内容	季節のうた 1月② 「雪のこぼろず」「雪のぺんきやさん」他		予習	課題曲の予習。
				復習	指導を受けた事項を中心に練習する。
第26回	内容	季節のうた 2月① 「まめまき」「」他		予習	課題曲の予習。
				復習	指導を受けた事項を中心に練習する。
第27回	内容	季節のうた 2月② 「春がきた」「どこかで春が」他		予習	課題曲の予習。
				復習	指導を受けた事項を中心に練習する。
第28回	内容	季節のうた 3月① 「うれしいひなまつり」「思い出のアルバム」他		予習	課題曲の予習。
				復習	指導を受けた事項を中心に練習する。
第29回	内容	季節のうた 3月② 「さよならぼくたちのほいくえん」「一年生になったら」他		予習	課題曲の予習。
				復習	指導を受けた事項を中心に練習する。
第30回	内容	コードネームを用いた伴奏づけ		予習	課題曲の予習。
				復習	指導を受けた事項を中心に練習する。
予習に要する学習時間：概ね 60分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね 60分を目安とする。					
課題へのフィードバック	授業内での発表や実技試験での演奏に対して、個別に講評を行う。				
成績評価	試験期間における定期試験：実施（○）する／（ ）しない 成績評価の方法： 作品・発表（30%）、実技（50%）、授業態度（20%）				
教科書	『簡易伴奏による 実用 こどものうた』（田口雅夫・高崎和子共編、カワイ出版）				
参考文献	必要に応じてプリントを配布する。				
注意事項					

科目名	国語教育	単位数	2	実務経験	担当教員 まつき ひさこ 松木 久子
ナンバリングコード	EDS1216	授業形態	講義	有・無	
授業の内容	幼児期の子どもはとにかくお話が好きである。お話を上手に語ってくれる保育者の存在は、幼児にとって英雄にも等しいと言える。人間がこの世に生きていく上で避けて通れない、文字や文章に大いに触れてもらう。				
到達目標	1. 日本の昔話について、作品を通してその意義を伝達できる。 2. 世界の昔話について、作品を通してその意義を伝達できる。 3. 主だった児童文学者について、作品等について理解ができる。 4. 自分独自の「お話」を作成し、その意義を伝達できる。				
学位授与方針	幼児教育学科 (①・②・③・④・⑤・⑥・⑦) 地域保育学科 (1・2・3・4・5) 文化表現学科 (1・2・3・4)				
授業計画	第1回	内容	オリエンテーション：諸注意や説明	予習	自分なりの考えをまとめる。
				復習	理解したことをまとめる。
	第2回	内容	日本の昔話(1)	予習	日本の昔話について調べる。
				復習	理解したことをまとめる。
	第3回	内容	日本の昔話(2)	予習	さまざまな作品について調べる。
				復習	自分の得意な作品を見つけ、読んでみる。
	第4回	内容	世界の昔話(1)	予習	世界の昔話について調べる。
				復習	理解したことをまとめる。
	第5回	内容	世界の昔話(2)	予習	さまざまな作品について調べる。
				復習	自分の得意な作品を見つけ、読んでみる。
	第6回	内容	アンデルセン童話について(1)	予習	アンデルセンについて調べる。
				復習	理解したことをまとめる。
	第7回	内容	アンデルセン童話について(2)	予習	さまざまな作品について調べる。
				復習	自分の得意な作品を見つけ、読んでみる。
	第8回	内容	グリム童話について(1)	予習	グリム兄弟について調べる。
				復習	理解したことをまとめる。
第9回	内容	グリム童話について(2)	予習	さまざまな作品について調べる。	
			復習	自分の得意な作品を見つけ、読んでみる。	
第10回	内容	ペロー童話について	予習	ペローについて調べる。	
			復習	作品について調べ、読みまとめる。	
第11回	内容	日本の児童文学者について	予習	日本の絵本作家について調べる。	
			復習	自分の好きな作家や作品についてまとめる。	
第12回	内容	世界の児童文学者について	予習	世界の絵本作家について調べる。	
			復習	自分の好きな作家や作品についてまとめる。	
第13回	内容	自作の「お話」発表(1)	予習	子どもに何を伝えたいかを考える。	
			復習	具体的な内容を考える。	
第14回	内容	自作の「お話」発表(2)	予習	自分の周りの人に意見を求める。	
			復習	さらに発展させた作品に変更してみる。	
第15回	内容	まとめ	予習	学んだことや理解したことをまとめる。	
			復習	さらに多くの作品を読んでみる。	
予習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。					
課題へのフィードバック	授業中に小エッセイや小レポートまたは課題を課すことにより、学生の理解度を把握していく。				
成績評価	試験期間における定期試験：実施()する/(○)しない 成績評価の方法：筆記試験()%、レポート・課題(50%)、作品・発表(25%)、実技()%、授業態度(25%)				
教科書	特に指定はしない。				
参考文献	授業中に適宜、プリント資料等を配布し、紹介する。				
注意事項	主体的にいろいろな文章を読み、積極的に自分の知らない事柄を調べ、文章にまとめていってほしい。				

科目名	数量教育	単位数	2	実務経験	担当教員	なかむらよういち 中村陽一
ナパリンクコード*	EDS1217	授業形態	講義	有・無		
授業の内容	本講義は、数理に関する科目であり、あらゆる事象を「数」「量」の観点から見つめ直すことを通して、「数」「量」の意味や、その扱いかたを分類し考察する。まず、小学校の算数、中学・高校の数学で学んできたことの振り返りを行い、その上で、算数・数学の教育方法のありかたや数理的思考能力を伸ばすことを目的とする。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 現代社会が「数」「量」を抜きにしては全く成り立たないことを理解している。 2. 日常生活の中で使われてきた「数」「量」が、人の私たち自身の社会感覚の形成過程に際して重要な鍵の一つであることを理解している。 3. 幼稚園教育要領に示された「日常生活における必要感」や社会活動に無理なく結び付けられるような、数量教育指導の具体的な方法を理解している。 					
学位授与方針	幼児教育学科（1・②・3・④・⑤・⑥・7）地域保育学科（1・2・3・4・5）文化表現学科（1・2・3・4）					
授業計画	第1回	内容	ガイダンス 数の面白さ・不思議さ 「数」のもつ魅力を概観する。	予習	本シラバスを読みその概要を理解する。	
				復習	この科目で習得すべき内容を理解する。	
	第2回	内容	数の種類 日常使われる4種類の「数」のうち「個数」 について具体的な事例をもとに考察。	予習	配布する資料を読み可能な限り理解する。	
				復習	日常使われる「個数」の具体的な事例を20以上書き出す。	
	第3回	内容	数の種類 日常使われる4種類の「数」のうち「連続数」 について具体的な事例をもとに考察。	予習	配布する資料を読み可能な限り理解する。	
				復習	日常使われる「連続数」の具体的な事例を20以上書き出す。	
	第4回	内容	数の種類 日常使われる4種類の「数」のうち「順序数」 について具体的な事例をもとに考察。	予習	配布する資料を読み可能な限り理解する。	
				復習	日常使われる「順序数」の具体的な事例を20以上書き出す。	
	第5回	内容	数の種類 日常使われる4種類の「数」のうち「記号数」 について具体的な事例をもとに考察。	予習	配布する資料を読み可能な限り理解する。	
				復習	日常使われる「記号数」の具体的な事例を20以上書き出す。	
	第6回	内容	遊びの中の数・量・形 いろいろな遊びの中に見られる「数」を具 体的事例をもとに概観する。	予習	「数」の観点から見たいろいろな遊びの仕組みを確認する。	
				復習	遊びの中の「数」についてレポートにまとめる。	
	第7回	内容	数の単位 無数にある数の「単位」の意味を考える。	予習	「単位」のもつ意味を確認する。	
				復習	様々な「単位」についてレポートにまとめる。	
	第8回	内容	数的処理の歴史① 古代エジプトから西欧文明まで、数値処理 手法の発展の概観。	予習	配布する資料を読み可能な限り理解する。	
				復習	授業で配布した練習問題を解く。	
第9回	内容	数的処理の歴史② 江戸時代に発達した和算について。	予習	配布する資料を読み可能な限り理解する。		
			復習	授業で配布した練習問題を解く。		
第10回	内容	小学校・中学校の算数科・数学科教育① 小学校学習指導要領のうち1～3年の算 数に関する内容を概観する。	予習	小学校学習指導要領算数科の1～3年を読み概要を理解する。		
			復習	授業で配布した練習問題を解く。		
第11回	内容	小学校・中学校の算数科・数学科教育② 小学校学習指導要領のうち4～6年の算 数に関する内容を概観する。	予習	小学校学習指導要領算数科の4～6年を読み概要を理解する。		
			復習			
第12回	内容	小学校・中学校の算数科・数学科教育③ 中学校学習指導要領の内容を概観する。	予習	中学校学習指導要領算数科を読む。		
			復習	授業で配布した練習問題を解く。		
第13回	内容	遊びの中の数と量 数遊びを通して「数」の面白さを事例をも とに考察する。	予習	配布する資料を読み可能な限り理解する。		
			復習	数遊びの意義についてレポートにまとめる。		
第14回	内容	生活の中の数と量・形 日常生活の中の「数」について事例をもと に考察する。	予習	配布する資料を読み可能な限り理解する。		
			復習	幼児にとっての「数」についてレポートにまとめる。		
第15回	内容	全体のまとめ 「数」と「量」に対する教育のありかたを、 各自なりにまとめる。	予習	これまでに配布済みの全資料類に目を通しておく。		
			復習	授業当日に指示された内容の確認レポートを作成する。		
予習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。						
課題へのフィードバック	授業期間中に随時、簡単な確認テスト（レポート作成）を実施し、必要な解説を行う。					
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法： レポート・課題（70%）、授業態度（30%）					
教科書	『小学校学習指導要領』（文部科学省、東洋館出版社） 『保育所保育指針/幼保連携型認定こども園教育・保育要領/幼稚園教育要領』（文部科学省・厚生労働省・内閣府、チャイルド本社）					
参考文献	必要に応じて随時紹介するほか、プリントを随時配布する。					
注意事項	<ol style="list-style-type: none"> 1. 幼稚園教諭二種免許を必要とする人は、この科目および『国語教育』のうち、少なくともどちらか一方の単位を修得すること。 2. 他の科目の授業時に使われる教科書や参考文献を、この授業でも利用することがある。 3. 保育者としての自覚と問題意識を持って授業に臨むこと。 					

科目名	子どもの食と栄養	単位数	2	実務経験	担当教員 ひらやまもとこ ほりみち 平山素子・堀美稚
ナンバリングコード	EAH1211	授業形態	演習	有・無	
授業の内容	子どもを取り巻く食環境を把握し、胎児期から学齢期の発育発達と栄養・食事との関係を理解する。子ども一人ひとりの心理状態や食事の摂取状況を観察し、適切な食事の提供と介助、さらには食生活のあり方について援助できる力を身につけることを目的とする。				
到達目標	1. 子どもの発育・発達と食生活・栄養について理解している 2. 月年齢に見合った適切な食事提供と介助を行う力を身につけている 3. 自分自身の望ましい食生活の構築に取り組んでいる				
学位授与方針	幼児教育学科 (1・②・③・4・5・6・7) 地域保育学科 (1・2・3・4・5) 文化表現学科 (1・2・3・4)				
授業計画	第1回	内容	オリエンテーション、調理室の使い方	予習	シラバスを読んでおく
				復習	この科目で習得すべき内容を理解する
	第2回	内容	子どもの発育・発達と栄養	予習	発育と発達の違いを調べる
				復習	発育発達と栄養の関わりについてまとめる
	第3回	内容	授乳期の栄養① 母乳栄養	予習	母乳栄養について調べる
				復習	母乳栄養の利点と注意点をまとめる
	第4回	内容	授乳期の栄養② 人工栄養	予習	人工栄養について調べる
				復習	人工栄養の利点と注意点についてまとめる
	第5回	内容	調理実習・・・授乳期①(デモンストレーション)	予習	レシピ(プリント)を読んでおく
				復習	調理手順を理解する
	第6回	内容	調理実習・・・授乳期②(調理実習)	予習	調理手順を整理しておく
				復習	人工栄養と母乳についてレポートを作成する
	第7回	内容	離乳の必要性について	予習	どうして離乳が必要なのかを考える
				復習	離乳食導入方法とサポート方法をまとめる
	第8回	内容	離乳期の栄養①(5,6か月頃)	予習	教科書の「5,6か月頃の離乳食」部分を読む
				復習	「5,6か月頃の離乳食」の特徴をまとめる
	第9回	内容	離乳期の栄養②(7,8か月頃)	予習	教科書の「7,8か月頃の離乳食」部分を読む
				復習	「7,8か月頃の離乳食」の特徴をまとめる
	第10回	内容	食物アレルギーについて	予習	食物アレルギーの原因となる食物を調べる
				復習	事故防止、サポート方法をまとめる
	第11回	内容	調理実習・・・離乳期①(デモンストレーション)	予習	レシピ(プリント)を読んでおく
				復習	調理手順を理解する
	第12回	内容	調理実習・・・離乳期②(調理実習)	予習	調理手順を整理しておく
				復習	離乳食(5,6/7,8か月)についてレポート作成
	第13回	内容	離乳期の栄養③(9~11か月頃)	予習	教科書の「9~11か月頃の離乳食」を読む
				復習	「9~11か月頃の離乳食」の特徴をまとめる
	第14回	内容	離乳期の栄養④(12~18か月頃)	予習	教科書の「12~18か月頃の離乳食」を読む
				復習	「12~18か月頃の離乳食」の特徴をまとめる
	第15回	内容	調理実習・・・離乳期③(デモンストレーション)	予習	レシピ(プリント)を読んでおく
				復習	調理手順を理解する
	第16回	内容	調理実習・・・離乳期④(調理実習)	予習	調理手順を整理しておく
				復習	離乳食(9~11/12~18か月)のレポート作成
	第17回	内容	保育現場における食事を考える	予習	保育現場で食事等を提供する機会を考える
				復習	食事等の提供時の課題と解決方法をまとめる
	第18回	内容	幼児期の栄養①成長と食事・栄養について	予習	幼児期の食事について具体的に考えてみる
				復習	幼児期の食事の特徴をまとめる
	第19回	内容	幼児期の栄養②保育士・保護者の悩みを通して考える	予習	幼児期の食の問題について調べる
				復習	幼児期の食の課題と解決方法をまとめる
	第20回	内容	児童福祉施設の食事と栄養	予習	教科書の「児童福祉施設の食事」を読む
				復習	児童福祉施設毎の食の特徴をまとめる

授業計画	第21回	内容	調理実習・・・幼児食（弁当）①（デモンストレーション）	予習	レシピ（プリント）を読んでおく
				復習	調理手順を理解する
第22回	内容	調理実習・・・幼児食（弁当）②（調理実習）	予習	調理手順を整理しておく	
			復習	幼児食、お弁当についてレポートを作成する	
第23回	内容	障がい児の食事と栄養	予習	教科書の「障害のある子どもの食事」を読む	
			復習	障がいのある子どもの食の課題をまとめる	
第24回	内容	体調不良時の食事と栄養	予習	子どもの体調不良について調べる	
			復習	体調に合わせた食事の摂り方をまとめる	
第25回	内容	調理実習・・・幼児食（行事食）①（デモンストレーション）	予習	レシピ（プリント）を読んでおく	
			復習	調理手順を理解する	
第26回	内容	調理実習・・・幼児食（行事食）②（調理実習）	予習	調理手順を整理しておく	
			復習	行事と調理保育についてレポートを作成する	
第27回	内容	学童期の食事と栄養	予習	幼保卒園後の食の問題について考える	
			復習	学童期の食とサポート方法をまとめる	
第28回	内容	妊娠・授乳期の食事と栄養	予習	妊娠・授乳期に生じる食の問題を考える	
			復習	妊娠・授乳期の食とサポート方法をまとめる	
第29回	内容	食事のマナー・箸の使い方等について	予習	幼児期に習得すべきマナーについて調べる	
			復習	箸使いの習得方法とサポート方法をまとめる	
第30回	内容	食べることの意義と栄養・食品の知識	予習	子どもの食で大切なことは何かを考える	
			復習	自分の食生活を振り返り、改善方法をまとめる	
予習に要する学習時間：概ね15分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね30分を目安とする。					
課題へのフィードバック	作成したレポートにコメントを行う				
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法： レポート・課題（60%）、授業態度（40%）				
教科書	『改訂 子どもの食と栄養』（岡崎光子 編、光生館）				
参考文献	『新版 子どもの食生活-栄養・食育・保育-』（上田玲子 編、ななみ書房）				
注意事項	授業を通して、自分自身の望ましい食生活の構築にも取り組んで欲しい。				

科目名	食教育論	単位数	2	実務経験	担当教員 ひらやま もとこ 平山 素子
ナンバリングコード	EAH1212	授業形態	講義	有・無	
授業の内容	保育園、幼稚園において積極的に食教育を行うことが求められている。食の営みは生きる力であり、子ども達の食生活を健康的に演出できるかどうかは、大人の意識にかかっている。 子ども達に基本的な食知識を伝え、様々な体験保育を行うための技術を身につけることを目的とする。 加えて、保護者へのアプローチの方法を学ぶ。				
到達目標	1. 子どもを取り巻く食を含めた生活環境を把握している 2. 子どもに食の知識を伝える技術や食育を実践するための技能を獲得している 3. 保護者に食の重要性を伝え、実践を促すことができる				
学位授与方針	幼児教育学科 (1・2・3・4・5) 地域保育学科 (1・2・3・4・5) 文化表現学科 (1・2・3・4)				
授業計画	第1回	内容	食教育の目的と必要性	予習	シラバスを読んでおく
				復習	食教育の必要性について自分の考えをまとめる
	第2回	内容	食教育の方法	予習	食教育にはどのような方法があるのか考える
				復習	対象/目的毎の効果的な食育の方法をまとめる
	第3回	内容	乳幼児期の食をめぐる問題を考える ①食物アレルギー	予習	「子どもの食と栄養」の当該部分を読んでおく
				復習	事故防止、サポート方法をまとめる
	第4回	内容	乳幼児期の食をめぐる問題を考える ②欠食	予習	なぜ朝食欠食が多いのか理由を考える
				復習	朝食を食べるためのサポート方法をまとめる
	第5回	内容	乳幼児期の食をめぐる問題を考える ③孤食	予習	独りで食事する子どもが増加する理由を考える
				復習	孤食が望ましくない理由をまとめる
	第6回	内容	乳幼児期の食をめぐる問題を考える ④食習慣・生活習慣	予習	習得すべき望ましい生活習慣とは何かを考える
				復習	生活習慣を身につけるための方法をまとめる
	第7回	内容	乳幼児期の食をめぐる問題を考える ⑤歯磨きとむし歯	予習	子どものむし歯の増減とその理由を考える
				復習	正しい歯磨きの方法を復習し、自分も実行する
	第8回	内容	乳幼児期の食をめぐる問題を考える ⑥咀嚼	予習	自分がどのくらい噛んでいるかを観察する
				復習	咀嚼の必要性和サポート方法をまとめる
第9回	内容	子どもの発達に即した食教育を考える ①食のマナー	予習	子どもが身につけるべき食のマナーを考える	
			復習	家庭と協力しマナーを習得させる方法を考える	
第10回	内容	子どもの発達に即した食教育を考える ②食と栄養の知識	予習	幼児期に必要な食と栄養の知識は何かを考える	
			復習	食と栄養の知識を養う保育活動を考える	
第11回	内容	子どもの発達に即した食教育を考える ③偏食	予習	なぜ子どもは偏食するのかを考える	
			復習	偏食を改善するサポート方法をまとめる	
第12回	内容	子どもの発達に即した食教育を考える ④調理保育	予習	調理保育について調べる	
			復習	調理保育を行う際の留意点をまとめる	
第13回	内容	保護者への啓発の方法	予習	なぜ保護者の啓発が重要なのかを考える	
			復習	給食だよりの案を考える	
第14回	内容	媒体作成－給食便り	予習	給食だよりの内容について調べる	
			復習	給食だよりを作成する	
第15回	内容	工場見学 または 調理実習	予習	見学する工場 又は実習内容について調べる	
			復習	工場見学 又は調理実習についてレポート作成	
	予習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。				
課題へのフィードバック	毎回、学生の発表に対してコメント・評価を行う 作成した媒体の講評を行う				
成績評価	試験期間における定期試験：実施 () する / (○) しない 成績評価の方法： 課題 (60%)、授業態度 (40%)				
教科書	なし				
参考文献	『子どもの食事』(根岸宏邦著、中央公論新社)				
注意事項	授業の中で随時ディスカッションを行うので、積極的に参加して欲しい。				

科目名	子どもの保健Ⅱ		単位数	1	実務経験	担当教員 とりうみ ひろこ 鳥海 弘子
ナンバリングコード	AHS1212	授業形態	演習	有・無		
授業の内容	子どもの保健Ⅰの学習をもとに、子どもの健康の維持・増進を図り、健やかな成長発達のため、保育者としての技術を身につけることが重要である。子どもの発育、発達に応じた実践的な技術の習得のために「乳幼児の養護」「身体測定」「保健活動・計画」「事故防止・応急手当」「保護者支援」「関連機関との連携」などについて学ぶ。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの発育・発達を評価する方法を身につける。 2. 子どもの体調の変化に応じた保健的な対応方法を身につける。 3. 子どものけがなどに対する応急処置・事故防止・安全管理について理解する。 4. 地域の保健活動及び関係機関との連携について理解する。 					
学位授与方針	幼児教育学科 (1・②・3・④・⑤・⑥・7)					
授業計画	第1回	内容	子どもの発育の測定方法と評価	予習	教科書 P2～23 を読む	
				復習	教科書 P24～26 のおさらいテストを行う	
	第2回	内容	子どもの生理的機能と発達 (体温・呼吸・脈拍)	予習	教科書 P28～49 を読む	
				復習	教科書 P38～39・51～52 のおさらいテストを行う	
	第3回	内容	子どもの養護と保健① (抱っこ・おんぶ・寝かせ方)	予習	教科書 P54～55・64～65 を読む	
				復習	授業で学んだ内容をノートにまとめる	
	第4回	内容	子どもの養護と保健② (おむつ交換)	予習	教科書 P59～62 を読む	
				復習	授業で学んだ内容をノートにまとめる	
	第5回	内容	子どもの養護と保健③ (衣服の着脱・沐浴)	予習	教科書 P58～63 を読む	
				復習	授業で学んだ内容をノートにまとめる	
	第6回	内容	子どもがよくかかる感染症	予習	教科書 84～103 を読む	
				復習	教科書 104～106 のおさらいテストを行う	
	第7回	内容	感染症発生時の対応と環境衛生 (汚物処理)	予習	保育所における感染症対策ガイドラインを読む	
				復習	授業で学んだ内容をノートにまとめる	
	第8回	内容	子どもの疾病と保育 (アレルギー対応・エピペン)	予習	保育所におけるアレルギー対応ガイドラインを読む	
復習				エピペンを打つ手技を実際に行い、考えたことをノートにまとめる		
第9回	内容	子どもの健康支援 (保健計画・健康教育・保健だより)	予習	配布資料を読む		
			復習	授業で学んだ内容をノートにまとめる		
第10回	内容	子どもの事故防止と健康管理・安全管理	予習	教科書 P108～121 を読む		
			復習	教科書 122～123 のおさらいテストを行う		
第11回	内容	子どものけがと応急手当 (包帯法・三角巾)	予習	配布資料を読む		
			復習	授業で学んだ内容をノートにまとめる		
第12回	内容	子どもと心肺蘇生法	予習	教科書 P126～138 を読む		
			復習	教科書 139～140 のおさらいテストを行う		
第13回	内容	個別な配慮を必要とする子どもへの対応	予習	教科書 P142～159 を読む		
			復習	教科書 P160～161 のおさらいテストを行う		
第14回	内容	子どもの保健Ⅱ理解度チェック 筆記試験 60分	予習	1回目からの授業を振り返りテストに備える		
			復習	試験問題を持ち帰り、自己採点と評価を行う		
第15回	内容	子どもの保健Ⅱ 総合理解	予習	子どもの保健Ⅱをどのように保育者として生かしていくことが必要か考察する。 500字以内 提出		
			復習	全体の内容を振り返る		
予習に要する学習時間：概ね 25 分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね 20 分を目安とする。						
課題へのフィードバック	授業内にて質問を受ける時間を設け、フィードバックできる環境を整える					
成績評価	試験期間における定期試験：実施 () する / (○) しない 成績評価の方法：筆記試験 (60%)、レポート・課題 (20%)、授業態度 (20%)					
教科書	『これならわかる！子どもの保健演習ノート 子育てパートナーが知っておきたいこと』 改訂第3版(補遺) 小林 美由紀 診断と治療社					
参考文献	随時紹介する					
注意事項	<ol style="list-style-type: none"> 1. 演習時はエプロンを着用し、爪・髪などの身だしなみを整えること。 2. 演習の準備から片付けまで、積極的に行うこと。 3. 配布資料はファイリングし、毎回の授業に持参すること。 					

科目名	子どもの保健Ⅱ	単位数	1	実務経験	担当教員	みた のりこ 味田 徳子
ナバリングコード	AHS1212	授業形態	演習	有・無		
授業の内容	<p>子どもの心と身体の健康を保持・増進するための保健活動について「子どもの保健Ⅰ」で得た知識を実践できるように演習を重ね、習得することを目的とする。</p> <p>保育のための養護技術、体調不良時の対応やケガの応急手当等の保健的な内容及び保健管理の方法について演習を通して理解を深める。</p>					
到達目標	<p>1. 子どもの健康状態の評価ができる。</p> <p>2. 演習を通して、保育の現場で活かせる技術を身につけている。</p> <p>3. 病気や事故発生時など、緊急時の対応ができる。</p> <p>4. 集団保育における環境と安全対策を理解している。</p>					
学位授与方針	幼児教育学科 (1・2・3・4・5・6・7) 地域保育学科 (1・2・3・4・5) 文化表現学科 (1・2・3・4)					
授業計画	第1回	内容	子どもの保健に関する演習について オリエンテーション 演習に臨む姿勢、課題説明	予習	シラバスを読んでおく	
				復習	この科目で習得すべき内容を理解する	
	第2回	内容	子どもの発育・発達の観察と評価① 発育・発達	予習	子どもの発育発達について確認しておく	
				復習	発育の標準値についてまとめる	
	第3回	内容	子どもの発育・発達の観察と評価② 計測・評価	予習	計測方法について確認しておく	
				復習	分析評価の方法を理解する	
	第4回	内容	子どもの健康観察と健康管理①	予習	なぜ健康観察が必要なのか考える	
				復習	健康状態を把握するポイントについてまとめる	
	第5回	内容	子どもの健康観察と健康管理② バイタルサイン測定	予習	バイタルサイン測定方法について確認しておく	
				復習	測定方法の注意点についてまとめる	
	第6回	内容	子どもの養護と教育① 抱っこ、おんぶ、オムツ交換	予習	布オムツ・紙オムツの利点と欠点について調べる	
				復習	オムツ交換時のポイントについてまとめる	
	第7回	内容	子どもの養護と教育② 沐浴、衣類の着脱、鼻・耳のケア	予習	子どもの清潔を保つ方法について考える	
				復習	沐浴の手順についてまとめる	
	第8回	内容	＝ 実技試験 ＝ 清潔(手洗い、歯磨き)ポスター作成	予習	寝衣、オムツ交換の手順について確認しておく	
				復習	寝衣、オムツ交換の手順についてまとめる	
第9回	内容	子どもの生活習慣(睡眠、排泄、栄養)	予習	自分自身の生活習慣について考える		
			復習	子どもの生活習慣づけの重要性について考える		
第10回	内容	子どもの体調不良などへの対応 ① 主な症状への対応(電法、汚物処理、体位)	予習	子どもの体調不良とはどのような状態か考える		
			復習	対応の方法ポイントについてまとめる		
第11回	内容	子どもの体調不良などへの対応 ② ・感染症の予防と対策 ・子どもと薬(管理、与薬方法)	予習	主な感染症にはどのようなものがあるか調べる		
			復習	園や家庭での対応についてまとめる		
第12回	内容	子どもの体調不良などへの対応 ③ ・個別の配慮を必要とする子どもへの対応	予習	個別対応が必要な疾患について調べる		
			復習	発達障害の支援方法についてまとめる		
第13回	内容	保育における応急手当 三角巾、包帯法、創処置、エビベン練習、心肺蘇生	予習	ケガの内容にはどのようなものがあるか考える		
			復習	園や家庭での対応についてまとめる		
第14回	内容	子どもの心とからだの健康づくりのために ＝ 保健だより作成 ＝	予習	月に応じた保健計画のテーマについて考える		
			復習	作成ポイントについてまとめる		
第15回	内容	望ましい保育環境と安全対策 事故報告書、災害への対策と危機管理	予習	園内での事故(内容・状況)について考える		
			復習	危機管理体制についてまとめる		
予習に要する学習時間：概ね 20分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね 25分を目安とする。						
課題へのフィードバック	レポート・課題は採点后、返却する。 実技試験前に試験チェックポイントについて確認し、実施後振り返る。					
成績評価	試験期間における定期試験：実施()する/()しない 成績評価の方法：筆記試験(0%)、レポート・課題(40%)、作品・発表(0%)、実技(40%)、授業態度(20%)					
教科書	『これだけはおさえたい！保育者のための子どもの保健Ⅱ』(鈴木美枝子編著、創成社)					
参考文献	『これならわかる！子どもの保健演習ノート』(小林美由紀編著、診断と治療社)					
注意事項	1、演習時は、動きやすい服装、エプロンを着用し、爪・髪などの身だしなみを整えて下さい。 2、演習、準備、後片付けなど主体的に取り組むことで、授業態度における積極性と評価します。					

科目名	子どもの保健Ⅱ	単位数	1	実務経験	担当教員 くまさか たかゆき 熊坂 隆行
ナバリングコード	AHS1212	授業形態	演習	有・無	
授業の内容	乳幼児期の特徴と観察、身体計測技術、生理機能計測技術の学習や演習を行う。また、日常に必要な看護技術、日常に多い疾病と予防及び対処法、救急時の対応と事故防止、安全管理立案の方法なども学習する。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの健康及び安全に関する保健活動の計画及び評価を理解している。 2. 子どもの健康増進及び心身の発育・発達を促す保健活動や環境調整を理解している。 3. 子どもの疾病とその予防及び適切な対応を身につけている。 4. 救急時の対応や事故防止、安全管理の具体策が立案できる。 				
学位授与方針	幼児教育学科（1・②・③・4・5・6・7）地域保育学科（1・2・3・4・5）文化表現学科（1・2・3・4）				
授業計画	第1回	内容	身体の計測と評価 講義	予習	シラバスを読んでおく
				復習	計測方法と評価を理解する
	第2回	内容	身体の計測と評価 演習	予習	計測方法と評価を整理しておく
				復習	計測方法と評価をまとめる
	第3回	内容	観察項目「バイタルサイン（体温、脈拍、血圧、呼吸、意識）の測定の仕方と評価	予習	観察項目を理解する
				復習	観察項目をまとめる
	第4回	内容	観察項目「バイタルサイン（体温、脈拍、血圧、呼吸、意識）の測定の仕方と評価	予習	観察項目を理解する
				復習	観察項目をまとめる
	第5回	内容	日常の保育に必要な技術（抱っこ、おんぶ、食事、口腔内の清拭）	予習	日常の保育に必要な技術を理解する
				復習	日常の保育に必要な技術をまとめる
	第6回	内容	日常の保育に必要な技術（排泄の援助とトレーニング）	予習	日常の保育に必要な技術を理解する
				復習	日常の保育に必要な技術をまとめる
	第7回	内容	日常の保育に必要な技術（沐浴、おむつの当て方、衣服の着脱）	予習	日常の保育に必要な技術を理解する
				復習	日常の保育に必要な技術をまとめる
	第8回	内容	日常の保育に必要な技術（沐浴、おむつの当て方、衣服の着脱）	予習	日常の保育に必要な技術を理解する
				復習	日常の保育に必要な技術をまとめる
第9回	内容	あらゆる症状に対する看護（発熱、泣き方、咳等）	予習	あらゆる症状に対する看護を理解する	
			復習	あらゆる症状に対する看護をまとめる	
第10回	内容	あらゆる症状に対する看護（頭痛、腹痛等）	予習	あらゆる症状に対する看護を理解する	
			復習	あらゆる症状に対する看護をまとめる	
第11回	内容	あらゆる症状に対する看護（嘔吐、便秘、下痢等）	予習	あらゆる症状に対する看護を理解する	
			復習	あらゆる症状に対する看護をまとめる	
第12回	内容	疾病の対応と予防（感染症、食中毒）	予習	疾病の対応と予防を理解する	
			復習	疾病の対応と予防をまとめる	
第13回	内容	疾病の対応と予防（手洗い）	予習	疾病の対応と予防を理解する	
			復習	疾病の対応と予防をまとめる	
第14回	内容	応急処置（心肺蘇生法等）	予習	応急処置を理解する	
			復習	応急処置をまとめる	
第15回	内容	子どもの保育環境と衛生管理	予習	子どもの保育環境と衛生管理を理解する	
			復習	子どもの保育環境と衛生管理をまとめる	
予習に要する学習時間：概ね25分を目安とする。復習に要する学習時間：概ね20分を目安とする。					
課題へのフィードバック	リフレクションペーパー等を活用し、学生の皆さんの意見や要望を反映いたします。				
成績評価	試験期間における定期試験：実施（○）する／（ ）しない 成績評価の方法：筆記試験（20%）、レポート・課題（20%）、作品・発表（0%）、実技（50%）、授業態度（10%）				
教科書	子どもの保健Ⅰの教科書を使用いたします。				
参考文献	適宜、紹介いたします。				
注意事項	自ら学ぶ姿勢をもち、主体的に講義に参加してください。				

科目名	家庭支援論	単位数	2	実務経験	担当教員	きたざわ あきこ 北澤 明子
ナンバリングコード	SOW1221	授業形態	講義	有・無		
授業の内容	<p>家族、家庭のあり方が変化し、多様化した現在、保育者は家庭や地域と連携しながら、子育てを支援していくことが求められている。本講では、子育てにおける「家庭支援」の背景や目的を学ぶとともに家庭のニーズに応じた多様な支援の展開について知り、保育者として必要な支援の基本について学んでいく。</p>					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 家庭の意義とその機能について理解し、説明することができる。 2. 現在の子育て家庭を取り巻く環境について理解し、どのような支援が必要かを考えることができる。 3. 子育て支援の法的根拠や支援政策について説明することができる。 4. 子育て支援の実践について理解し、今後どのような支援をしていきたいか考えることができる。 					
学位授与方針	幼児教育学科 (1・②・3・4・⑤・6・7) 地域保育学科 (1・2・3・4・5) 文化表現学科 (1・2・3・4)					
授業計画	第1回	内容	オリエンテーションー授業の進め方等ー	予習	教科書を読んでくる	
				復習	ビデオの内容・感想を自分なりにまとめる	
	第2回	内容	家庭の意義と機能	予習	自分が思う「家族」について考えてくる	
				復習	「家族」と「家庭」の違いについて復習する	
	第3回	内容	家族・家庭・子育ての歴史①ー江戸・明治ー	予習	教科書の第1章を読んでくる	
				復習	歴史について復習しまとめる	
	第4回	内容	家族・家庭・子育ての歴史②ー昭和から現在までー	予習	江戸から明治までの歴史の振り返りをする	
				復習	家族・家庭の歴史について自分なりにまとめる	
	第5回	内容	現在の家庭を取り巻く状況①ー図からの読み取りー	予習	現在の家族について知っている内容を箇条書きにする	
				復習	読み取った内容をまとめてくる	
	第6回	内容	現在の家庭を取り巻く状況②ー読み取ったことから必要な支援について考えるー	予習	読み取った内容のまとめを読んでくる	
				復習	自分の考える必要な支援についてまとめる	
	第7回	内容	子育て家庭への支援の必要性	予習	教科書第2章を読んでくる	
				復習	子育て家庭への支援がなぜ必要か自分なりにまとめる	
	第8回	内容	現在の子どもを取り巻く状況	予習	レポート課題をまとめる	
				復習	レポート課題をまとめる	
第9回	内容	子育て支援の法的根拠	予習	教科書第9章・第13章を読んでくる		
			復習	法的根拠について復習する		
第10回	内容	我が国の子育て支援・政策	予習	前回の内容と教科書第9章・第13章の復習をする		
			復習	子育て支援の政策について復習する		
第11回	内容	子育て支援の実践①ー保育所・幼稚園における子育て支援の取組ー	予習	実習で経験した内容を箇条書きにしておく		
			復習	次の実習にむけて支援の実践を復習する		
第12回	内容	子育て支援の実践②ー地域における子育て支援の取組ー	予習	教科書第5章を読んでくる		
			復習	地域の支援についての概要を復習する		
第13回	内容	子育て支援の実践③ーその他ー	予習	自分の地域の子育て支援について調べる		
			復習	第13回までの内容を振り返りレポート作成		
第14回	内容	保育の場における具体的な事例紹介と事例検討	予習	子育て支援に関する実習課題を立ててみる		
			復習	具体的な事例についての復習		
第15回	内容	まとめー子どもを産むこと、育てることー	予習	これまでの内容の復習		
			復習	ビデオを見ての感想をまとめる		
予習に要する学習時間：概ね 60 分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね 120 分を目安とする。						
課題へのフィードバック	レポート返却を行い、復習と指導を行う。					
成績評価	試験期間における定期試験：実施 () する / (○) しない 成績評価の方法：レポート・課題 (80 %) 授業態度 (20 %)					
教科書	『家庭支援論の基本と課題』(井村圭壯他、学文社)					
参考文献	授業内で必要な参考文献を適宜紹介する。					
注意事項	・必要な資料を授業内で配布するので配布された資料はファイリングして毎回授業に持参すること。					

科目名	家庭支援論	単位数	2	実務経験	担当教員	まんどう あきお 萬燈 章雄
ナシパリンクコート*	SOW1221	授業形態	講義	有・無		
授業の内容	<p>児童の権利に関する条約では、「できる限りその父母を知りかつその父母によって養育される権利を有する。」となっている。とかく家庭支援という子どもを養育している父母を支援すると考えがちだが、特に子どもにとって最も身近な存在である保育士としては、養育される権利を有する子どもの目線で家庭を思考していく必要がある。そのようなスタンスで家庭へのアプローチを図っていきたい。</p>					
到達目標	<p>1. これまでの社会状況と家庭支援のあり方の変遷について理解している。 2. 地域における関係機関を含め、家庭を支援するプロセスや様々な手段、方法について理解している。 3. 家庭支援に関する「相談」について理解し対応することができる。</p>					
学位授与方針	<p>幼児教育学科 (1・②・3・4・⑤・6・7) 地域保育学科 (1・2・3・4・5) 文化表現学科 (1・2・3・4)</p>					
授業計画	第1回	内容	オリエンテーション 家族・家庭の定義について	予習	シラバスを読んでくこと	
				復習	家庭の定義についてまとめてみる	
	第2回	内容	地域社会の変容と家庭支援について	予習	高度成長期の家庭のあり方について調べる	
				復習	「家庭」の受け止め方の変遷をまとめてみる	
	第3回	内容	家庭生活を取り巻く諸問題 少子高齢化と育てづらさについて	予習	「幸福のパラドクス」について調べてみる	
				復習	少子化のもたらす問題についてまとめる	
	第4回	内容	児童虐待問題と家庭支援 認識のない保護者とSOSの出せない子ども	予習	最近の虐待ニュースについて調べてみる	
				復習	虐待問題の構造についてまとめてみる	
	第5回	内容	家庭支援の意義と役割 保育者が行う家庭支援	予習	地域が行う育児相談資源について調べる	
				復習	家庭支援の原理についてまとめてみる	
	第6回	内容	少子化の進行と子ども子育て支援策の変遷 「社会全体で子どもを育てる」について	予習	「子ども子育てビジョン」について調べる	
				復習	様々な施策の変遷についてまとめる	
	第7回	内容	子どもと子育て家庭を支援するための サービスについて①	予習	子育て支援センターについて調べてみる	
				復習	それぞれの事業についてまとめてみる	
	第8回	内容	子どもと子育て家庭を支援するための サービスについて②	予習	養育支援訪問事業について調べてみる	
				復習	それぞれの事業についてまとめてみる	
第9回	内容	子どもと子育て家庭を支援するための サービスについて③ 母子保健について	予習	子育て世代包括支援センターを調べる		
			復習	それぞれの事業についてまとめてみる		
第10回	内容	保育所と家庭支援 保育所がなぜ地域の支援を行うのか	予習	保育所運営指針を調べる		
			復習	保育所の機能についてまとめる		
第11回	内容	保育所での家庭支援① 育児不安を抱える母などについて	予習	相談の対処方法について考えてみる		
			復習	育児不安についてまとめてみる		
第12回	内容	保育所での家庭支援② 地域関係機関との連携などについて	予習	精神障害について調べる		
			復習	機関連携についてまとめる		
第13回	内容	保育所での家庭支援③ マルトリートメント・虐待について	予習	虐待について今一度復習する		
			復習	マルトリートメントについてまとめる		
第14回	内容	「誰のための家庭支援なのか」「支援相談」 について考察する	予習	今一度「相談」の特性について考えてみる		
			復習	子ども目線での対応についてまとめる		
第15回	内容	まとめ 今後の家庭支援のあり方について	予習	これまでの内容を今一度振り返る		
			復習	今後の家庭支援のあり方についてまとめる		
<p>予習に要する学習時間：概ね60分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね120分を目安とする。</p>						
課題へのフィードバック	<p>レポート提出と理解度チェックテストを実施します。それぞれ個々にコメントをつけて返却します。</p>					
成績評価	<p>試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法：筆記試験（ %）、レポート・課題（60%）、作品・発表（ %）、実技（ %）、授業態度（40%）</p>					
教科書	<p>なし</p>					
参考文献	<p>『家庭支援論』（伊藤嘉余子／野口啓示 編著 ミネルヴァ書房） 他適宜必要に応じて紹介します。</p>					
注意事項	<p>子ども目線にたった支援者を目指して欲しい。 受講マナーは守り、積極的な参加を期待します。基本、プリント資料配布で授業をすすめます。</p>					

科目名	相談援助	単位数	1	実務経験	担当教員 こむろ たいじ 小室 泰治
ナバリングコード	SOW1222	授業形態	演習	有・無	
授業の内容	相談援助において必要な方法や知識・及び技術を学び、相談者として自己理解を深め、保育現場において相談援助の理論や方法を活用できる技術を身につけることをねらいとし、具体的な相談事例をグループワーク等で討議し、それらの考え方について解説する。				
到達目標	1. 相談援助の意義、機能、対象を説明することができる。 2. 相談援助の方法、技術を説明することができる。 3. 地域にある社会資源の活用方法を説明することができる。				
学位授与方針	幼児教育学科 (1・②・3・④・⑤・6・7) 地域保育学科 (1・2・3・4・5) 文化表現学科 (1・2・3・4)				
授業計画	第1回	内容	相談援助とは何か 保育実践の中で相談援助が必要になった理由を理解する	予習	シラバスを読んでおく
				復習	この科目で修得すべき内容を理解する
	第2回	内容	相談援助の歴史の変遷 定義と理論を理解する	予習	保護者を取り巻く社会環境を調べる
				復習	診断主義、機能主義を基礎理論をまとめる
	第3回	内容	相談援助における直接援助技術、間接援助 相談援助には2種類の援助技術があることを理解する	予習	直接援助、間接援助について調べる
				復習	2種類ある援助技術の活用場面をまとめる
	第4回	内容	援助技術の理念と価値 バイステックの援助技術を成立させるための7つの原則を習得する	予習	傾聴について考える
				復習	傾聴と受容のポイントをまとめる
	第5回	内容	相談援助の展開過程 面接の開始から問題解決の終結まで過程を理解する	予習	相談援助の展開過程を調べる
				復習	開始から終結までのポイントをまとめる
	第6回	内容	相談援助を行う上での倫理 専門家としての価値観と倫理を理解する	予習	倫理とは何か考える
				復習	自分と他人の価値観の違いをまとめる
	第7回	内容	保育現場における直接援助技術 保護者との面接やグループワークの活用方法を習得する	予習	グループワークについて調べる
				復習	グループワークの効果についてまとめる
	第8回	内容	相談援助における記録 読み手に伝わる記録の書き方を習得する	予習	記録について調べる
				復習	記録作成時のポイントをまとめる
第9回	内容	地域にある社会資源の活用 関係機関や地域の社会資源を探索する	予習	地域にはどんな社会資源があるか調べる	
			復習	社会資源の活用方法をまとめる	
第10回	内容	事例研究 育児不安とストレスに関する相談事例を通して傾聴や受容の仕方を習得する	予習	育児不安、育児ストレスについて調べる	
			復習	傾聴と受容の効果をまとめる	
第11回	内容	事例研究 母子関係と母親の自立に関する相談事例を通して傾聴や受容の仕方を習得する	予習	母親の自立について考える	
			復習	傾聴と受容の効果をまとめる	
第12回	内容	事例研究 母子分離不安に関する相談事例を通して傾聴や受容の仕方を習得する	予習	母子分離について考える	
			復習	傾聴と受容の効果をまとめる	
第13回	内容	自己覚知とスーパービジョン 援助者の自己覚知を育てるための方法としてスーパービジョンの技法を習得する	予習	自己覚知について調べる	
			復習	スーパービジョンの技法をまとめる	
第14回	内容	保育場面でのソーシャルワークの活用 保育士だけでは解決できない問題は関係機関につなげる	予習	ソーシャルワークについて調べる	
			復習	関係機関との連携についてまとめる	
第15回	内容	相談援助における課題 まとめ	予習	保護者が相談しやすい環境を考える	
			復習	傾聴や受容の意義をまとめる	
予習に要する学習時間：概ね30分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね30分を目安とする。					
課題へのフィードバック	定期試験後に解答を示し解説する				
成績評価	試験期間における定期試験：実施（○）する／（ ）しない 成績評価の方法：筆記試験（50%）、発表（40%）、授業態度（10%）				
教科書	『子どもたちの生活を支える相談援助』（小野澤昇・田中利則・大塚良一編著） ミネルヴァ書房 2015				
参考文献	『ケースワークの原則』（F・P バイステック著） 誠信書房				
注意事項	1. 授業中スマートフォンなどはカバンの中に入れておくこと。 2. グループワーク、ロールプレイなども行うので、積極的に参加すること。				

科目名	相談援助	単位数	1	実務経験	担当教員	さいとう しんいち 齋藤 新一
ナンバリングコード	SOW1222	授業形態	演習	有・無		
授業の内容	相談援助を行なう上で必要なソーシャルワーク(ケースワーク・グループワーク)について学ぶ。具体的には、保育とソーシャルワークの関係、対人援助の方向性を示す価値・倫理、クライアントとの援助関係の形成を図るバイスティックの7原則、相談援助の各展開過程の内容、相談援助面接方法、記録技法、人と人との相互作用の働きによって個人の課題解決を図るグループワーク、総合的事例演習により実践的な相談援助の仕方を修得することを目的とする。					
到達目標	1. 相談援助の意義と機能について理解している。 2. 相談援助の原理・原則について理解している。 3. 相談援助の展開過程について理解している。 4. 個別援助技術と集団援助技術について理解している。					
学位授与方針	幼児教育学科 (①・②・③・④・⑤・⑥・⑦) 地域保育学科 (1・2・3・4・5) 文化表現学科 (1・2・3・4)					
授業計画	第1回	内容	相談援助の意義と機能	予習	シラバスを読んでおく	
				復習	相談援助とは何かについてまとめる	
	第2回	内容	相談援助とソーシャルワーク	予習	相談援助とSWの違いについて調べる	
				復習	相談援助とSWの違いについて整理する	
	第3回	内容	相談援助の価値と倫理	予習	相談援助を方向づけるものは何かを調べる	
				復習	SWに何故、倫理が求められるかを整理する。	
	第4回	内容	相談援助の原理・原則①	予習	人権尊重について調べる	
				復習	人権尊重とは何かについて整理する	
	第5回	内容	相談援助の原理・原則②	予習	信頼関係・利用者本位について調べる	
				復習	対等な関係とは何かについて整理する	
	第6回	内容	個別援助技術の定義と原則①	予習	直接援助技術とは何かについて調べる	
				復習	個別・集団援助技術の違いについて整理する	
	第7回	内容	個別援助技術の定義と原則②	予習	バイスティックの7原則について調べる	
				復習	バイスティックの7原則について整理する	
	第8回	内容	相談援助の展開過程	予習	相談援助の展開過程とは何かについて調べる	
				復習	各展開過程について整理し、理解する	
第9回	内容	相談援助の展開過程の事例演習	予習	配布された事例について事前学習しておく		
			復習	事例の展開過程について整理をする		
第10回	内容	相談援助の面接技法①	予習	相談援助面接の目的について調べる		
			復習	相談援助面接の対象者は誰か、整理する		
第11回	内容	相談援助の面接技法②、記録技法	予習	4つの面接形態について調べる		
			復習	各面接形態のメリット・デメリットを整理する		
第12回	内容	個別援助技術の総合事例演習	予習	個別援助技術とは何か、自分なりに考察する		
			復習	各展開過程とは何か、自分なりに整理する		
第13回	内容	集団援助技術の定義と原則①	予習	グループの定義について調べる		
			復習	集団の効果について整理する		
第14回	内容	集団援助技術の定義と原則②	予習	グループワークの基本原則について調べる		
			復習	グループワークの展開過程について整理する		
第15回	内容	総合的相談援助の実際と対応	予習	福祉施設等の保護者の相談内容を調べる		
			復習	福祉施設等の相談援助の実際を整理する		
予習に要する学習時間：概ね25分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね25分を目安とする。						
課題へのフィードバック	課題については、次の授業内で解答を示す。定期試験については、試験終了後に解答を示す。					
成績評価	試験期間における定期試験：実施 (○) する / () しない 成績評価の方法：筆記試験 (50%)、レポート・課題 (20%)、作品・発表 () %、実技 () %、授業態度 (30%)					
教科書	なし					
参考文献	『保育者のための相談援助』(小林育子 小館静枝 日高洋子 萌文書林) 『演習・保育と相談援助』(佐藤伸隆 中西遍彦 みらい) 『社会福祉援助技術』(松本寿昭(編著) 同文書院) 『相談援助の』理論と方法 I (社会福祉士養成編集委員会 中央法規)					
注意事項	授業態度等に問題のある学生については、席の場所変更等の対応をとる。					

科目名	保育相談支援	単位数	1	実務経験	担当教員	こむろ たいじ 小室 泰治
ナバリングコード	SOW1223	授業形態	演習	有・無		
授業の内容	<p>保育者は子どもの養育に関する保護者支援のよき相談相手としての役割が求められている。近年の社会状況の変化に伴い、孤立化した子育てに悩む保護者が増加している。</p> <p>授業では保育相談支援の意義や基本について、保育士の専門性を生かした支援とは何かを考えることを目的とする。また、保育現場や児童施設での支援事例を通して、保育士として保護者を支援するために必要な技能を身に付ける。</p>					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育士が子育て相談を行うことの意義を説明することができる。 2. 保育相談支援の実施方法を説明することができる。 3. 保育所などの児童福祉施設において、保護者支援のあり方について説明することができる。 4. 自己理解を深め、保育者として自分自身のあり方を考えることができる。 					
学位授与方針	幼児教育学科(1・2・③・4・⑤・6・⑦) 地域保育学科(1・2・3・4・5) 文化表現学科(1・2・3・4)					
授業計画	第1回	内容	保育相談とは何か 保育相談の意義について理解する	予習	シラバスを読んでおく	
				復習	この科目で修得すべき内容を理解する	
	第2回	内容	保育相談支援の方法 人間の尊厳を重視した支援の原則を理解する	予習	尊厳について考える	
				復習	支援の原則をまとめる	
	第3回	内容	保護者支援の流れ 相談受理から終結までの流れを理解する	予習	どんな相談があるか調べる	
				復習	相談の流れをまとめる	
	第4回	内容	保護者との関係づくり 保護者に信頼される保育者像を考える	予習	信頼とは何かについて考える	
				復習	信頼される保育者のあり方をまとめる	
	第5回	内容	保育の環境構成を生かした保護者支援 環境構成の原理について理解し、基本となる支援のあり方を事例を通して理解する	予習	日常保育が見える環境構成を考える	
				復習	各種ある構成方法をまとめる	
	第6回	内容	地域の資源活用と関係機関との連携 地域で相談事業を行っている関係機関の役割を理解する	予習	地域にある社会資源を調べる	
				復習	各関係機関の役割をまとめる	
	第7回	内容	地域の子育て相談における相談支援事例 3歳未満の家庭で育つ子どもと保護者の姿を把握し、親子の地域での支援を理解する	予習	子育て支援センターについて調べる	
				復習	子育て支援センターの役割をまとめる	
	第8回	内容	相談事例から考える 子育てに関する相談事例を通して傾聴のあり方、支援のあり方を理解する	予習	傾聴について調べる	
				復習	傾聴とカタルシス効果についてまとめる	
第9回	内容	保護者の養育力向上支援 保護者の養育力を高めるには保育者の資質が重要であることを理解する	予習	養育力とは何かを考える		
			復習	子どもと関わり方の見本の提示をまとめる		
第10回	内容	保護者からの苦情対応 苦情の背景には保育者への不満や家庭が抱える課題がある	予習	どんな苦情があるか考える		
			復習	傾聴する姿勢の効果をもとめる		
第11回	内容	障害のある子どもを持つ保護者への支援 保育所において特別な配慮を要する子どもと家庭への支援を理解する	予習	障害児を持つ保護者の課題を調べる		
			復習	共感的理解の効用をまとめる		
第12回	内容	保護者同士の関係を改善するための支援 ママ友同士のトラブルの解決方法を事例を通して考える	予習	ママ友について考える		
			復習	連絡帳や懇談会の活用を整理する		
第13回	内容	保育所で行われるケースカンファレンス 課題を抱える子どもと保護者への支援のあり方について事例を通して考える	予習	カンファレンスについて考える		
			復習	具体的支援のありかたを整理する		
第14回	内容	子育てサロンや育児サークルの実際 子育て支援センター等で行われる子育てサロンや育児サークルの意義を考える	予習	子育てサロン、育児サークルについて調べる		
			復習	子育てサロンで行う内容をまとめる		
第15回	内容	要保護児童の家庭に対する支援 ハイリスク家庭の早期発見と対応方法	予習	要保護児童について調べる		
			復習	ハイリスク家庭の把握方法を整理する		
予習に要する学習時間：概ね30分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね30分を目安とする。						
課題へのフィードバック	定期試験後解答を示し解説を行う					
成績評価	<p>試験期間における定期試験：実施（○）する</p> <p>成績評価の方法：筆記試験（50%）、発表（50%）</p>					
教科書	『実践・保育相談支援』（青木紀久代 編著、(株)みらい）					
参考文献	<p>『子育てアドバイス実践ノート』（子育てアドバイザー協会、ぎょうせい出版）</p> <p>『クライアント中心療法』（ロジャース、有斐閣新書）</p>					
注意事項	前半からグループワークで事例研究を行う。グループごとに相談事例について討議し、発表してもらおうので積極的に参加し発言できるように心掛けること。					

科目名	保育相談支援	単位数	1	実務経験	担当教員	さいとう しんいち 齋藤 新一
ナバリングコード	SOW1223	授業形態	演習	有・無		
授業の内容	保育相談支援とはどのようなものか、保育相談支援技術を用いての相談の展開の仕方、保育相談支援の援助内容と方法、及び評価方法、具体的な相談内容等について事例を通して学習する。更に、保育所以外の児童福祉施設の保護者支援の在り方についても学習し、専門的スキルの修得を目的とする。					
到達目標	1. 保育相談支援の意義・原則について、保育士が保護者支援を行なうこと、及び子どもの最善の利益を最優先していく中での保護者支援であることを学び、理解している。 2. 保育相談支援の基本姿勢・その限界、適切な関係機関との連携を学び、これらを理解している。 3. 「観察・同感・承認・支持その他の技術」等保育相談支援技術を理解している。 4. 保育所以外の児童福祉施設の保護者支援について学び、その支援内容について理解している。					
学位授与方針	幼児教育学科 (①・②・③・④・⑤・⑥・⑦) 地域保育学科 (1・2・3・4・5) 文化表現学科 (1・2・3・4)					
授業計画	第1回	内容	保護者に対する保育相談支援の意義 何故、保護者に対し、保育士が保護者支援を行なうのか。その必要性。	予習	シラバスを読んでおく	
				復習	保育相談支援を整理する	
	第2回	内容	保育相談支援の原則、保育士の業務と保育相談支援① 保育相談支援の原則、地域子育て支援の原則等。	予習	保育士の業務とは何か調べる	
				復習	国家資格後の保育士を整理する	
	第3回	内容	保育相談支援の原則、保育士の業務と保育相談支援② 保育相談支援と相談援助の違いと相互関連性	予習	保育相談支援と相談援助の違いを調べる	
				復習	保育ソーシャルワークについて整理する	
	第4回	内容	保育相談支援の基本① 子どもの最善の利益、子どもの成長の喜びの共有	予習	保護者に対する基本的姿勢を調べる	
				復習	保育所機能と特性と限界を整理する	
	第5回	内容	保育相談支援の基本② 保護者の養育力の向上、信頼関係の構築等	予習	保護者との信頼関係に必要なものを調べる	
				復習	保護者支援に不可欠なものを整理する	
	第6回	内容	保育相談支援の展開過程 支援の前提から事後評価、終結の各展開過程	予習	保育相談支援の展開過程を調べる	
				復習	各展開過程はどのようなものか整理する	
	第7回	内容	保育相談支援技術① 「観察・情報収集・同感」等	予習	保育技術と保育相談支援技術の違いを調べる	
				復習	受信型技術について整理する	
	第8回	内容	保育相談支援技術② 「承認・支持・気持ちの代弁・伝達」等	予習	発信型技術について調べる	
				復習	発信型技術について整理する	
第9回	内容	保育相談支援技術③ 「解説・方法の提案・対応の提示」等	予習	発信型技術について調べる		
			復習	発信型技術について整理する		
第10回	内容	保育相談支援の実際① 環境を通じた保育相談支援	予習	保育士不在の保育相談支援について調べる		
			復習	保育士・保護者不在の保育相談支援を整理する		
第11回	内容	保育相談支援の実際② 記録の意義、3つの記録文体	予習	叙述体・説明体・要約体記録を調べる		
			復習	各業務記録の文体選定を整理する		
第12回	内容	保育所での日常・特別場面に於ける保育相談支援 送迎時、通信、懇談会、行事等に於ける支援	予習	保育相談支援の日常場面、特別場面を調べる		
			復習	直接的支援と間接的支援の違いを整理する		
第13回	内容	保育相談支援の効果測定と評価 短期的支援評価と長期支援評価の違い	予習	効果測定と評価の違いを調べる		
			復習	短期的支援評価について整理する		
第14回	内容	保育所以外の児童福祉施設に於ける保護者支援 各分野別児童福祉施設の保護者支援内容の違い	予習	各分野児童福祉施設の設置目的・役割を調べる		
			復習	子どもへの理解に欠ける保護者の心情と支援方法を整理する		
第15回	内容	外国籍を有する保護者等への支援 宗教・文化・風習への理解、抱える問題の把握、問題への支援	予習	外国籍保護者の子育ての問題を調べる		
			復習	外国籍保護者との信頼関係構築について整理する		
予習に要する学習時間：概ね25分を目安とする。復習に要する学習時間：概ね25分を目安とする。						
課題へのフィードバック	課題については、次の授業内で解答を示す。定期試験については、試験終了後に解答を示す。					
成績評価	試験期間における定期試験：実施(○)する/()しない 成績評価の方法：筆記試験(50%)、レポート・課題(20%)、作品・発表()%、実技()%、授業態度(30%)					
教科書	なし					
参考文献	『保育相談支援』(柏女霊峰・橋本真紀、ミネルヴァ書房)、『保育相談支援』(小林育子、萌文書林)、『保育所における家庭支援』(金子恵美、全国社会福祉協議会)、『保育所保育指針解説書』(ひかりのくに)、その他の文献・資料等を参考・引用とする場合はその都度紹介していく。					
注意事項	授業態度等に問題のある学生については、席の場所変更等の対応をとる。					

科目名	教育心理学	単位数	2	実務経験	担当教員	おおくま みかこ 大熊 美佳子
ナンバリングコード	EDP1211	授業形態	講義	有・無		
授業の内容	幼児教育において、子どもの発達や学習過程を理解し、子どもへの対応を考えることは非常に重要です。本講義では、教育に関わる子どもの発達、学習のメカニズム、動機づけなど教育心理学の基礎知識を習得することを目的とします。					
到達目標	1. 教育心理学の基本用語を正確に理解している。 2. 子どもの発達や行動を理解するために必要な心理学的視点の基礎を身につけている。 3. 教育者として必要な心理学的な関わり方を身につけている。					
学位授与方針	幼児教育学科 (1・②・3・4・⑤・6・7) 地域保育学科 (1・2・3・4・5) 文化表現学科 (1・2・3・4)					
授業計画	第1回	内容	教育心理学とは ガイダンスと導入として教育心理学を学ぶ意味	予習	シラバスを読んでおく	
				復習	子どもにとって教育とは何かをまとめる	
	第2回	内容	子ども観の変容	予習	“子ども”の捉え方について調べる	
				復習	子ども観の歴史的変容についてまとめる	
	第3回	内容	発達課題	予習	発達課題について調べる	
				復習	年齢ごとの発達課題についてまとめる	
	第4回	内容	認知発達	予習	認知発達について調べる	
				復習	年齢ごとの認知の発達についてまとめる	
	第5回	内容	学習理論① 学習とは何か	予習	心理学における学習の意味について調べる	
				復習	心理学における学習についてまとめる	
	第6回	内容	学習理論② 条件づけ	予習	学習理論の条件付けとは何かについて調べる	
				復習	古典的・道具的条件づけについてまとめる	
	第7回	内容	学習理論③ 社会的学習理論について	予習	社会的学習理論とは何かについて調べる	
				復習	社会的学習理論についてまとめる	
	第8回	内容	第1回小テスト 子どものやる気①動機づけ理論について	予習	第7回までの復習をする	
				復習	動機づけ理論についてまとめる	
第9回	内容	子どものやる気② 意欲と無気力	予習	意欲を高めるために必要なことを考える		
			復習	意欲と学習性無気感についてまとめる		
第10回	内容	子どものやる気③ 褒めること、叱ること	予習	子どもの褒め方、叱り方について考える		
			復習	よりよい褒め方叱り方をまとめる		
第11回	内容	子どもの個性を理解する① パーソナリティ理論	予習	自分自身のパーソナリティについて考える		
			復習	パーソナリティ理論についてまとめる		
第12回	内容	子どもの個性を理解する② 知能について	予習	知能とは何かについて考える		
			復習	知能の測定と評価についてまとめる		
第13回	内容	教育環境と移行期への対応	予習	小学校入学に向けての課題について考える		
			復習	移行期の問題についてまとめる		
第14回	内容	教育方法 教授方法と評価について	予習	教育方法について調べる		
			復習	各種の教育方法と評価方法についてまとめる		
第15回	内容	第2回小テスト まとめ	予習	第14回までの復習をする		
			復習	幼児教育について必要な視点をまとめる		
予習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。						
課題へのフィードバック	授業内で小テストを実施し、テスト後、解説を行います。					
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法：筆記試験（60%）、レポート・課題（20%）、授業態度（20%）					
教科書	特になし					
参考文献	講義の中で適宜紹介します。					
注意事項	講義形式で行います。 将来教育現場で子どもに関わるために必要な知識を身につけるために、講義の内容を具体的にイメージしながら理解を深めてください。					

科目名	教育心理学	単位数	2	実務経験	担当教員	よしだ えり 吉田 恵理
ナンバリングコード	EDP1211	授業形態	講義	有・無		
授業の内容	幼児教育に携わるにあたり、人間の発達や学習について理解を深めることを目的とする。教育方法や幼児に対する理解・考え方を深め、これからの教育とはどうあるべきかを考えるとともに、自分自身を理解するきっかけとしてもらいたい。					
到達目標	1. こどもの発達についての基礎知識を身につけている 2. 学習や個人差について理解している 3. 保育の現場において重要な心理学の基礎的知識を習得している					
学位授与方針	幼児教育学科 (1・②・3・4・⑤・6・⑦) 地域保育学科 (1・2・3・4・5) 文化表現学科 (1・2・3・4)					
授業計画	第1回	内容	ガイダンス、導入	予習	シラバスを読んでおく	
				復習	この科目で習得すべき内容を理解する	
	第2回	内容	現代社会と子どもの発達	予習	自分の幼少期の過ごし方についてまとめる	
				復習	現代の子どもの特徴についてまとめる	
	第3回	内容	発達のとらえ方	予習	子どもの発達過程について調べる	
				復習	子どもの発達過程についてまとめる	
	第4回	内容	論理的思考	予習	子どもと大人の考え方の違いについて考える	
				復習	心の理論やその発達について理解する	
	第5回	内容	覚えること(記憶のメカニズムや発達)	予習	自分の普段の記憶方略について考える	
				復習	記憶のメカニズムや種類についてまとめる	
	第6回	内容	社会性	予習	ピアジェの提唱した発達課題について復習	
				復習	道徳的判断の発達についてまとめる	
	第7回	内容	自己概念とパーソナリティ	予習	自分の性格について考えておく	
				復習	テストをもとに、自分の性格傾向を理解する	
	第8回	内容	学習への動機づけ	予習	自分のやる気を出す方法について考える	
				復習	欲求や動機づけについて理解する	
第9回	内容	子どもの自己制御	予習	子どもの普段の行動や我慢について考える		
			復習	子どもの自己制御についてまとめる		
第10回	内容	学級という集団	予習	今までの学校集団生活経験について考える		
			復習	集団の種類や発達について理解する		
第11回	内容	学習と学習形態	予習	学習方法について知っていることをまとめる		
			復習	学習の原理や方法について理解する		
第12回	内容	発達障害と学習支援	予習	発達障害について知っていることをまとめる		
			復習	発達障害や支援方法について理解しまとめる		
第13回	内容	知能	予習	知能検査について知っていることをまとめる		
			復習	知能や測定方法について理解する		
第14回	内容	教育評価	予習	教育の効果について考える		
			復習	教育評価の目的と方法について理解する		
第15回	内容	第1回～第14回の総まとめ	予習	レジュメが揃っているか確認し読み返す		
			復習	保育の現場にどのように生きるか考える		
予習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。						
課題へのフィードバック	リアクションペーパーは次回授業時にフィードバックを行う。試験後は解答を示し、解説と総まとめを行う。					
成績評価	試験期間における定期試験：実施(○)する/()しない 成績評価の方法：筆記試験(50%)、レポート・課題(30%)、授業態度(20%)					
教科書	特になし					
参考文献	『やさしい発達と学習』(外山紀子・外山美樹、有斐閣) 『子どものこころ—児童心理学入門』(櫻井茂男・濱口佳和・向井隆代、有斐閣)					
注意事項	毎回授業中および授業終了後にリアクションペーパーの記入・提出を求め、評価に含めるものとする。					

科目名	社会的養護		単位数	2	実務経験	担当教員 しのはら あみ 志濃原 亜美
ナバリングコード	SOW1211	授業形態	講義	有・無		
授業の内容	社会福祉、児童家庭福祉の中の社会的養護の位置を理解し、特に施設における日常生活援助、施設における専門職について学びを深める。また、施設保育士の専門性と特別な配慮を要する子どもや家庭への援助について学び、さらに施設の中で行われるリービングケア、アフターケアなどの現状についても学習する。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 施設養護の体系や援助過程について理解できる 2. レジデンシャル・ソーシャルワークの視点から施設保育士の専門性、特別な配慮を要する子どもへの援助や保護者への相談の在り方など理解できる 3. 子どもの権利擁護について理解し、実践で役立てることができる。 					
学位授与方針	幼児教育学科（1・②・3・4・⑤・6・7）地域保育学科（1・2・3・4・5）文化表現学科（1・2・3・4）					
授業計画	第1回	内容	オリエンテーション（授業の概要の説明、持ち物確認、履修上の注意、自己紹介、授業を受けるに当たっての心構えについての確認等）		予習	シラバスを読んでおく
					復習	この科目で習得すべき内容を理解し、持ち物を確認する
	第2回	内容	社会的養護の理念と意義		予習	社会的養護の理念のプリントの穴埋めを完成させる
					復習	社会的養護の理念や意義についてのおおまかな理解をする。
	第3回	内容	子どもの権利と社会的養護		予習	子どもの権利のプリントの穴埋めを完成させる
					復習	子どもの権利の具体的な内容を理解する
	第4回	内容	保育士の倫理・責務		予習	倫理・責務についてのプリントの穴埋めを完成させる
					復習	保育士の職務上の意倫理や責務について理解する
	第5回	内容	社会的養護の制度と実施体系①（施設養護の制度）		予習	社会的養護の制度のプリントの穴埋めを完成させる
					復習	施設養護の制度を理解する
	第6回	内容	社会的養護の制度と実施体系②（移設養護の実施体系）		予習	社会的養護の実施体系のプリントの穴埋めを完成させる
					復習	社会的養護の実施体系を理解する
	第7回	内容	VTR（ぶどうの木・・・里親に関する内容）課題感想文		予習	今まで習った社会的養護の学びを概観する
					復習	課題：感想文を書く
	第8回	内容	施設養護にかかわる専門職士		予習	施設養護の専門職のプリントの穴埋めを完成させる
復習					施設養護の専門職について理解する	
第9回	内容	施設養護の実際①（アドミッションケアとインケア）		予習	施設養護の実際のプリントの穴埋めを完成させる	
				復習	それぞれの用語について理解を深める	
第10回	内容	施設養護の実際②（リービングケアとアフターインケア）	中間レポート	予習	施設養護の実際のプリントの穴埋めを完成させる	
				復習	それぞれの用語について理解を深める	
第11回	内容	子育て困難家庭の実際と支援		予習	子育て困難家庭と支援についての穴埋めプリントを完成させる	
				復習	子育て困難家庭について知り、その支援を理解する	
第12回	内容	DVケースと児童虐待へのソーシャルワークについて視点①（DVケース）		予習	DVの種類。法制度の穴埋めプリントを完成させる	
				復習	DVの種類や法制度を理解する	
第13回	内容	DVケースと児童虐待へのソーシャルワークについて視点①（児童虐待ケース）		予習	児童虐待ケースについての穴埋めプリントを完成させる	
				復習	児童虐待へのソーシャルワークについてまとめる	
第14回	内容	小テスト、VTR（施設に関するもの）		予習	小テストに向けての学習	
				復習	小テストで出題された個所の確認	
第15回	内容	小テスト返却、解説、まとめ		予習	VTRの感想文を書く	
				復習	子どもと家庭福祉とはなにかをまとめる	
予習に要する学習時間：概ね 30分を目安とする。復習に要する学習時間：概ね 30分を目安とする。						
課題へのフィードバック	小テストの解説と返却、レポートの返却を行います					
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法：筆記試験（50%）、レポート・課題（40%）、作品・発表（ %）、実技（ %）、授業態度（10%）					
教科書	『よりそい支える社会的養護』（監修中山正雄/編著浦雅夫、教育情報出版）					
参考文献	適宜紹介する					
注意事項	特別なケアを要する子どもについての書籍等を積極的に読むこと					

科目名	社会的養護	単位数	2	実務経験	担当教員	まんどろ あきお 萬燈 章雄
ナンバリングコード	SOW1211	授業形態	講義	有・無		
授業の内容	社会的養護を必要としている子どもたちへの理解を深める。また、社会的養護の支援フレームについて学習するとともに、特有の課題及び特性についても理解する。課題を抱えながら生活する子どもたちに、本来もつ権利を守りながら保育士としてどのように関わり、支援していくのかを学習する。					
到達目標	1. 社会的養護を必要としている子どもたちの現状を理解している。 2. 「子どもの最善の利益」とは何かを知り、支援者がどのようなスタンスで望めばよいのかを習得している。 3. 社会的養護に携わる保育士の倫理と責務を身につけている。					
学位授与方針	幼児教育学科 (1・②・3・4・⑤・6・7) 地域保育学科 (1・2・3・4・5) 文化表現学科 (1・2・3・4)					
授業計画	第1回	内容	オリエンテーション～事例提供 社会的養護に携わる支援者のあり方	予習	シラバスに目を通すこと	
				復習	支援者の基本的スタンスについて理解する	
	第2回	内容	子ども親の変遷と社会的養護の歴史について	予習	こども親とは何かについて調べる	
				復習	社会的養護の歴史についてまとめる	
	第3回	内容	社会的養護 問題の本質 家庭養護のあり方と社会の受け止め方	予習	少子高齢社会について調べる	
				復習	家庭環境と養育意識の変化についてまとめる	
	第4回	内容	社会的養護の仕組み 児童相談所と「措置」制度について	予習	措置制度について調べる	
				復習	児童相談所の機能と役割についてまとめる	
	第5回	内容	児童福祉施設について 児童福祉法で定める施設について	予習	児童福祉施設の根拠規定について調べる	
				復習	児童福祉施設の施設基準についてまとめる	
	第6回	内容	里親制度・親権と養子縁組について	予習	里親制度について調べる	
				復習	里親や養子縁組制度についてまとめる	
	第7回	内容	社会的養護実践のための専門的技術について (概要)	予習	施設の生活について調べておく	
				復習	専門的な技術について概要をまとめる	
	第8回	内容	社会的養護の概念及び仕組みについて 中間まとめ 理解度チェックとレポート	予習	これまでの内容について復習する	
				復習	具体的な課題について整理する	
第9回	内容	アタッチメントについて 「子どもの安全基地」について	予習	ジョン・ボウルビィについて調べる		
			復習	安全基地についてまとめる		
第10回	内容	児童虐待と社会的養護 虐待の現状と子どもの気持ち	予習	虐待死事件について調べてみる		
			復習	被虐待児の気持ちについて考えてみる		
第11回	内容	「施設の小規模化」について なぜ今里親委託推進なのか?	予習	施設の小規模化について調べる		
			復習	小規模化の特徴についてまとめる		
第12回	内容	演習 アセスメント(ジェノグラム・エコマップ) の基本と記録の書き方について	予習	ジェノグラムについて調べる		
			復習	アセスメントについてまとめてみる		
第13回	内容	演習 「情報の共有」について 事例のアセスメント 情報を整理し共有する	予習	アセスメントについて復習しておく		
			復習	事例整理の方法についてまとめる		
第14回	内容	「子どもの最善の利益」と権利擁護	予習	児童の権利に関する条約を調べる		
			復習	子どもの権利擁護についてまとめる		
第15回	内容	今後の社会的養護の方向性について 最終まとめ 理解度チェックとレポート	予習	これまでの内容について今一度復習する		
			復習	具体的な課題について整理する		
予習に要する学習時間：概ね60分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね120分を目安とする。						
課題へのフィードバック	作成したレポート、事例整理、中間まとめチェックについてはコメントをつけて原則各自に返却します。 最終まとめチェックについては課題整理に関する具体的資料を配付します。					
成績評価	試験期間における定期試験：実施()する/ (○)しない 成績評価の方法： 筆記試験()%、レポート・課題(50%)、作品・発表()%、実技()%、授業態度(50%)					
教科書	なし					
参考文献	授業中に適宜お知らせします。					
注意事項	授業をとおして子どもの命・生活・権利を守る支援者の基本的スタンスを学んで欲しい。 受講マナーは守り、積極的な参加を期待します。基本、プリント資料配布で授業をすすめます。					

科目名	発達心理学	単位数	2	実務経験	担当教員 おおくま みかこ 大熊 美佳子
ナバリングコード	EDP1212	授業形態	講義	有・無	
授業の内容	発達とは、人と人を取りまく社会との相互作用による共有事象です。発達を捉える広い視野を身につけるために、発達過程を正しく理解し、子どもの発達にまつわる事例について、理論的背景を確認しながら、必要な知識と工夫を身につけ、子育てや教育の現場に活かしていけるように、学びを深めていくことを目的とします。				
到達目標	1. 生涯発達の考え方を基本に、人間の発達過程について理解している。 2. 子どもの発達を理解するために必要な基礎知識を身につけている。 3. 保育者としての自己理解をしている。				
学位授与方針	幼児教育学科 (1・②・3・4・⑤・6・7) 地域保育学科 (1・2・3・4・5) 文化表現学科 (1・2・3・4)				
授業計画	第1回	内容	発達とは何か	予習	シラバスを読んでおく
				復習	発達とは何かをまとめる
	第2回	内容	比較行動学からみた発達	予習	ヒト以外の動物の発達について考える
				復習	ヒトの発達の特徴についてまとめる
	第3回	内容	遺伝と環境	予習	遺伝と環境の影響について調べる
				復習	遺伝と環境に関する考え方についてまとめる
	第4回	内容	フロイト・エリクソンの発達理論	予習	フロイトとエリクソンについて調べる
				復習	両者の理論を年齢ごとに整理する
	第5回	内容	ボウルヴィのアタッチメント理論	予習	アタッチメント理論について調べる
				復習	前回内容に加えて年齢ごとに理論を整理する
	第6回	内容	小テスト 個体発達の過程①(胎児期)	予習	第5回までの復習をする
				復習	胎児期の発達の特徴についてまとめる
	第7回	内容	個体発達の過程②(新生児、乳児期)	予習	新生児、乳児期の発達について調べる
				復習	新生児、乳児期の発達の特徴についてまとめる
	第8回	内容	個体発達の過程③(1歳までの成長：映画)	予習	1歳までの発達過程を確認しておく
				復習	映画の感想をまとめる
第9回	内容	個体発達の過程④(タドラー期)	予習	タドラー期の発達について調べる	
			復習	タドラー期の発達の特徴についてまとめる	
第10回	内容	個体発達の過程⑤(幼児期前半)	予習	4歳までの発達について調べる	
			復習	4歳までの発達の特徴についてまとめる	
第11回	内容	個体発達の過程⑥(幼児期後半)	予習	6歳までの発達について調べる	
			復習	6歳までの発達の特徴についてまとめる	
第12回	内容	個体発達の過程⑥(児童期)	予習	児童期の発達について調べる	
			復習	児童期の発達の課題についてまとめる	
第13回	内容	個体発達の過程⑦(思春期・青年期)	予習	思春期・青年期の発達について調べる	
			復習	思春期・青年期の発達の課題についてまとめる	
第14回	内容	個体発達の過程⑧(成人期・老年期)	予習	成人期・老年期の発達について調べる	
			復習	成人期・老年期の発達の課題についてまとめる	
第15回	内容	小テスト まとめ	予習	第14回までの復習をする	
			復習	生涯発達について学んだことをまとめる	
予習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。					
課題へのフィードバック	授業内で小テストを実施し、テスト後、解説を行います。				
成績評価	試験期間における定期試験：実施()する/ (○)しない 成績評価の方法：筆記試験(60%)、レポート・課題(20%)、授業態度(20%)				
教科書	特になし				
参考文献	講義の中で適宜紹介します。				
注意事項					

科目名	保育の心理学		単位数	1	実務経験	担当教員 みよし ちから 三好 力
ナバリンコート*	EDP1221	授業形態	演習	有・無		
授業の内容	既習の知識を基に、様々な保育場面における対応を考えていく。 演習形式で授業を行うため、個人でのワーク、グループワーク、発表などを行っていく。 自ら考えることと集団で考えることで多様な価値観を身につけていけるようにしていく。					
到達目標	発達心理学や教育心理学の知識を基に保育実践に対して応用していく力を身につける。 1. 子どもの心身の発達と保育実践について理解を深め、現場で応用することができる。 2. 生活と遊びを通して学ぶ子どもの経験や学習の過程を理解し、対応することができる。 3. 保育における発達援助について自ら考えることができる。					
学位授与方針	幼児教育学科 (①・②・③・④・⑤・⑥・⑦) 地域保育学科 (1・2・3・4・5) 文化表現学科 (1・2・3・4)					
授業計画	第1回	内容	イントロダクション：保育者を目指す者	予習	既習の発達心理学の内容について確認	
				復習	振り返りの記録をつける	
	第2回	内容	子ども理解における発達の把握 集団討論	予習	教科書 pp. 10-13 を読むこと。	
				復習	教科書と再度照らし合わせる。	
	第3回	内容	環境としての保育者と子どもの発達 集団討論	予習	配付する資料を事前に確認しておく。	
				復習	教科書と再度照らし合わせる。	
	第4回	内容	子ども相互の関わりと関係作り：言葉の発達 集団討論	予習	教科書 P. 13 のキーワードを調べる。	
				復習	教科書と再度照らし合わせる。	
	第5回	内容	アクティビティ I (コミュニケーション)	予習	コミュニケーションとは何かを考えておく。	
				復習	振り返りの記録をつける	
	第6回	内容	自己主張と自己統制 集団討論	予習	教科書 pp. 22-23 を読むこと。	
				復習	教科書 pp. 30-33 を読むこと。	
	第7回	内容	子ども集団と保育の環境：社会性の情緒発達 集団討論	予習	教科書 pp. 38-43 を読むこと。	
				復習	教科書と再度照らし合わせる。	
	第8回	内容	子どもの生活と学び 集団討論	予習	教科書 pp. 50-51 を読むこと。	
				復習	教科書と再度照らし合わせる。	
第9回	内容	アクティビティ II (討論力を高める)	予習	配付する資料を事前に確認しておく。		
			復習	振り返りの記録をつける		
第10回	内容	子どもの遊びと学び 集団討論	予習	教科書 pp. 56-57 を読むこと。		
			復習	教科書と再度照らし合わせる。		
第11回	内容	生涯にわたる生きる力の基礎を培う 集団討論	予習	教科書 pp. 62-63 を読むこと。		
			復習	教科書と再度照らし合わせる。		
第12回	内容	発達の課題に応じた援助や関わり：子どもの個人差に配慮した保育 集団討論	予習	教科書 pp. 70-71 を読むこと。		
			復習	教科書と再度照らし合わせる。		
第13回	内容	アクティビティ III (協力する力を高める)	予習	配付する資料を事前に確認しておく。		
			復習	振り返りの記録をつける		
第14回	内容	現代社会における子どもの発達と保育の課題：家族支援 集団討論	予習	教科書 pp. 84-89 を読むこと。		
			復習	教科書と再度照らし合わせる。		
第15回	内容	現代社会における子どもの発達と保育の課題：保育におけるカウンセリングマインド 集団討論	予習	教科書 pp. 104-109 を読むこと。		
			復習	教科書と再度照らし合わせる。		
	予習に要する学習時間：概ね 30分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね 30分を目安とする。					
課題へのフィードバック	課題は授業内で完結するので、毎回の授業内の発表により各自でまとめる。					
成績評価	試験期間における定期試験：実施 () する / (○) しない 成績評価の方法：筆記試験 () %、レポート・課題 (60%)、作品・発表 (30%)、実技 () %、授業態度 (10%)					
教科書	『実践・発達心理学ワークブック』(青木紀久代・矢野由佳子編、株式会社みらい)					
参考文献						
注意事項	授業中の私語、携帯電話、飲食は禁止。好ましくない者は注意の上で授業態度を減点し、場合によっては退出、授業出席を停止させることもありますので注意してください。 積極的な授業参加を評価します。ディスカッションなどの参加が見られない場合は減点します。					

科目名	保育の心理学		単位数	1	実務経験	担当教員 おおくま みかこ 大熊 美佳子
ナバリングコード	EDP1221	授業形態	演習	有・無		
授業の内容	発達心理学の学習を踏まえ、保育現場で要求される適切な発達援助を行う実践力を養うために、実践的な演習を行います。具体的な保育場面を想定し、子どもの心身の発達に即した保育者の関わり方や配慮について解説し、学びを深めるために事例検討、グループワーク等を行います。					
到達目標	1. 子どもの心身の発達に即した保育実践のあり方について理解する 2. 保育現場での子ども理解や保育者の対応について自ら考えることができる 3. 保育における発達援助を行う実践力を身につけている					
学位授与方針	幼児教育学科 (1・2・3・④・⑤・6・7) 地域保育学科 (1・2・3・4・5) 文化表現学科 (1・2・3・4)					
授業計画	第1回	内容	ガイダンス	予習	シラバスを読んでおく	
				復習	この科目で習得すべき内容を理解する	
	第2回	内容	子ども理解における発達の把握	予習	発達心理学で学んだ理論を見直してくる	
				復習	子ども理解に必要な発達の視点をまとめる	
	第3回	内容	個人差や発達過程に応じた発達の把握	予習	個人差に関わる保育事例を収集する	
				復習	事例研究から見えた発達差についてまとめる	
	第4回	内容	身体感覚を伴う多様な経験と環境の相互作用	予習	身体感覚を伴う活動について調べる	
				復習	多様な活動を支える保育環境をまとめる	
	第5回	内容	環境としての保育者と子どもの感覚	予習	保育環境整備に必要な視点を考える	
				復習	子どもの感覚を育む環境についてまとめる	
	第6回	内容	子ども相互の関わりと関係づくり	予習	子ども相互の関わり事例を収集する	
				復習	子どもの人間関係を育む視点をまとめる	
	第7回	内容	子ども集団と保育の環境	予習	集団生活で経験できることを考える	
				復習	集団活動を支える環境整備についてまとめる	
	第8回	内容	子どもの生活・遊びと学び	予習	年齢ごとの遊びと活動について調べる	
				復習	発達に応じた遊びと学びについてまとめる	
第9回	内容	自己主張と自己抑制	予習	自己主張と自己抑制の事例を収集する		
			復習	事例に応じた対応の仕方を確認する		
第10回	内容	基本的生活習慣の獲得と発達援助	予習	基本的生活習慣の獲得過程を確認する		
			復習	発達援助の具体例についてまとめる		
第11回	内容	自己の主体性の形成と発達援助	予習	幼児の主体性について考える		
			復習	幼児の主体性発達の促す要因をまとめる		
第12回	内容	発達の課題に応じた援助や関わり	予習	発達の課題の事例を収集する		
			復習	課題に応じた援助や関わり方をまとめる		
第13回	内容	発達の連続性と就学への援助	予習	実習で学んだ就学に向けての課題を考える		
			復習	就学に向けての援助の仕方をまとめる		
第14回	内容	現代社会における子どもの発達と保育の課題	予習	現代社会の保育の課題を考えてくる		
			復習	保育課題解決に必要な視点をまとめる		
第15回	内容	課題の発表とまとめ	予習	課題を完成し発表の準備をする		
			復習	課題の発表を聞いて学んだことをまとめる		
予習に要する学習時間：概ね20分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね25分を目安とする。						
課題へのフィードバック	提出した課題についてコメントを行う					
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法： レポート・課題（50%）、発表（20%）、授業態度（30%）					
教科書	なし					
参考文献	授業の中で適宜紹介します					
注意事項	授業に積極的に取り組み、日頃から乳幼児に関心を持ち、実習等での経験を授業の内容と照らし合わせて心理学的な視点を養うように意識してください。					

科目名	保育の心理学	単位数	1	実務経験	担当教員	いとう あきよし 伊藤 明芳
ナンバリングコード	EDP2221	授業形態	演習	有・無		
授業の内容	本講義では、発達心理学と教育心理学等の基礎的知識の獲得と現場で生きる実践的能力の応用を図ることを目的とする。保育方法の工夫への手立て、家庭や保護者との関わり、保育者自身の心の安定と成長等にもアプローチしたいと考えている。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 発達心理学、教育心理学等の基本および発展的知識を正確に習得している。 2. 学んだ知識を活用して、実際の保育現場の子どもの心の発達等について考えられる力を身につけている。 3. 学んだ知識を子育て支援に活かすことができる。 					
学位授与方針	幼児教育学科（1・2・3・4・5・6・7）地域保育学科（①・②・3・④・5）文化表現学科（1・2・3・4）					
授業計画	第1回	内容	イントロダクション	予習	シラバスを読み、授業計画を把握する。	
				復習	授業内容と評価方法について理解する。	
	第2回	内容	保育の心理学の基礎① [発達理論]	予習	発達理論について調べる。	
				復習	発達理論について理解し整理する。	
	第3回	内容	保育の心理学の基礎② [発達理論]	予習	その他の発達理論について調べる。	
				復習	発達理論について理解し整理する。	
	第4回	内容	保育の心理学の基礎③ [教育心理学の理論等]	予習	教育心理学の理論等について調べる。	
				復習	教育心理学の理論等について理解し整理する。	
	第5回	内容	保育の心理学の基礎④ [教育心理学の理論等]	予習	その他の教育心理学の理論等について調べる。	
				復習	教育心理学の理論等について理解し整理する。	
	第6回	内容	知的機能	予習	知的機能について調べる。	
				復習	知的機能について理解し整理する。	
	第7回	内容	情緒	予習	情緒について調べる。	
				復習	情緒について理解し整理する。	
	第8回	内容	社会性	予習	社会性について調べる。	
				復習	社会性について理解し整理する。	
第9回	内容	発達障害 [発達障害とは何か] ①	予習	発達障害について調べる。		
			復習	発達障害について理解し整理する。		
第10回	内容	発達障害 [発達障害の種類] ②	予習	発達障害の種類について調べる。		
			復習	発達障害の種類について理解し整理する。		
第11回	内容	発達障害 [発達障害への対応] ③	予習	発達障害への対応について調べる。		
			復習	発達障害への対応について理解し整理する。		
第12回	内容	子どもの発達への関わりと保育方法の工夫	予習	子どもの発達について調べる。		
			復習	発達への関わりと工夫について理解し整理する。		
第13回	内容	家庭、保護者、他機関等との連携	予習	連携について調べる。		
			復習	他者・他機関との連携について理解し整理する。		
第14回	内容	保育者自身の心の健康	予習	心の健康について調べる。		
			復習	保育者の心の健康について理解し整理する。		
第15回	内容	まとめと今後へのアドバイス	予習	本講義全体の学びと疑問点を整理する。		
			復習	学んだ知見の活用について考察をする。		
予習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。						
課題へのフィードバック	受講生に対して、主に個別に試験やレポートの成績のフィードバックをおこなう。					
成績評価	試験期間における定期試験：実施（○）する／（ ）しない 成績評価の方法：筆記試験（60%）、レポート・課題（20%）、授業態度（10%）					
教科書	特に指定しない。					
参考文献	講義の際に随時紹介する。					
注意事項	講義を中心におこなう。実際の事例などをあげ、受講生にわかりやすい内容を心がけたい。その他、事例やビデオ視聴等で理解を深め、さまざまな知見等を保育の実践に活かすことを考える。受講者には自ら学び考える意欲をもって授業に参加する態度が求められる。					

科目名	教育社会学	単位数	2	実務経験	担当教員	はやさか 早坂 めぐみ
ナンバリングコード	SOE1211	授業形態	講義	有・無		
授業の内容	公教育制度の成立・展開を理解したうえで、教育に関わる現代的課題や子どもをめぐる諸問題について、社会学的視点から多角的に捉える。自身の教育に関する体験や子ども観、理想の保育者像について捉え直し、自己と社会との関わりに対する理解を深める。					
到達目標	1. 現代の学校と社会の関わりを理解するために、教育制度に関する基礎的知識を習得している。 2. 現代日本における教育上の諸問題について構造的に理解している。 3. 学校安全および地域連携に関する基礎的知識を習得している。 4. 保育者や教員の果たす役割について様々な視点から捉えることができる。					
学位授与方針	幼児教育学科（1・2・③・④・⑤・6・7）地域保育学科（1・2・3・4・5）文化表現学科（1・2・3・4）					
授業計画	第1回	内容	イントロダクション—教育とは何か、教育社会学とはどのような学問か	予習	教育という言葉の意味を調べてまとめる	
				復習	教育社会学の特徴をノートにまとめる	
	第2回	内容	教育制度① 公教育制度の成立と理念	予習	公教育という言葉の意味を調べてまとめる	
				復習	配布資料の内容をノートにまとめる	
	第3回	内容	教育制度② 社会の変化と教育政策	予習	教育社会学の書籍を図書館で調べ、読む①	
				復習	配布資料の内容をノートにまとめる	
	第4回	内容	子どもの社会化① 家族と子ども	予習	教育社会学の書籍を図書館で調べ、読む②	
				復習	配布資料の内容をノートにまとめる	
	第5回	内容	子どもの社会化② 学校、地域、子ども	予習	教育社会学の書籍を図書館で調べ、読む③	
				復習	社会化概念の要点と重要性をまとめる	
	第6回	内容	職業的社会化—実習生について考える ＜グループワーク＞	予習	教育実習での出来事を思い出し、記述する	
				復習	職業的社会化の観点から予習をまとめ直す	
	第7回	内容	子どもの「見えない」貧困と貧困対策の制度 ＜グループワーク＞	予習	貧困の意味を調べ、イメージを記述する	
				復習	子どもの「見えない」貧困の要点をまとめる	
	第8回	内容	子どもの安心・安全と「教育」	予習	レポートのテーマについて考え、書き出す	
				復習	教育に対するイメージの変化を記述する	
第9回	内容	学校における友人関係の諸問題—いじめ、スクールカースト、「優しい関係」	予習	友人関係の悩みについてノートに書き出す		
			復習	授業内容をもとに予習内容を再考する		
第10回	内容	レポートの書き方の説明、少年犯罪についての認識とメディア＜グループワーク＞	予習	少年犯罪のイメージをノートに書き出す		
			復習	レポートに使用する論文を読み、まとめる①		
第11回	内容	関係性と暴力	予習	レポートに使用する論文を読み、まとめる②		
			復習	暴力とはどのような力かをノートにまとめる		
第12回	内容	依存症から社会のあり方を考える	予習	レポートに使用する論文を読み、まとめる③		
			復習	授業資料の要点をノートにまとめる		
第13回	内容	「恋愛結婚」は当たり前か	予習	レポートを執筆する①		
			復習	戦後家族モデルの特徴をノートにまとめる		
第14回	内容	ジェンダー—本学の建学の精神について再考する＜グループワーク＞	予習	レポートを執筆する②		
			復習	建学の精神に対する考えの変化をまとめる		
第15回	内容	まとめ＜グループワーク＞	予習	ノートを読み返し、これまでの学びをまとめる		
			復習	グループワークの成果をノートにまとめる		
予習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。						
課題へのフィードバック	提出されたレポートについて、コメントする。					
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法： レポート（50%）、課題（30%）、授業態度（20%）					
教科書	なし					
参考文献	『社会学ドリル』（中村英代、新曜社）、『半径5メートルからの教育社会学』（片山悠樹・内田良・古田和久・牧野智和編、大月書店）					
注意事項	授業内で出された課題は、授業時間内に作成・提出すること。授業で配布されたプリントは、各自ファイルにまとめて保管すること。グループワークやディスカッションには積極的に参加すること。					

科目名	臨床心理学	単位数	2	実務経験	担当教員	みよし ちから 三好 力
ナンバリングコード	CLP1222	授業形態	講義	有・無		
授業の内容	臨床心理学は応用心理学の一つである。心の悩みを解決し、人間を幸せにする学問ともいわれている。現代社会にはさまざまな心の問題が存在する。私たちが、人の心を理解しようと試みたり、心の問題に向き合おうとするとき、臨床心理学はそれらの試みをサポートしてくれる。本講義では、臨床心理学の基礎的知識の習得と現場で生きる臨床心理学の実践的能力の育成を図る。さらに、保育者自身の心の安定と成長にもアプローチしたいと考えている。					
到達目標	1. 臨床心理学の基礎的知識を習得している。 2. 学んだ知識を活用して、心の問題について、自分なりに考えられる力を身につけている。 3. 学んだ知識を使って、子どもや保護者の心の問題理解と支援に役立てられる。					
学位授与方針	幼児教育学科 (①・②・③・④・⑤・⑥・⑦) 地域保育学科 (1・2・3・4・5) 文化表現学科 (1・2・3・4)					
授業計画	第1回	内容	臨床心理学についての概要 現代社会のこころの問題を考えてみる	予習	現代社会のこころの問題を考えてみる	
				復習	現代社会のこころの問題を振り返る	
	第2回	内容	精神障害① 抑うつ障害	予習	抑うつ障害について調べる	
				復習	抑うつ障害について確認する	
	第3回	内容	精神障害② 不安障害	予習	不安障害について調べる	
				復習	不安障害について確認する	
	第4回	内容	精神障害③ 統合失調症	予習	統合失調症について調べる	
				復習	統合失調症について確認する	
	第5回	内容	精神障害④ 心的外傷後ストレス障害	予習	PTSDについて調べる	
				復習	PTSDについて確認する	
	第6回	内容	発達臨床心理学について 発達初期のこころの問題について考えてみる	予習	既習の発達心理学の内容を確認する	
				復習	既習の発達心理学の内容について確認する	
	第7回	内容	発達障害① 知的障害・自閉症スペクトラム	予習	知的障害について調べる	
				復習	知的障害について確認する	
	第8回	内容	発達障害② ADHD・LD	予習	ADHD, LD について調べる	
				復習	ADHD, LD について確認する	
第9回	内容	確認小テスト フィードバック	予習	ここまでの内容について試験勉強する		
			復習	テストで出た内容を照らし合わせ確認する		
第10回	内容	臨床心理学の理論と方法① 精神分析	予習	精神分析について調べる		
			復習	精神分析について確認する		
第11回	内容	臨床心理学の理論と方法② 人間性心理学	予習	ロジャースについて調べる		
			復習	ロジャースの理論について確認する		
第12回	内容	心理アセスメント 知能テスト、パーソナリティテスト、質問紙法と投影法について	予習	心理テストについて調べる		
			復習	心理アセスメントについて確認する		
第13回	内容	身近なこころの問題	予習	身近な心の問題について考える		
			復習	授業で学んだことと照らし合わせ確認する		
第14回	内容	確認小テスト フィードバック	予習	ここまでの内容について試験勉強する		
			復習	テストで出た内容を照らし合わせ確認する		
第15回	内容	現代社会と臨床心理学 サブカルチャーの中にもみられる臨床心理学的問題から考えてみる	予習	サブカルチャーと精神性について調べる		
			復習	自分の考えをまとめてみる		
予習に要する学習時間：概ね 90 分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね 90 分を目安とする。						
課題へのフィードバック	2回の小テストを実施し、その後に行う。 レポートについては意見レポートなのでずれがない限りは合格とし、不合格のものには個別に対応する。					
成績評価	試験期間における定期試験：実施 () する / (○) しない 成績評価の方法：筆記試験 (60%)、レポート・課題 (40%)、作品・発表 (%)、実技 (%)、授業態度 (%)					
教科書						
参考文献	『絶対役立つ臨床心理学 カウンセラーを目指さないあなたにも』(藤田哲也監修、ミネルヴァ書房)					
注意事項	授業中の私語、携帯電話、飲食は禁止。好ましくない者は注意の上で授業態度を減点し、場合によっては退出、授業出席を停止させることもありますので注意してください。					

科目名	臨床心理学	単位数	2	実務経験	担当教員 いまみず ゆたか 今水 豊
ナンバリングコード	CLP1222	授業形態	講義	有・無	
授業の内容	保育園や幼稚園において相談のニーズが増える昨今、先生が子どもや保護者を理解し、良好な援助関係を築くために、臨床心理学は有用な分野である。臨床心理学とは、心理的問題に悩む人を援助するための学問である。いわば、心の問題を抱えている人の痛みを共有し、援助に活かす試みである。授業では、心理的問題のとらえかたや心理療法の実際について論理的・実践的に学ぶ。				
到達目標	1. 臨床心理学的な理解を援助活動に活かすことができる 2. 他者を尊重できるコミュニケーション力を身につけている 3. 自身の課題を把握できる				
学位授与方針	幼児教育学科 (1・2・③・4・⑤・6・⑦) 地域保育学科 (1・2・3・4・5) 文化表現学科 (1・2・3・4)				
授業計画	第1回	内容	I 臨床心理学とは何か	予習	どんな心理学があるか調べる
				復習	臨床心理学の用語を覚える
	第2回	内容	II 自他を認めるグループワーク	予習	他者受容について考える
				復習	グループワークの意義を理解する
	第3回	内容	III 心の発達 ①社会心理的発達	予習	アイデンティティについて考える
				復習	社会心理的発達を理解する
	第4回	内容	III 心の発達 ②親子関係の発達	予習	母子関係について考える
				復習	人間関係について理解する
	第5回	内容	IV 心理アセスメント ①アセスメントとは何か	予習	アセスメントとは何か調べる
				復習	アセスメントを理解する
	第6回	内容	IV 心理アセスメント ②アセスメントの体験	予習	心理検査について調べる
				復習	心理検査を理解する
	第7回	内容	IV 心理アセスメント ③自己を分析する	予習	検査から自己について考える
				復習	自己を分析し、課題を考える
	第8回	内容	V 心理的問題 ①うつ病	予習	うつ病についての記事を調べる
				復習	うつ病について理解する
第9回	内容	V 心理的問題 ②不安障害	予習	不安障害についての記事を調べる	
			復習	不安障害について理解する	
第10回	内容	V 心理的問題 ③統合失調症	予習	統合失調症についての記事を調べる	
			復習	統合失調症について理解する	
第11回	内容	VI 心理療法の実際 ①精神分析	予習	心理療法について考える	
			復習	心理療法の理解	
第12回	内容	VI 心理療法の実際 ②来談者中心療法	予習	心理療法について考える	
			復習	心理療法の理解	
第13回	内容	VI 心理療法の実際 ③認知行動療法・理論	予習	心理療法について考える	
			復習	心理療法の理解	
第14回	内容	VI 心理療法の実際 ④認知行動療法・実践	予習	心理療法について考える	
			復習	心理療法の理解	
第15回	内容	VI 心理療法の実際 ⑤ストレスマネジメント	予習	ストレスについて考える	
			復習	実生活で活用してみる	
予習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。					
課題へのフィードバック	わからない内容や疑問に思うことは、授業後質問して理解すること。 定期テストについては実施後に答え合わせと解説を行う。				
成績評価	試験期間における定期試験： 実施 (○) する / () しない 成績評価の方法： 筆記試験 (50%)、レポート・課題 (30%)、作品・発表 () %、実技 () %、授業態度 (20%)				
教科書	なし (適宜資料を配布)				
参考文献	授業にて適宜紹介				
注意事項	援助場面では、人の話に耳を傾け、その心情を理解する謙虚な態度が不可欠である。 その姿勢を身につけるためにも、授業をしっかりと聞き、理解するという構えを求める。				

科目名	情報機器利用	単位数	1	実務経験	担当教員	ほしの おさむ 星野 治
ナバリングコード	EDT1211	授業形態	演習	有・無		
授業の内容	この科目は、幼児教育学科の姉妹科目『情報機器操作』の履修を通して、Word / Excel / PowerPoint の基本操作を実行できることを前提として開講する。 比較的平易な課題からやや高度な課題まで、様々な種類の課題を手掛けることを通して、今後の学生生活や幼児教育・保育の現場で役立つパソコンの活用方法を探る。					
到達目標	1. 幼児教育・保育の現場で最低限必要とされる情報メディア活用法を習得している。 2. 情報社会の基本的リテラシーを理解している。 3. 情報社会のモラルを理解している。					
学位授与方針	幼児教育学科 (①・②・③・④・⑤・⑥・⑦) 地域保育学科 (1・2・3・4・5) 文化表現学科 (1・2・3・4)					
授業計画	第1回	内容	ガイダンス Windows の基本の確認 Word / Excel / PowerPoint の基本の確認	予習	シラパスを読んでおく。	
				復習	この科目で習得すべき内容を理解する。	
	第2回	内容	Word の活用① 比較的長い作文の執筆	予習	適量な分量の文字作品を選択して通読する。	
				復習	選択した文字作品に係る紹介文を書く。	
	第3回	内容	Word の活用② ポスターの作成	予習	ポスターの内容およびレイアウトを決める。	
				復習	修飾を施したポスターを完成する。	
	第4回	内容	Word の活用③ 園便りや保護者向け通知の作成	予習	園便りのレイアウトを決める。	
				復習	授業時の指示に従って課題を作成する。	
	第5回	内容	Excel の活用① やや規模の大きい数値処理	予習	Excel の基本的な操作方法を復習する。	
				復習	授業時の指示に従って数値処理を行う。	
	第6回	内容	Excel の活用② いろいろな種類のグラフの取り扱い	予習	Excel によるグラフ作成の手順を確認する。	
				復習	授業時の指示に従ってグラフ図面を作成する。	
	第7回	内容	Excel の活用③ 基本的なデータベースの処理	予習	Excel によるデータベース処理法を確認する。	
				復習	授業時の指示通りのデータベース処理を行う。	
	第8回	内容	PowerPoint の活用① 発表用スライドの基本形の作成	予習	発表内容の概要および流れを決める。	
				復習	文字を中心とするスライドを作成する。	
第9回	内容	PowerPoint の活用② 発表用スライドの修飾 (図表の挿入)	予習	内容にふさわしい画像データを探す。		
			復習	図表を適宜含んだスライドを作成する。		
第10回	内容	PowerPoint の活用③ 発表用スライドの修飾 (アニメーション)	予習	アニメーションの取り扱いかたを確認する。		
			復習	「動くスライド」を作成する。		
第11回	内容	各ソフトウェアの同時利活用① Word 文書に Excel のデータを埋め込む	予習	Word と Excel の同時利用について確認する。		
			復習	Excel の図表を埋め込んだ Word 文書を作る。		
第12回	内容	各ソフトウェアの同時利活用② Word 文書と Excel 文書との動的リンク	予習	Excel の基本的な作業方法を再確認する。		
			復習	Excel と一体化した Word 文書を作成する。		
第13回	内容	各ソフトウェアの同時利活用③ 発表用スライドの改訂 (動画の追加)	予習	動画ツールの操作について確認する。		
			復習	動画とリンクしたスライドを作成する。		
第14回	内容	各ソフトウェアの同時利活用④ 発表用スライドの完成	予習	各ソフトウェアの基本操作を再確認する。		
			復習	発表用スライドを完成して実際に発表する。		
第15回	内容	全体のまとめ 幼児教育・保育の現場における情報機器の ありかたへの考察	予習	これまでの他授業での学習内容を概観する。		
			復習	授業時の指示に従ってレポートを作成する。		
予習に要する学習時間：概ね 25 分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね 25 分を目安とする。						
課題へのフィードバック	提出されたレポート・課題については、必要に応じて改定増補された成果物の再提出を求める。					
成績評価	試験期間における定期試験：実施 () する / () しない 成績評価の方法： レポート・課題 (50%)、授業態度 (50%)					
教科書	プリントを随時配布する。					
参考文献	プリントを随時配布するほか、必要に応じて随時紹介する。					
注意事項	1. この科目を履修する場合、『情報機器操作』を併せて履修すること。 2. パソコンの操作はピアノの演奏と同じく、触れる機会が多ければ多いほど早く上達する。 3. 無断欠席、無断遅刻等々、「無断～」な言動は厳禁とする。					

科目名	情報機器利用	単位数	1	実務経験	担当教員	きむ じょうく 金 宰 郁
ナンバリングコード	EDT1211	授業形態	演習	有・無		
授業の内容	<p>本科目では、幼児教育における「教育の方法及び技術」について、基礎的な理論と教育の方法を支援する情報機器（コンピュータ）そして教材の活用について理解を図ります。</p> <p>具体的には、以下のとおりです。</p> <p>①教育の方法、指導方法及び教育課程の原則について、その基本を理解すること。</p> <p>②情報機器及び教材の活用について、具体的な表計算ソフトの操作を通じて理解すること。</p>					
到達目標	<p>1. 表計算ソフトの基本機能及び応用機能を身につけている。</p> <p>2. 大学における研究および卒業論文に関するデータを集計や分析できる。</p> <p>3. 幼児教育に関するデータを集計や分析できる。</p> <p>4. 情報処理検定及びワープロ検定試験への資格証取得</p>					
学位授与方針	幼児教育学科（1・2・3・4）5・6・7）地域保育学科（1・2・3・4・5）文化表現学科（1・2・3・4）					
授業計画	第1回	内容	この授業科目に関するガイダンス	予習	シラバスを読んでおく	
				復習	この科目で習得すべき内容を理解する	
	第2回	内容	表計算ソフト「Excel」の基礎(1)：基本操作（文字入力等）、文書の保存・読み込み、その他	予習	Excelの基本操作について調べる	
				復習	課題についてまとめる	
	第3回	内容	表計算ソフト「Excel」の基礎(2)：ワークシートの編集、ワークシートの書式設定、その他	予習	ワークシートについて調べる	
				復習	課題についてまとめる	
	第4回	内容	表計算ソフト「Excel」の基礎(3)：簡単な数表の作成、数値データ・文字データの相違、データの編集（挿入・削除・移動）、編集シートの調整（セルの幅・高さの変更、罫線の付加など）、その他	予習	データの編集について調べる	
				復習	課題についてまとめる	
	第5回	内容	表計算ソフト「Excel」の基礎(4)：グラフの作成	予習	グラフの作成について調べる	
				復習	課題についてまとめる	
	第6回	内容	表計算ソフト「Excel」の基礎(5)：グラフの設定の変更1（絵グラフなど）	予習	グラフの設定について調べる	
				復習	課題についてまとめる	
	第7回	内容	表計算ソフト「Excel」の基礎(6)：グラフの設定の変更2（複合グラフなど）	予習	複合グラフについて調べる	
				復習	課題についてまとめる	
	第8回	内容	「Excel」の応用(1)：セル番地の絶対参照と相対参照	予習	セル番地の絶対参照について調べる	
				復習	課題についてまとめる	
第9回	内容	「Excel」の応用(2)：関数の利用1（IF、AND、OR関数）	予習	IF、AND、ORの関数について調べる		
			復習	課題についてまとめる		
第10回	内容	「Excel」の応用(3)：関数の利用2（VLOOKUP、HLOOKUP、INDEX関数）	予習	VLOOKUP、HLOOKUP、INDEX関数について調べる		
			復習	課題についてまとめる		
第11回	内容	「Excel」の応用(4)：関数の利用3（DATE、PMT関数など）	予習	DATE、PMT関数などについて調べる		
			復習	課題についてまとめる		
第12回	内容	「Excel」の応用(5)：データ処理の応用1（データベース合計、平均など）	予習	データ処理について調べる		
			復習	課題についてまとめる		
第13回	内容	「Excel」の応用(6)：データ処理の応用2（条件付きデータベースなど）	予習	条件付きデータベースについて調べる		
			復習	課題についてまとめる		
第14回	内容	「Excel」の応用(7)：データ処理の応用3（データのクロス集計：ピボットテーブル）	予習	ピボットテーブルについて調べる		
			復習	課題についてまとめる		
第15回	内容	「Excel」の応用(8)：実践データの処理	予習	実践データについて調べる		
			復習	この科目で習得した内容を振り返る		
予習に要する学習時間：概ね25分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね25分を目安とする。						
課題へのフィードバック	授業内容の説明や課題内容のTIPを学内ホームページに詳細にアップし、確認できるようになっている。					
成績評価	<p>試験期間における定期試験： 実施（ ）する / (○) しない</p> <p>成績評価の方法： レポート・課題（50%）、作品・発表（10%）、授業態度（40%）</p>					
教科書	『文科系学生のための情報活用』（立野貴之、共立出版）					
参考文献	『知りたい操作がすぐわかる Excel2013 全機能 Bible』（高橋慈子・八木重和、技術評論社）					
注意事項	出席時間数が授業時間数の3分の2以上であり、かつ、課題、発表、平常点等の成績を総合して合格と判断された場合、所定の単位が与えられます。					

科目名	障害児保育	単位数	2	実務経験	担当教員	こうが たかし 甲賀 崇史
ナバリングコード	SOW1225	授業形態	演習	有・無		
授業の内容	障害がある子どもの保育は、一人一人の子どもの発達過程や障害の状態を把握し、適切な環境の下で、他の子どもとの生活を通じて共に成長できる支援を考えていくことが大切です。授業では、障害児保育を支える理念、保育現場でである特別な教育的ニーズがある子どもの医学的・心理学的理解と援助の実際、ならびに家庭及び関係機関との連携について講述します。					
到達目標	1. 障害児保育を支える理念や歴史の変遷を説明できる。 2. 様々な障害の基礎を理解し、適切な援助を考え、環境を構成できる。 3. 障害がある子どものニーズに応じた保育の計画を作成することができる。 4. 保護者への支援や関係機関との連携の在り方について説明できる。					
学位授与方針	幼児教育学科 (1・2・3・4・5・6・7) 地域保育学科 (1・2・3・4・5) 文化表現学科 (1・2・3・4)					
授業計画	第1回	内容	オリエンテーション	予習	シラバスを読んでおく	
				復習	講義の内容や到達目標を確認する	
	第2回	内容	「障がい」の概念：障害とは何か	予習	障害の定義の種類を調べておく	
				復習	障害の捉え方についてまとめる	
	第3回	内容	障害児保育の歴史①：黎明～戦前の成立と展開	予習	「障害児保育の歴史」をweb検索してみる	
				復習	～戦前の障害児保育の目的や形態等を整理する	
	第4回	内容	障害児保育の歴史②：戦後～現在の展開と課題	予習	「障害児保育の歴史」をweb検索してみる	
				復習	戦後～の障害児保育の目的や形態等を整理する	
	第5回	内容	障害児保育の制度と形態①：分離・統合をめぐる議論(グループワーク)	予習	統合保育について調べておく	
				復習	統合と分離のそれぞれ長所と短所を整理する	
	第6回	内容	障害児保育の制度と形態②：国際的標準としてのインクルーシブ教育(保育)の意義と課題	予習	インクルーシブ保育について調べておく	
				復習	インクルーシブ保育と統合保育の異同をまとめる	
	第7回	内容	障害がある子どもの理解と支援の原則	予習	「特別な配慮が必要な子ども」をweb検索してみる	
				復習	「特別な配慮が必要な子ども」についてまとめる	
	第8回	内容	知的障害のある子どもの医学的理解	予習	知的障害の定義を調べておく	
				復習	医学的にみた知的障害の特徴をまとめる	
	第9回	内容	知的障害のある子どもの心理学的理解(ペアワーク)	予習	「知的障害 認知 行動 特性」をweb検索してみる	
				復習	心理学的にみた知的障害の特徴をまとめる	
	第10回	内容	知的障害のある子どもの支援の実際(グループワーク)	予習	第8回、第9回の講義内容を合わせてまとめる	
				復習	知的障害がある子どもに対する配慮について整理する	
	第11回	内容	自閉スペクトラム症の子どもの医学的理解	予習	自閉スペクトラム症の定義を調べておく	
				復習	医学的にみた知的障害の特徴をまとめる	
	第12回	内容	自閉スペクトラム症の子どもの心理学的理解(ペアワーク)	予習	「ASD 認知 行動 特性」をweb検索してみる	
				復習	心理学的にみた知的障害の特徴をまとめる	
	第13回	内容	自閉スペクトラム症の子どもの支援の実際(グループワーク)	予習	第11回、第12回の講義内容を合わせてまとめる	
				復習	自閉スペクトラム症の子どもへの配慮について整理する	
	第14回	内容	視覚障害・聴覚障害のある子どもの理解と配慮	予習	視覚障害および聴覚障害の定義を調べておく	
				復習	視覚障害および聴覚障害がある子どもへ配慮について整理する	
	第15回	内容	肢体不自由のある子どもの理解と配慮	予習	肢体不自由の定義を調べておく	
				復習	肢体不自由がある子どもへの配慮について整理する	
	第16回	内容	限局性学習障害のある子どもの医学的理解	予習	限局性学習障害の定義を調べておく	
				復習	医学的にみた限局性学習障害の特徴をまとめる	
	第17回	内容	限局性学習障害のある子どもの心理学的理解(ペアワーク)	予習	「限局性学習障害認知 行動 特性」をweb検索してみる	
				復習	心理学的にみた限局性学習障害の特徴をまとめる	
	第18回	内容	限局性学習障害のある子どもの支援の実際(グループワーク)	予習	第16回、第17回の講義内容を合わせてまとめる	
				復習	限局性学習障害がある子どもへの配慮について整理する	
	第19回	内容	注意欠如・多動症のある子どもの医学的理解	予習	注意欠如・多動症の定義を調べておく	
				復習	医学的にみた注意欠如・多動症の特徴をまとめる	
	第20回	内容	注意欠如・多動症のある子どもの心理的理解(ペアワーク)	予習	「注意欠如・多動症 認知 行動 特性」をweb検索してみる	
				復習	心理学的にみた注意欠如・多動症の特徴をまとめる	

授 業 計 画	第 21 回	内容	注意欠如・多動症のある子どもの支援の実際 (グループワーク)	予習	第 19 回、第 20 回の講義内容を合わせてまとめる
				復習	注意欠如・多動症がある子どもへの配慮について整理する
	第 22 回	内容	個別の指導計画と支援計画の理解	予習	幼稚園教育要領解説 p. 119-121 を読んでおく
				復習	個別の指導計画と支援計画について整理する
	第 23 回	内容	個別の指導計画と支援計画の作成(グループ ワーク)	予習	授業で配布された指導計画の例を読んでおく
				復習	授業で作成した指導計画を見直す
	第 24 回	内容	支援プログラムの基礎：保育との関係の理解	予習	TEACCH プログラムについて調べておく
				復習	授業で紹介された技法を整理する
	第 25 回	内容	支援プログラムの実際：事例を通じた演習(グ ループワーク)	予習	授業で配布された事例を読んでおく
				復習	授業で議論した事例を読み返し、要点を整理する
	第 26 回	内容	子ども同士の関わりと育ち合い：環境調整(グ ループワーク)	予習	授業で配布された事例を読んでおく
				復習	授業で議論した事例を読み返し、要点を整理する
	第 27 回	内容	保育所・幼稚園での支援体制①：職員の連携 の理解	予習	授業で配布された事例を読んでおく
				復習	職員連携の要点を整理する
第 28 回	内容	保育所・幼稚園での支援体制②：職員の連携 の演習(グループワーク)	予習	第 27 回の講義内容をまとめる	
			復習	授業で議論した事例を読み返し、要点を整理する	
第 29 回	内容	家族への支援：家族と保育所・幼稚園との連 携	予習	「家族支援 障害児」と web 検索して調べてみる	
			復習	家族支援の要点を整理する	
第 30 回	内容	外部機関との連携：医療、福祉専門機関・小 学校との連携のあり方	予習	児童発達支援センターの役割について調べてみる	
			復習	医療、福祉専門機関・小学校との連携についてまとめる	
予習に要する学習時間：概ね 20 分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね 25 分を目安とする。					
課題へのフィ ードバック	授業のなかで小テストを実施する。試験後に回答を示し、解説をおこなう。 定期試験は実施後に解答を示し、解説をおこなう。				
成績評価	試験期間における定期試験：実施 (○) する / () しない 成績評価の方法： 筆記試験 (50%)、レポート・課題 (10%)、作品・発表 (10%)、実技 (20%)、授業態度 (10%)				
教科書	なし				
参考文献	『ソーシャルインクルージョンのための障害児保育』(堀智晴・直島正樹・橋本好市、ミネルヴァ書房) 『発達障害のある子の保育の手だて-保育園・幼稚園・家庭の実戦から-』(佐藤暁・小西淳子、岩崎学術出版社) 『発達障害白書』(公益社団法人 日本発達障害連盟、明石書店)				
注意事項	教科書の代わりに毎回プリントを配るので、各自ファイルに綴じて管理すること。				

科目名	社会的養護内容	単位数	1	実務経験	担当教員	しのはら あみ 志濃原 亜美
ナンバリングコード	SOW1226	授業形態	演習	有・無		
授業の内容	<p>施設養護や里親など社会的養護の実際について学び、社会的養護における児童の権利擁護や保育士等社会福祉施設従事者の倫理について、また、ソーシャルワークの技術など専門的技術などを体系的に理解する。</p> <p>さらに、個々に応じた支援計画の作成、記録の書き方、自己評価についても具体的に学ぶ。</p>					
到達目標	<p>1. 今まで学んできた社会福祉関連の知識や施設実習で学んだ施設の実態などを話し合いや発表等の方法で表現できる。</p> <p>2. 自ら考え、発表し、問題意識を持つことで、社会的養護に関わる人や施設利用者について総合的に考える力を身につけている。</p> <p>3. 施設養護の体系や援助過程について理解できる</p>					
学位授与方針	幼児教育学科（1・②・3・4・⑤・6・7）地域保育学科（1・2・3・4・5）文化表現学科（1・2・3・4）					
授業計画	第1回	内容	オリエンテーション		予習	シラバスの確認
					復習	講義概要を理解する
	第2回	内容	施設実習を振り返って		予習	施設実習の振り返りをする
					復習	実習と授業を結びつける
	第3回	内容	障がいを持つ人の生活実態（VTR）		予習	各種別の施設についての復習をする
					復習	感想文を書く
	第4回	内容	障がいを持つ人の生活実態のビデオ内容についてグループ討議		予習	感想文を振り返る
					復習	グループ討議を振り返る
	第5回	内容	グループ決め、およびディスカッション		予習	施設の種別を振り返る
					復習	ディスカッションの内容をまとめる
	第6回	内容	テーマ設定		予習	テーマ設定の材料の準備をする
					復習	テーマの吟味をする
	第7回	内容	グループレポート作成		予習	レポートの下書きをする
					復習	レポートの清書をする
	第8回	内容	グループ活動①（調査）		予習	テーマに応じた調査を開始する
					復習	テーマに応じた調査を継続する
	第9回	内容	グループ活動②（調査・制作）		予習	テーマに応じた調査の継続と制作の準備をする
					復習	制作の準備をする
	第10回	内容	中間報告		予習	中間報告の準備をする
					復習	中間報告を踏まえた最終制作に取り掛かる
	第11回	内容	グループ発表③（制作）		予習	制作の準備を進める
					復習	最終確認
	第12回	内容	発表レジメ提出		予習	発表レジメの下書きをする
					復習	発表レジメの清書をする
	第13回	内容	発表準備、確認、動画作成		予習	発表準備、及び動画の作成準備をする
					復習	最終確認をする
	第14回	内容	グループ発表①		予習	発表準備をする
					復習	まとめをする
	第15回	内容	グループ発表②、まとめ		予習	発表準備をする
					復習	まとめをする
予習に要する学習時間：概ね30分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね30分を目安とする。						
課題へのフィードバック	提出物の返却、発表の講評などによるフィードバックを行う。					
成績評価	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法： レポート・課題（30%）、作品・発表（50%）、授業態度（20%）					
教科書	『社会的養護Ⅰ・Ⅱ』（谷口純世他編、光生館）					
参考文献	『保育福祉小六法2018年版』（保育福祉小六法編集委員会著、みらい）					
注意事項	演習を中心とする。普段から児童問題に関心を持ち、主体的に授業に参加すること。					

科目名	社会的養護内容	単位数	1	実務経験	担当教員 まんどろ あきお 萬燈 章雄
ナバリングコード	SOW1226	授業形態	演習	有・無	
授業の内容	社会的養護を必要としている子どもたちの現状と支援について学ぶ。実践力を学習できるよう事例研究を通して支援の方法を考えていきたい。また、支援するスタッフとしてどのような姿勢で望むことが必要なのか、倫理や責務についても学ぶ。処遇の結論よりもそれを導き出していくプロセスに重点を置いて学習する。				
到達目標	1. アセスメントから支援方法まで事例を通してそのプロセスを理解している。 2. 様々なケースに応じてどのように対応していくのかを理解している。 3. より困難な場面においても、社会的養護に携わる保育士の職務と倫理に従い行動できることを身につけている。				
学位授与方針	幼児教育学科 (1・②・3・4・⑤・6・7) 地域保育学科 (1・2・3・4・5) 文化表現学科 (1・2・3・4)				
授業計画	第1回	内容	オリエンテーション～ 演習Ⅰ ある施設に就職した友人の愚痴	予習	シラバスに目を通しておくこと
				復習	事例検討の方法についてまとめる
	第2回	内容	演習Ⅱ 障害児入所施設の事例 「障害受容」と母親の気持ちを理解する	予習	障害児者施設体系について調べる
				復習	障害受容についてまとめる
	第3回	内容	演習Ⅲ 発達障害児への対応事例 (学童保育所・保育所) 失敗をする権利について	予習	発達障害について調べる
				復習	障害児者の権利についてまとめる
	第4回	内容	演習Ⅳ 養育不安のある家庭への支援について (保育所・幼稚園) マルトリートメントについて	予習	不適切養育について調べる
				復習	地域での連携した支援についてまとめる
	第5回	内容	演習Ⅴ 被虐待児への支援について (保育所・幼稚園) 愛着に問題がある子への処遇について	予習	虐待のサインについて調べる
				復習	愛着障害についてまとめる
	第6回	内容	演習Ⅵ 乳児院から養護施設へ 「愛着の移行」について	予習	社会的養護に必要な施設について調べる
				復習	「措置変更」についてまとめる
	第7回	内容	演習Ⅶ 日常生活支援 (児童養護施設) 入所支援。アドミッションケアについて	予習	「親子分離」について調べる
				復習	施設入所時の子ども支援についてまとめる
	第8回	内容	演習Ⅷ 日常生活支援 (児童養護施設) インケアについて	予習	児童養護施設での生活について調べる
				復習	日々の生活支援について留意点をまとめる
第9回	内容	演習Ⅸ 乳児院から里親へ 委託のプロセス や、施設のスタッフとしての支援のあり方など	予習	里親制度について調べる	
			復習	里親委託の留意点についてまとめる	
第10回	内容	演習Ⅹ① 自分の出生を知る権利 (児童養護施設・里親) ルーツを知る権利について	予習	ライフストーリーワークについて調べる	
			復習	事例についてアセスメントしてみる	
第11回	内容	演習Ⅹ② 自分の出生を知る権利 (児童養護施設・里親) グループ作業	予習	真実告知について調べる	
			復習	ルーツを知る権利についてまとめる	
第12回	内容	DVD学習 (児童養護施設) 被虐待児のリービングケアについて	予習	リービングケアについて調べる	
			復習	施設退所支援についてまとめる	
第13回	内容	演習Ⅺ 児童の権利擁護 被措置児童虐待 援助者としての倫理と責務について	予習	施設内虐待について調べる	
			復習	援助者としての倫理と責務についてまとめる	
第14回	内容	演習Ⅻ① 子どもの自立支援について (児童養護施設) 事例に基づくアセスメント	予習	自立支援計画について調べる	
			復習	事例についてアセスメントしてみる	
第15回	内容	演習Ⅻ② 子どもの自立支援について 自立支援計画を作成する	予習	指導方針を立ててみる	
			復習	施設処遇についてまとめる	
予習に要する学習時間：概ね15分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね30分を目安とする。					
課題へのフィードバック	原則、事例ごとに全員課題についての意見など記載してレポートとして提出。簡単ですがコメントと評価をつけてできるだけ返却していくつもりでいます。事例Ⅹはグループごとに評価しコメントします。				
成績評価	試験期間における定期試験：実施 () する / (○) しない 成績評価の方法：筆記試験 () %、レポート・課題 (50%)、作品・発表 (20%)、実技 () %、授業態度 (30%)				
教科書	なし				
参考文献	授業中に必要に応じて紹介します。				
注意事項	基本事例も含めプリント資料配布で授業を進めます。この授業は考える課程に授業の目的がありますので、授業マナーを守り意見発表や質問など積極的な参加を評価します。回答の正誤について問いません。				

科目名	保育課程総論		単位数	2	実務経験	担当教員 たじま だいすけ 田島 大輔
ナンバリングコード	EDU1221		授業形態	講義	有・無	
授業の内容						
到達目標	1. 2. 3. 4.					
学位授与方針	幼児教育学科 (1・2・3・4・5・6・7) 地域保育学科 (1・2・3・4・5) 文化表現学科 (1・2・3・4)					
授業計画	第1回	内容		予習		
				復習		
	第2回	内容		予習		
				復習		
	第3回	内容		予習		
				復習		
	第4回	内容		予習		
				復習		
	第5回	内容		予習		
				復習		
	第6回	内容		予習		
				復習		
	第7回	内容		予習		
				復習		
	第8回	内容		予習		
				復習		
第9回	内容		予習			
			復習			
第10回	内容		予習			
			復習			
第11回	内容		予習			
			復習			
第12回	内容		予習			
			復習			
第13回	内容		予習			
			復習			
第14回	内容		予習			
			復習			
第15回	内容		予習			
			復習			
予習に要する学習時間：概ね 分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね 分を目安とする。						
課題へのフィードバック						
成績評価	試験期間における定期試験：実施 () する / () しない 成績評価の方法：筆記試験 (%)、レポート・課題 (%)、作品・発表 (%)、実技 (%)、授業態度 (%)					
教科書	『書名』(著者名、出版社名)					
参考文献	『書名』(著者名、出版社名)					
注意事項						

科目名	保育内容総論	単位数	1	実務経験	担当教員	いしかわ のぶまさ 石河 信雅
ナンバリングコード	EDU1222	授業形態	演習	有・無		
授業の内容	保育内容は「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表現」そして「養護」の領域があり、専門的にはそれぞれの領域を別々に学んでいる。しかし、保育実践（教育）の場面ではそれらが当然のごとく、遊びや・生活の中で一体的に進められるのである。ですから、保育内容総論は実際の保育現場で、各領域が統合して行われる実際を理解し、保育実践にいかにか臨むかを事例に基づきながら学んでいく。					
到達目標	1. 保育所・幼稚園・幼保連携型認定こども園に関する基本事項を理解している。 2. 子どもの発達と保育内容との関連について理解している。 3. 各領域と教育・保育内容について理解し、実際の保育現場での在り方を理解している。 4. 教育・保育の実際を総合的に理解し、今後の学びへの目標設定を見直すことができる。					
学位授与方針	幼児教育学科（1・2・③・④・⑤・6・⑦）地域保育学科（1・2・3・4・5）文化表現学科（1・2・3・4）					
授業計画	第1回	内容	オリエンテーション：保育内容総論の学びの意義について	予習	シラバスを読んでおく	
				復習	この科目で習得すべき内容を理解する	
	第2回	内容	幼稚園教育要領を概観し、「論」と「実践」の在り方について。	予習	幼稚園教育要領を読んでおく	
				復習	本時の学びを教育要領との関連でまとめる	
	第3回	内容	保育所保育指針を概観し、「論」と「実践」の在り方について	予習	保育所保育指針を読んでおく	
				復習	本時の学びを保育指針との関連でまとめる	
	第4回	内容	幼保連携型認定こども園教育・保育要領を概観し、「論」と「実践」の在り方について	予習	教育・保育要領を読んでおく	
				復習	本時の学びをまとめる	
	第5回	内容	各年齢層の保育を遊びを通して学ぶ	予習	子どもと遊びについて調べる	
				復習	幼児期の遊びの重要性についてまとめる	
	第6回	内容	幼児期の人間関係をコミュニケーションに着目して学ぶ	予習	コミュニケーションとは何か調べる	
				復習	コミュニケーション能力についてまとめる	
	第7回	内容	絵本・素話をグループワークを通して学ぶ1	予習	素話の作成について素案の資料収集をする	
				復習	作成過程の素話について反省的に振り返る	
	第8回	内容	絵本・素話をグループワークを通して学ぶ2	予習	素話の作成について素案の資料収集をする	
				復習	作成過程の素話について反省的に振り返る	
第9回	内容	絵本・素話をグループワークを通して学ぶ・学びの成果を発表する3	予習	発表方法より良い方法について調べる		
			復習	作成した素話・発表について振り返る		
第10回	内容	望ましい保育者像について	予習	目指すべき保育者像につて文献等で調べる		
			復習	自己を振り返りまとめる		
第11回	内容	保育をめぐる最近の動向について	予習	保育をめぐる最近の動向について調べる		
			復習	最近の動向についてまとめる		
第12回	内容	多様性を重視した保育について	予習	発達障害等について調べる		
			復習	発達障害等早期対応についてまとめる		
第13回	内容	幼児の発達について	予習	幼児の発達について調べる		
			復習	幼児の発達についてまとめる		
第14回	内容	保幼小の連携について	予習	保幼小の連携について調べておく		
			復習	保幼小の連携について実践方法をまとめる		
第15回	内容	これからの保育に求められるものについて	予習	これからの保育について調べる		
			復習	これからの保育について考えをまとめる		
予習に要する学習時間：概ね15分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね30分を目安とする。						
課題へのフィードバック	日々の講義の中で、レポート等を作成しそのレポートについて朱書きを入れたり、内容について講義中に説明を加えたりする。					
成績評価	試験期間における定期試験：実施（○）する／（ ）しない 成績評価の方法：筆記試験（50%）、レポート・課題（20%）、作品・発表（10%）、実技（ %）、授業態度（20%）					
教科書	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領					
参考文献	講義の中で適宜提示する					
注意事項						

科目名	保育内容（健康）	単位数	1	実務経験	担当教員 きたほら せいいち 北洞 誠一
ナンバリングコード	CHS1211	授業形態	演習	有・無	
授業の内容	「人類進化と子どもの発育発達」、「発育発達に必要な食と運動」、「自立を促す保育者の接し方」をいうテーマで勉強しながら、子どもの健康とは何か、そして子どもの健康のためには、どのような環境設定が必要かを学びます。またビデオ学習とレポート作成を通して、保育現場のイメージを高めていきます。				
到達目標	1. 人類進化と子どもの発育発達の関連性を理解する 2. 発育発達に必要な食と運動について理解する 3. 自立を促す保育者の接し方を理解する 4. 子どもの健康のための環境設定について理解する				
学位授与方針	幼児教育学科（1・②・3・④・⑤・⑥・7）地域保育学科（1・2・3・4・5）文化表現学科（1・2・3・4）				
授業計画	第1回	内容	健康の考え方と領域健康のねらいと内容 ビデオ鑑賞：子どもたちは未来	予習	シラバスを読んでおく
				復習	さくらんぼ保育について調べる
	第2回	内容	ビデオ鑑賞：アリス1 人類の進化の過程	予習	さくらんぼ保育についてノートにまとめる
				復習	生命の反復説について調べる
	第3回	内容	ビデオ鑑賞：アリス2 乳幼児の発育発達：形態	予習	成長と発達の違いを調べる
				復習	乳幼児の形態の成長をまとめる
	第4回	内容	ビデオ鑑賞：アリス3 乳幼児の発育発達：機能	予習	形態と機能の違いを調べる
				復習	乳幼児の機能の発達をまとめる
	第5回	内容	乳幼児の発育発達：心	予習	子どもたちの心の問題の資料に目を通す
				復習	子どもの心の発育発達についてまとめる
	第6回	内容	運動遊びの現状と必要性	予習	遊びとは何かについて調べる
				復習	運動遊びの重要性をまとめる
	第7回	内容	前半のまとめ：テスト形式で学んだことを理解する	予習	前半学んだことを見直す
				復習	理解していない部分を書き出す
	第8回	内容	ビデオ鑑賞：さくらんぼ坊や1 遊びの中の社会性の発達	予習	遊びの中での社会性の発達について調べる
				復習	ビデオの中の社会性が発揮される場面を書き出す
第9回	内容	ビデオ鑑賞：さくらんぼ坊や2 社会性を発達環境設定について	予習	社会性の発達を促す環境設定について調べる	
			復習	保育現場の社会性発達を促す環境設定の方法とまとめる	
第10回	内容	生活リズムと生体リズム	予習	サーカディアンリズムについて調べる	
			復習	健康を維持促進する生活リズムをまとめる	
第11回	内容	食と健康1：食育と食物アレルギー	予習	現代の子どもたちの食の問題を調べる	
			復習	現代の子どもたちの食の問題をまとめる	
第12回	内容	食と健康2：食性と食料性	予習	人類の歴史と食の歴史を調べる	
			復習	食性と食料性についてまとめる	
第13回	内容	ビデオ鑑賞：映画ベイビーズ	予習	お包みについて調べる	
			復習	映画を見た感想をレポートにまとめる	
第14回	内容	心の発達と自立	予習	子どもたちの心の問題について調べる	
			復習	心と身体の問題点をまとめる	
第15回	内容	後半のまとめ：テスト形式で学んだことを理解する	予習	後半学んだことを見直す	
			復習	理解していなかった部分を書き出す	
予習に要する学習時間：概ね 分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね 分を目安とする。					
課題へのフィードバック	テスト形式のまとめで学習内容の解説を行う。				
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法：筆記試験（60%）、レポート・課題（30%）、作品・発表（5%）、実技（ ）%、授業態度（5%）				
教科書	『改定新版保育内容健康』（宮下恭子編、大学図書出版）				
参考文献	『齋藤公子の保育論』（齋藤公子、築地出版）、『生物の進化に学ぶ乳幼児期の子育て』（齋藤公子、かもがわ出版）				
注意事項	授業を通して、子どもの健康について理解するとともに、自分自身の健康について考えてほしい。				

科目名	保育内容（人間関係）	単位数	1	実務経験	担当教員	まるはし さとみ 丸橋 聡美
ナバリングコード	CHS1212	授業形態	演習	有・無		
授業の内容	保育内容の領域「人間関係」は、他の人々と親しみ支えあって生活するために、自立心を育て、人とかわる力を養う観点から設けられている。人とかかわりは、人とかかわりの心が深く結び合い、豊かなかわりがもてるような集団が形成されることをめざすことが必要である。子どもが人とかわる力を養っていくために保育者はどのような援助や指導を行なっていけばよいのかを学ぶ。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの人間関係の発達について理解している 2. 子どもとの関わりや援助の仕方を身につけている 3. 子どもを捉える視点を身につけている 4. 子どもの人間関係の育ちについて理解している 					
学位授与方針	幼児教育学科（1・2・③・④・⑤）・6・7）地域保育学科（1・2・3・4・5）文化表現学科（1・2・3・4）					
授業計画	第1回	内容	オリエンテーション、子どもについて考える	予習	講義内容を読んでおく	
				復習	この科目で習得すべき内容を理解する	
	第2回	内容	人との関わりとは	予習	子どもの定義を考える	
				復習	人間関係の広義を理解する	
	第3回	内容	保育の基本と人との関わり	予習	保育の基本とは何かを再確認しておく	
				復習	保育内容を理解する	
	第4回	内容	人との関わりに関する領域「人間関係」	予習	幼稚園教育要領を読んでおく	
				復習	領域「人間関係」を読む	
	第5回	内容	人との関わりの発達（0.1歳児）	予習	ねらいについて学ぶ①	
				復習	0.1歳児の人との関わりの発達をまとめる	
	第6回	内容	人との関わりの発達（2.3歳児）	予習	2.3歳児の発達を調べておく	
				復習	小テストの内容を確認する① 2.3歳児の人との関わりの発達をまとめる	
	第7回	内容	人との関わりの発達（4.5歳児）	予習	内容について学ぶ② 4.5歳児の発達を調べておく	
				復習	4.5歳児の人との関わりの発達を理解する	
	第8回	内容	遊びのなかで育つ人との関わり	予習	子どもの遊びを調べる	
				復習	小テストの内容を確認する②	
第9回	内容	遊びを通して育つ子どもの基本的な人との関わり	予習	内容について学ぶ③		
			復習	子どもの育ちの3側面があることを理解する		
第10回	内容	遊びを通して育つ子どもの基本的な人との関わり（事例検討）	予習	該当プリントを読んでおく		
			復習	小テストの内容を確認する③		
第11回	内容	人との関わりを育てる保育の実践	予習	内容について学ぶ④		
			復習	指導案を仕上げる		
第12回	内容	人との関わりの育ちをみる視点	予習	幼稚園教育要領の第1章第2を読んでおく		
			復習	小テストの内容を確認する④ 子どもの育ちをまとめる		
第13回	内容	人との関わりの育ちをみる視点（事例検討）グループワーク	予習	内容について学ぶ⑤ 事例のプリントを読んでおく		
			復習	ディスカッションした内容を整理する		
第14回	内容	人との関わりを育てる保育者の視点（事例検討）グループ発表	予習	事例のプリントを読み、自分の考えをまとめる		
			復習	小テストの内容を確認する⑤		
第15回	内容	領域「人間関係」をめぐる諸問題	予習	実習を通して人間関係の課題を考える		
			復習	「人間関係」をめぐる問題をまとめる		
予習に要する学習時間：概ね30分を目安とする。復習に要する学習時間：概ね20分を目安とする。						
課題へのフィードバック	課題や小テスト採点后返却し、説明を行う					
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法： レポート（40%）、課題（20%）、小テスト（20%）、授業態度（20%）					
教科書	『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』・解説書					
参考文献						
注意事項	必要に応じてビデオ視聴を取り入れ、資料・プリントを配布しながら進める					

科目名	保育内容(人間関係)		単位数	1	実務経験	担当教員 いまい ゆみ 今井 由美
ナバリンコート*	CHS1212		授業形態	演習	有・無	
授業の内容	幼稚園教育要領、保育所保育指針に示された領域「人間関係」のねらい及び内容を学び、乳幼児における人間関係を育てていく上での指導や援助のあり方を考えていく。また、乳幼児の人間関係の発達について保育現場等の実際の様子や映像資料や事例を通して学ぶことにより、保育実践力の向上を目指す。					
到達目標	1. 領域「人間関係」を理解している 2. 乳幼児における人間関係の発達について理解している 3. 乳幼児期の人間関係を育てるための役割や援助方法を身につけている					
学位授与方針	幼児教育学科 (1・②・③・④・5・6・7) 地域保育学科 (1・2・3・4・5) 文化表現学科 (1・2・3・4)					
授業計画	第1回	内容	オリエンテーション / 「人間関係」とは	予習	シラバスを読んでおく	
				復習	人間関係の全体像を把握する	
	第2回	内容	乳児保育に関わるねらい及び内容	予習	ねらい及び内容(乳児)を読んでおく	
				復習	乳児期の人間関係を理解する	
	第3回	内容	領域「人間関係」のねらいと内容(1,2歳児)	予習	領域「人間関係」(1,2歳児)を読んでおく	
				復習	2歳児までの人間関係を整理しておく	
	第4回	内容	領域「人間関係」のねらいと内容(3歳児以上)	予習	領域「人間関係」(3歳児以上)及び幼稚園教育要綱「人間関係」を読んでおく	
				復習	領域「人間関係」を理解する	
	第5回	内容	人間関係からみる発達過程(乳児)	予習	乳児の発達を調べておく	
				復習	乳児まで発達過程を整理しておく	
	第6回	内容	人間関係からみる発達過程(1,2歳児)	予習	1,2歳児の発達を調べておく	
				復習	小テストの内容を確認しておく 2歳児までの発達過程を整理しておく	
	第7回	内容	人間関係からみる発達過程(3歳児以上)	予習	3歳児以上の発達を調べておく	
				復習	乳幼児期の発達過程を理解する	
	第8回	内容	生活の中での人間関係をみる(乳児) 事例検討	予習	乳児の生活について調べておく	
				復習	事例を見直しておく	
第9回	内容	人間関係(乳児)を支える保育者の役割 事例検討・グループワーク	予習	事例を読んでおく		
			復習	小テストの内容を確認しておく		
第10回	内容	生活の中での人間関係をみる(1,2歳児) 事例検討	予習	1,2歳児の生活について調べておく		
			復習	事例やディスカッション内容を見直しておく		
第11回	内容	人間関係(1,2歳児)を支える保育者の役割 事例検討・グループワーク	予習	事例を読んでおく		
			復習	ディスカッションの内容を整理しておく		
第12回	内容	生活の中での人間関係をみる(3歳児以上) 事例検討	予習	3歳児以上の生活について調べておく		
			復習	事例を見直しておく		
第13回	内容	人間関係(3歳児以上)を支える保育者の役割 事例検討・グループワーク	予習	事例を読んでおく		
			復習	ディスカッションの内容を整理しておく		
第14回	内容	保育者と保護者の人間関係、保育者同士の人間関係 事例検討・グループワーク	予習	事例を読んでおく		
			復習	ディスカッションの内容を整理しておく		
第15回	内容	領域「人間関係」における今日的課題	予習	これまでを振り返り自身の学びを確認しておく		
			復習	領域「人間関係」の理解を深める		
予習に要する学習時間：概ね 20 分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね 30 分を目安とする。						
課題へのフィードバック	課題や小テストを返却し、説明やコメントをする					
成績評価	試験期間における定期試験：実施 () する / (○) しない 成績評価の方法： レポート・課題 (60 %)、授業態度 (40 %)					
教科書	なし					
参考文献	『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』 『人間関係』(高杉自子・岸井慶子、東京書籍)『事例で学ぶ保育内容 領域人間関係』(無藤隆・岩立京子、萌文書林)					
注意事項						

科目名	保育内容（音楽表現Ⅰ）	単位数	1	実務経験	担当教員	はせがわ きょうこ 長谷川 恭子
ナバリングコード	CHS1215	授業形態	演習	有・無		
授業の内容	<p>保育における音楽表現では、体験と感受をバランス良く経験することで、豊かな感性や資質・能力が育成される。保育者は、そのための音楽経験の楽しさと音楽の美しさを理解しておく必要がある。</p> <p>この授業では、「表現」領域における音楽教育の意義を理論的に理解し、多様な音楽経験をすることで実践に役立つ基礎力を育成する。</p>					
到達目標	<p>1. 表現領域「音楽」の意義をとらえ、幼児教育・保育に関する音楽表現の知識と技能を習得している。</p> <p>2. 音楽表現について学び、自己の音楽的感性が養われている。</p> <p>3. 音楽表現の活動を通して、協働して表現をすることの楽しさを理解することで、保育における音楽活動の観点を理解している。</p>					
学位授与方針	<p>幼児教育学科（1・2・③・④・5・6・⑦） 地域保育学科（1・2・3・4・5） 文化表現学科（1・2・3・4）</p>					
授業計画	第1回	内容	オリエンテーション	予習	シラバスを読んでおく。	
				復習	授業の主旨と習得すべき内容を理解する。	
	第2回	内容	表現領域「音楽」の歴史と意義	予習	教科書の歴史の部分を読む。	
				復習	配布プリントを参考に、授業内容をまとめる。	
	第3回	内容	幼児の音楽能力の発達	予習	教科書の発達の部分を読む。	
				復習	配布プリントを参考に、授業内容をまとめる。	
	第4回	内容	保育における音楽表現の基礎 1：音楽表現のねらい	予習	音楽表現のねらいについて、文献で調べる。	
				復習	予習と授業をもとにまとめをし、考察をする。	
	第5回	内容	保育における音楽表現の基礎 2：音楽と遊び	予習	音楽表現と遊びについて、文献で調べる。	
				復習	予習と授業をもとにまとめをし、考察をする。	
	第6回	内容	音楽表現の展開 1：音を表現する	予習	音の表現とはどういうことか調べ、考察する。	
				復習	活動内容をまとめる。	
	第7回	内容	音楽表現の展開 2：感受体験の基礎	予習	課題を行う。	
				復習	授業内容をまとめる。	
	第8回	内容	音楽表現の展開 3：感受体験の応用	予習	課題を行う。	
				復習	授業内容をまとめる。	
第9回	内容	音楽表現の展開 4：表現、歌唱表現 1：ハーモニーの基礎	予習	表現の準備をする。		
			復習	表現を振り返り、まとめる。		
第10回	内容	童謡をモチーフとした表現 1：教材研究	予習	課題を行う。		
			復習	授業内容をまとめる。		
第11回	内容	童謡をモチーフとした表現 2：表現法の計画	予習	コードについて確認しておく。		
			復習	活動内容をまとめる。		
第12回	内容	童謡をモチーフとした表現 3：表現法の応用	予習	課題を行う。		
			復習	活動内容をまとめる。		
第13回	内容	童謡をモチーフとした表現 4：発表	予習	表現法の練習をする。		
			復習	活動内容をまとめ、振り返る。		
第14回	内容	歌唱表現 2：ハーモニーの応用	予習	歌唱表現の練習をする。		
			復習	歌唱表現を振り返り、まとめる。		
第15回	内容	まとめ	予習	これまでの授業内容を確認する。		
			復習	音楽表現の意義について考え、まとめる。		
予習に要する学習時間：概ね 20 分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね 25 分を目安とする。						
課題へのフィードバック	各活動において、適宜コメントをする。					
成績評価	<p>試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない</p> <p>成績評価の方法： 筆記試験・レポート・課題（20%）、作品・発表（30%）、実技（30%）、授業態度（20%）</p>					
教科書	『最新・幼児の音楽教育 幼児教育教員・保育士養成のための音楽的表現の指導』（井口太編著、朝日出版） この他に、授業時にプリントを配布する。					
参考文献	『幼稚園・保育園のわらべうた・あそび（春・夏）』（畑玲子、知念直美、大倉三代子、明治図書） 『幼稚園・保育園のわらべうた・あそび（秋・冬）』（畑玲子、知念直美、大倉三代子、明治図書）					
注意事項	成績評価「授業態度」には、出席状況も含む。提出物は、期限を過ぎたら受け取らないので注意すること。実技については、練習をしておくこと。					

科目名	保育内容(造形表現Ⅰ)	単位数	1	実務経験	担当教員	とよいずみ なおみ 豊泉 尚美
ナバリンコート*	CHS1216	授業形態	演習	有・無		
授業の内容	この授業では、主に造形表現の教材研究を行います。 関連する他の教科とも連携を図りながら、学生一人ひとりが自分の表現力を身につけ、また他者の表現を受け入れることができる保育者を目指します。					
到達目標	1. パネルシアターや保育の様々な場面で使えるグッズをアイデア豊かに、丁寧に制作することができる。 2. 制作した作品を使って発表を行い、実習のさいに子どもの前で明るく、のびのびと表現する力を身につけている。 3. 制作した作品を通して、子どもたちとよく関わるることができる。					
学位授与方針	幼児教育学科(1・②・③・4・5・6・⑦) 地域保育学科(1・2・3・4・5) 文化表現学科(1・2・3・4)					
授業計画	第1回	内容	幼児の表現力・保育者の表現力の重要性について(授業ガイダンス)	予習	授業についてシラバスを読んでくる。	
				復習	授業ガイダンスをまとめる。	
	第2回	内容	自己紹介(保育用)グッズの制作(1)デザイン	予習	制作のための情報と素材収集をする。	
				復習	必要に応じて制作を進める。	
	第3回	内容	自己紹介グッズの制作(2)作品を完成する	予習	制作に必要な素材・道具を準備する。	
				復習	必要に応じて制作を進める。	
	第4回	内容	自己紹介グッズの発表	予習	発表方法を考え、練習してくる。	
				復習	自分の発表を振り返る。 (「遊びのシート」に記入)	
	第5回	内容	パネルシアターについて(制作の説明)	予習	パネルシアターについて調べる。	
				復習	授業の説明をまとめる。	
	第6回	内容	パネルシアター制作(1)作品を決める	予習	図書館で制作のための情報を集める。	
				復習	制作のための情報をまとめておく。	
	第7回	内容	パネルシアター制作(2)下絵を描く	予習	制作する作品の下絵を準備する。	
				復習	進度に応じて制作を進める。	
	第8回	内容	パネルシアター制作(彩色する)	予習	制作に必要な素材・道具を準備する。	
				復習	進度に応じて制作を進める。	
第9回	内容	パネルシアター制作(彩色する)	予習	制作に生かせる造形テクニックを調べる。		
			復習	進度に応じて制作を進める。		
第10回	内容	パネルシアター制作(彩色する)	予習	発表を念頭に、台詞や歌の練習をする。		
			復習	進度に応じて制作を進める。		
第11回	内容	パネルシアター制作(しかけ作り)	予習	制作に必要なしかけ作りの方法を調べる。		
			復習	進度に応じて制作を進める。		
第12回	内容	表現の工夫をする。演出について考える	予習	発表を念頭に、台詞や歌の練習をする。		
			復習	制作や演出でわからないところがないか、最終チェックをする。		
第13回	内容	パネルシアター発表(1)約15名	予習	発表に向けて練習をする。		
			復習	発表の振り返りをし「遊びのシート」に記入		
第14回	内容	パネルシアター発表(2)約15名	予習	発表に向けて練習をする。		
			復習	発表の振り返りをし「遊びのシート」に記入		
第15回	内容	パネルシアター発表(3)約10名・講評	予習	発表に向けて練習をする。		
			復習	発表の振り返りをし「遊びのシート」に記入		
予習に要する学習時間：概ね 20分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね 25分を目安とする。						
課題へのフィードバック	課題(制作した作品と発表)に対して、講師がコメントを行う。					
成績評価	試験期間における定期試験：実施()する/(○)しない 成績評価の方法：筆記試験()%、レポート・課題(10%)、作品・発表(70%)、実技()%、授業態度(20%)					
教科書						
参考文献	授業中に随時紹介する。					
注意事項	パネルシアター制作のために、Pペーパー(1セット¥800)が必要である。					

科目名	保育内容（音楽表現Ⅱ）	単位数	1	実務経験	担当教員	はせがわ きょうこ 長谷川 恭子
ナバリングコード	CHS1221	授業形態	演習	有・無		
授業の内容	<p>保育における音楽表現では、体験と感受をバランス良く経験することで、豊かな感性や資質・能力が育成される。保育者は、そのための音楽経験の楽しさと音楽の美しさを展開する技術が必要である。</p> <p>この授業では、「表現」領域における音楽教育の観点を理解し、模擬保育を実践することで、保育で展開できる指導技術を修得する。</p>					
到達目標	<p>1. 表現領域「音楽」の意義を理解し、幼児教育・保育に関する音楽表現の知識と技能を応用できる。</p> <p>2. 保育における音楽表現の活動のねらいを理解し、指導内容と援助について計画できる。</p> <p>3. 幼児期の音楽教育について自身の保育感を持ち、それをもとに音楽表現の応用や教材選択をすることができる。</p>					
学位授与方針	幼児教育学科（1・2・③・④・5・6・⑦）地域保育学科（1・2・3・4・5）文化表現学科（1・2・3・4）					
授業計画	第1回	内容	オリエンテーション	予習	シラバスを読んでおく。	
				復習	授業の主旨と習得すべき内容を理解する。	
	第2回	内容	保育における音楽表現の実際 1：オルフ・シュールベルク	予習	教科書のオルフ・シュールベルクの部分を読む。	
				復習	配布プリントを参考に、授業内容をまとめる。	
	第3回	内容	保育における音楽表現の実際 2：コダーイ・コンセプト	予習	教科書のコダーイ・コンセプトの部分を読む。	
				復習	配布プリントを参考に、授業内容をまとめる。	
	第4回	内容	アンサンブルの表現 1：教材研究	予習	拍とリズムについて確認し、理解しておく。	
				復習	授業で扱った教材を練習し、リズムを理解する。	
	第5回	内容	アンサンブルの表現 2：教材の応用	予習	打楽器の奏法について、教科書を確認する。	
				復習	課題の作成方法を確認し、まとめる。	
	第6回	内容	アンサンブルの表現 3：発表とふりかえり	予習	課題の発表の練習をする。	
				復習	活動の手順を振り返り、まとめる。	
	第7回	内容	わらべうたによる保育の基礎	予習	わらべうたの定義について調べる。	
				復習	配布プリントを参考に、授業内容をまとめる。	
	第8回	内容	わらべうたによる保育の実際（外部講師）	予習	第7回の予習・復習内容を確認する。	
				復習	授業内容をまとめ、振り返りをする。	
第9回	内容	指導案の作成 1：保育のねらいと教材の選択	予習	第7回・第8回の授業内容を確認する。		
			復習	配布プリントを参考に、授業内容をまとめる。		
第10回	内容	指導案の作成 2：指導内容の計画	予習	幼児の発達について確認しておく。		
			復習	指導内容の計画法についてまとめ、理解する。		
第11回	内容	指導案の作成 3：指導案の修正とシミュレーション	予習	第9回・第10回の授業内容を確認する。		
			復習	授業内容をまとめる。		
第12回	内容	模擬保育 1 Aグループの模擬保育とふりかえり	予習	模擬保育の手順を確認し、練習をする。		
			復習	模擬保育を実施した結果をふまえ、振り返る。		
第13回	内容	模擬保育 2 Bグループの模擬保育とふりかえり	予習	模擬保育の手順を確認し、練習をする。		
			復習	模擬保育を実施した結果をふまえ、振り返る。		
第14回	内容	模擬保育 3 Cグループの模擬保育とふりかえり	予習	模擬保育の手順を確認し、練習をする。		
			復習	模擬保育を実施した結果をふまえ、振り返る。		
第15回	内容	模擬保育 4 Dグループの模擬保育とふりかえり、まとめ	予習	模擬保育の手順を確認し、練習をする。		
			復習	模擬保育を振り返る。音楽表現指導について考察する。		
予習に要する学習時間：概ね 20 分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね 25 分を目安とする。						
課題へのフィードバック	各活動において、適宜コメントをする。					
成績評価	<p>試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない</p> <p>成績評価の方法： レポート・課題（20%）、発表（30%）、実技（30%）、授業態度（20%）</p>					
教科書	『最新・幼児の音楽教育 幼児教育教員・保育士養成のための音楽的表現の指導』（井口太編著、朝日出版） この他に、授業時にプリントを配布する。					
参考文献	『わらべうた わたしたちの音楽—保育園・幼稚園の実践』（コダーイ芸術教育研究所、明治図書出版） 『幼稚園・保育園のわらべうたあそび春・夏』『幼稚園・保育園のわらべうたあそび秋・冬』（畑玲子、明治図書出版）					
注意事項	成績評価「授業態度」には、出席状況も含む。提出物は、期限を過ぎたら受け取らないので注意すること。実技については、練習をしておくこと。外部講師の事情により、授業計画の順番が変更になる場合がある。					

科目名	保育内容（造形表現Ⅱ）	単位数	1	実務経験	担当教員	とよいずみ なおみ 豊泉 尚美
ナンバリングコード	CHS1222	授業形態	演習	有・無		
授業の内容	この授業では、幼児の造形表現について理解を深め、子どもの表現意欲を高めるために望ましい援助のありかたを考えます。そのために、子どもの興味・関心から出発する「プロジェクト」活動を行います。その中でとくに「子どもと自然をむすぶ」ことを大切にしていきます。					
到達目標	1. 子どもの発達に即した造形活動の指導計画が立案できる。 2. 子どもの興味・関心から出発したテーマをグループで協同して制作し、表現することができる。 3. この授業内容が他の保育内容の授業と密接につながっていることが理解できる。 4. 自然と生命を大切にすることをもち、それを子どもに伝えることができる。					
学位授与方針	幼児教育学科（1・②・③・4・5・⑥・⑦） 地域保育学科（1・2・3・4・5） 文化表現学科（1・2・3・4）					
授業計画	第1回	内容	授業のねらいや進め方について	予習	シラバスを読んでくる。	
				復習	授業のガイダンスをまとめる。	
	第2回	内容	造形活動の立案 (1) 画材と自然素材を使って	予習	クレヨンと自然素材を準備する。	
				復習	造形活動のプロセスと振り返りをまとめる。	
	第3回	内容	造形活動の立案 (2) 自然素材のスタンピング	予習	自然素材と技法について調べる。	
				復習	造形活動のプロセスをまとめ、振り返る。	
	第4回	内容	造形活動の立案 (3) 自然素材のコラージュ	予習	自然素材を準備し、技法について調べる。	
				復習	造形活動のプロセスをまとめ、振り返る。	
	第5回	内容	造形活動の立案 (4) 自然素材を対象として	予習	自然素材とその活用法を調べる。	
				復習	造形活動のプロセスをまとめ、振り返る。	
	第6回	内容	子どもの表現について～描画を中心に～	予習	子どもの絵について調べる。	
				復習	子どもの描画についてまとめる。	
	第7回	内容	レッジョ・エミリアの幼児教育について	予習	レッジョ・エミリアについて調べる。	
				復習	レッジョ・エミリアの幼児教育についてまとめる。	
	第8回	内容	プロジェクトのテーマを探す。	予習	レッジョ・エミリアのプロジェクトについて調べる。	
				復習	プロジェクトのテーマについてまとめる。	
	第9回	内容	プロジェクトについて、グループで話し合う。	予習	プロジェクトの展開について考える。	
				復習	グループで話し合ったことをまとめる。	
	第10回	内容	制作活動 (1) テーマに沿ったデザインをする。	予習	制作に必要な素材と道具を準備する。	
				復習	制作したプロセスをまとめる。	
	第11回	内容	制作活動 (2) 作品の制作を続ける。	予習	制作に必要な素材を準備し、技法を調べる。	
				復習	制作したプロセスをまとめる。	
	第12回	内容	制作活動 (3) 作品を完成させる。	予習	制作の工夫点を調べる。	
				復習	作品完成後の振り返りをまとめる。	
	第13回	内容	ドキュメンテーションの作成 (1)	予習	ドキュメンテーション作成に必要な情報を集める。	
				復習	ドキュメンテーション作成のプロセスをまとめる。	
	第14回	内容	ドキュメンテーションの作成 (2)	予習	ドキュメンテーションに必要な情報を集める。	
復習				ドキュメンテーション完成に必要な作業をする。		
第15回	内容	プロジェクトについて発表する。	予習	自分のグループの作品・プロジェクトのプロセスの発表を練習する。		
			復習	発表の振り返りをまとめる。		
予習に要する学習時間：概ね20分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね25分を目安とする。						
課題へのフィードバック	課題発表の際、各グループの講評を行い、アドバイスする。					
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法：筆記試験（ ）％、レポート・課題（10％）、作品・発表（60％）、実技（ ）％、授業態度（30％）					
教科書	『地球市民を育てる』森下英美子・豊泉尚美 著・圭文社					
参考文献	『センス・オブ・ワンダー』レイチェル・カーソン 著・新潮社 『子どもたちの100の言葉』レッジョ・チルドレン編・学習研究社					
注意事項	プロジェクト活動のための素材、道具類は。講師が一部用意するが、その他は各グループで準備すること。					

科目名	保育指導方法	単位数	2	実務経験	担当教員	まるはし さとみ 丸橋 聡美
ナンバリングコード	EDU1223	授業形態	演習	有・無		
授業の内容	園生活のなかで、子どもの個と集団が共に育ちあうような保育を行っていくことが大切である。育つことが期待される心情、意欲、態度などが保育のねらいであり、それを達成するための保育の方法を学ぶ。授業を通して乳幼児の生活を支え、子どもの発達を保障する保育を展開できる保育者をめざすための指導方法について考え、身につけていく。					
到達目標	1. 保育者としての基本的な姿勢や技能を身につけている。 2. 生活態度や生活技術を身につけている 3. 遊びを通して子どもの発達が保障されるような実践力・保育指導力を身につけている					
学位授与方針	幼児教育学科 (1・②・③・④・5・6・⑦) 地域保育学科 (1・2・3・4・5) 文化表現学科 (1・2・3・4)					
授業計画	第1回	内容	オリエンテーション	予習	講義内容を読んでおく	
				復習	この科目で習得すべき内容を理解する	
	第2回	内容	保育指導方法とは	予習	保育のねらいを調べる	
				復習	保育指導方法についてまとめる	
	第3回	内容	生活する力を育む保育方法	予習	保育所での子どもの生活を調べる	
				復習	生活する力とは何かを考える	
	第4回	内容	保育の環境構成について	予習	保育の環境を調べる	
				復習	子どもに即した保育の環境をまとめる	
	第5回	内容	子どもの生活環境について	予習	自身の生活環境を振り返る	
				復習	生活環境を整える技術を身につける	
	第6回	内容	子どもと集団指導	予習	集団について調べる	
				復習	個と集団指導の関連性をまとめる	
	第7回	内容	5歳児の発達と遊び①	予習	5歳児の遊びを調べる	
				復習	幼稚園や保育園での5歳児の遊びをまとめる	
	第8回	内容	5歳児の発達と遊び②事例検討(グループワーク・発表)	予習	当該事例プリントを読んでおく	
				復習	事例を通し、指導方法を理解する	
	第9回	内容	5歳児の保育の実践①作成	予習	制作活動の留意点を考える	
				復習	制作物を仕上げる	
	第10回	内容	5歳児の保育の実践②作成(グループワーク)	予習	制作物を使った活動の方法を考える	
				復習	グループワークでの意見をまとめる	
第11回	内容	5歳児の保育の実践③模擬保育(グループワーク・発表)	予習	模擬保育を行うための準備をする		
			復習	実践の振り返りをまとめる		
第12回	内容	5歳児の保育の実践④指導計画案の説明	予習	活動を展開するための課題をみつける		
			復習	指導案の書き方を理解する		
第13回	内容	5歳児の保育の実践⑤指導案の作成(まとめ)	予習	指導案をどのように立案するか考える		
			復習	5歳児の指導案を仕上げる		
第14回	内容	4歳児の発達と遊び①	予習	4歳児の遊びを調べる		
			復習	幼稚園や保育園での遊びをまとめる		
第15回	内容	4歳児の発達と遊び②事例検討(グループワーク)	予習	当該事例資料を読んでおく		
			復習	事例を通し、指導方法を理解する		
第16回	内容	4歳児の保育の実践①作成(グループワーク)		制作活動の留意点を考える		
			復習	ものを使った指導方法をまとめる		
第17回	内容	4歳児の保育の実践②模擬保育(発表)		模擬保育を行うための準備をする		
			復習	実践の振り返りをまとめる		
第18回	内容	4歳児の保育の実践③指導案作成(まとめ)	予習	活動を展開するための課題をみつける		
			復習	4歳児の指導案を仕上げる		
第19回	内容	3歳児の発達と遊び①	予習	3歳児の遊びを調べる		
			復習	幼稚園や保育園での遊びをまとめる		
第20回	内容	3歳児の発達と遊び②事例検討(グループワーク)	予習	当該事例資料を読んでおく		
			復習	事例を通し、指導方法を理解する		

授 業 計 画	第 21 回	内容	3 歳児の保育の実践①作成（グループワーク）	予習	制作活動の留意点を考える
				復習	ものを使った指導方法を考える
	第 22 回	内容	3 歳児の保育の実践②模擬保育（発表）	予習	模擬保育を行うための準備をする
				復習	実践の振り返りをまとめる
	第 23 回	内容	3 歳児の保育の実践③指導案作成（まとめ）	予習	活動を展開するための課題を見つける
				復習	3 歳児の指導案を仕上げる
	第 24 回	内容	1.2 歳児の発達と遊び 事例検討（グループワーク）	予習	当該事例資料を読んでおく
				復習	1.2 歳児の遊びをまとめる
	第 25 回	内容	1.2 歳児の保育の実践①作成	予習	制作活動の留意点を考える
				復習	ものを使った指導方法を考える
	第 26 回	内容	1.2 歳児の保育の実践②模擬保育	予習	模擬保育を行うための準備をする
				復習	実践の振り返りをまとめる
	第 27 回	内容	1.2 歳児の保育の実践③指導案作成（まとめ）	予習	活動を展開するための課題を見つける
				復習	1.2 歳児の指導案を仕上げる
	第 28 回	内容	0 歳児の発達と遊び 事例検討（グループワーク）	予習	当該事例資料を読んでおく
				復習	グループでの意見をまとめる
	第 29 回	内容	0 歳児の保育の実践	予習	制作活動の留意点を考える
				復習	ものを使った指導方法をまとめる
	第 30 回	内容	総括	予習	30 回分の授業内容を振り返る
				復習	保育を行う際の指導のあり方をまとめる
予習に要する学習時間：概ね 15 分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね 30 分を目安とする。					
課題へのフィードバック	発表や課題に対してコメントを行う				
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（ ○ ）しない 成績評価の方法： 課題（ 30%）、作品・発表（ 20%）、実技（ 20%）、授業態度（ 30%）				
教科書	『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』 『幼稚園・保育所・施設実習 ～子どもの育ちと安全を守る保育者を目指して～』（茗井編著、大学図書出版）				
参考文献	なし				
注意事項	・実技を行うため、忘れ物に注意すること。 ・欠席しないこと（グループワークが多く、教育・保育所実習を視野に入れ授業を展開していくため）				

科目名	保育指導方法	単位数	2	実務経験	担当教員	しまだ さだこ 眞田 貞子
ナバリンコート	EDU1223	授業形態	演習	有・無		
授業の内容	3法令に基づき、各領域のねらい及び内容を理解して総合的に保育実践できる知識や技術を習得する。また、乳幼児期の発達を理解した上で、各年齢や時期に適した保育指導方法を学び実践できるようにする。子どもが安全・安心して過ごし、遊べる環境構成や教材教具を考え作成し活用し、保育場面での適切な援助方法を考え理解する。さらに、指導計画を立ててPDCAサイクルを学び実践できる。					
到達目標	1.乳幼児期の発達を理解し、各年齢や発達段階、季節や行事に合わせた指導方法を考え計画できる。 2.さまざまな保育教材、保育方法、環境構成の在り方を学び、自分の得意な分野を生かし実践できる。 3.保護者支援を始め、教職員と連携して協働ができるコミュニケーション能力を身に付けている。 4.保育実践の歴史から、保育方法や指導方法のあり方を学び理解し、応用できる。					
学位授与方針	幼児教育学科(1・2・3・4・5・6・7) 地域保育学科(1・2・3・4・5) 文化表現学科(1・2・3・4)					
授業計画	第1回	内容	オリエンテーション(授業の進め方と評価方法について)	予習	シラバスを読んでおく	
				復習	この科目の内容と到達目標を理解する	
	第2回	内容	3法令に基づいた各領域のねらい・内容を理解する	予習	幼稚園教育要領、保育所保育指針等を読む	
				復習	3法令のねらいと内容をまとめる	
	第3回	内容	児童文化財について理解する	予習	児童文化財について調べる	
				復習	児童文化財の内容をまとめる	
	第4回	内容	手遊び・絵本を実践してみよう① 各年齢に適した手遊び・絵本を選び模擬保育	予習	手遊び・絵本を選び練習をする	
				復習	各年齢に合った手遊び・絵本をまとめる	
	第5回	内容	手遊び・絵本を実践してみよう② 手遊び・絵本の部分実習指導案を考えてみよう	予習	手遊び・絵本の部分実習指導案を考える	
				復習	手遊び・絵本の部分実習指導案を作成する	
	第6回	内容	手遊び・紙芝居を演じてみよう① 季節に合った手遊び・紙芝居を選び模擬保育	予習	手遊び・紙芝居を選び練習をする	
				復習	各年齢に合った手遊び・紙芝居をまとめる	
	第7回	内容	手遊び・紙芝居を演じてみよう② 部分実習指導案を考えて計画してみよう	予習	手遊び・紙芝居の部分実習指導案を考える	
				復習	手遊び・紙芝居の部分実習指導案を作成する	
	第8回	内容	わらべ歌・素話を発表してみよう①	予習	各年齢に合ったわらべ歌と素話を調べる	
				復習	各年齢に適したわらべ歌と素話をまとめる	
	第9回	内容	わらべ歌・素話を発表してみよう②	予習	わらべ歌と素話を選んで覚える	
				復習	さまざまなわらべ歌と素話をまとめる	
	第10回	内容	ゲームや運動遊びを調べてみよう①	予習	子どもの年齢に適したゲームを調べる	
				復習	子どもが楽しめるゲーム・館設設定をまとめる	
第11回	内容	ゲームや運動遊びを調べてみよう②	予習	子どもの各年齢に適した運動遊びを調べる		
			復習	子どもが楽しめる運動遊びの意義をまとめる		
第12回	内容	作って遊べるおもちゃを制作してみよう	予習	廃材等を利用した遊べるおもちゃを調べる		
			復習	遊びを発展させるおもちゃをまとめる		
第13回	内容	誕生日会の実施方法を考え実施してみよう①	予習	誕生日会の意義について調べる		
			復習	各園の誕生日会の実施方法について理解する		
第14回	内容	誕生日会の実施方法を考え実施してみよう②	予習	各園での誕生会のあり方を調べる		
			復習	誕生日会の実施方法をグループワークする		
第15回	内容	誕生日会の実施方法を考え実施してみよう③ まとめ(第1~15回)	予習	誕生日会の実施方法の発表練習をしておく		
			復習	1~15回までの授業の理解をして実践できる		
第16回	内容	統合保育・インクルーシブな保育の支援方法① 障害・発達障害の理解と援助方法~事例紹介~	予習	障害・発達障害について理解する		
			復習	支援・援助方法についてまとめる		
第17回	内容	統合保育・インクルーシブな保育の支援方法② 個別の指導計画について考えてみよう	予習	個別の指導計画について理解する		
			復習	個別の指導計画を考えてみる		
第18回	内容	統合保育・インクルーシブな保育の支援方法③ 教職員間、専門家、保護者との協力・連携	予習	教職員・保護者との連携・協力を理解する		
			復習	教職員・保護者との連携方法をまとめる		
第19回	内容	統合保育・インクルーシブな保育の支援方法④ 支援グッズを制作してみよう	予習	保育現場の事例から支援方法を考える		
			復習	保育現場の事例から支援方法を理解する		
第20回	内容	統合保育・インクルーシブな保育の支援方法⑤ 作成した支援グッズを発表してみよう	予習	保育現場で活用できる支援グッズを作成する		
			復習	作成した支援グッズの活用方法をまとめる		

授 業 計 画	第21回	内容	指導計画の実際① グループワーク 教育・保育方針、目標を考えてみよう	予習	幼稚園教育要領・保育所保育指針を読んでおく
				復習	3法令を読み理解しまとめる
	第22回	内容	指導計画の実際② グループワーク 年間行事予定を作ってみよう	予習	保育現場での園行事を調べておく
				復習	グループワークした行事予定を作成する
	第23回	内容	指導計画の実際③ グループワーク 月案・週案を考えてみよう	予習	教科書の第3章「保育計画」を読んでおく
				復習	グループで相談した月案・週案をまとめる
	第24回	内容	指導計画の実際④ グループワーク 日案を計画してみよう	予習	月案・週案を理解しておく
				復習	各年齢に合わせた日案を作成してみる
	第25回	内容	指導計画の実際⑤ グループワーク 日案を実践・発表してみよう	予習	各自が作成した日案の発表準備をする
				復習	グループで発表した日案をまとめる
	第26回	内容	保育者間・保護者・専門家との連携	予習	チーム保育、協働について調べておく
				復習	連携・協働について理解する
	第27回	内容	保護者・子育て支援について	予習	保護者・子育て支援について調べる
				復習	家庭との協力、子育て支援について理解する
	第28回	内容	保・幼・こども園・小学校との連携	予習	教科書第9章「小学校との連携」を読んでおく
				復習	保幼小連携の様々な取り組みをまとめておく
	第29回	内容	保育技術を発表しあってみよう	予習	各自、得意な保育技術を練習しておこう
				復習	互いの発表を見聞して良い点を確認しよう
	第30回	内容	保育現場における今後の課題について まとめ(第16～30回)	予習	保育指導や保育技術についてまとめる
				復習	第16～30回までのまとめを理解する
予習に要する学習時間：概ね 30分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね 30分を目安とする。					
課題へのフィードバック	確認テストは解説する。レポート・課題、発表棟にはコメントを行う。				
成績評価	試験期間における定期試験：実施（○）する／（ ）しない 成績評価の方法：筆記試験（20％）、レポート・課題（20％）、作品・発表（20％）、実技（20％）、授業態度（20％）				
教科書	『保育方法の基礎』（柴崎正行編、わかば社）				
参考文献	『幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携認定こども園教育・保育要領』わかば社、 『新版障害児保育』一藝社 谷田貝公昭・石橋哲成監修				
注意事項	レポート・課題等は提出期限を守り、また、積極的に発表・実技を実施し、保育技術を身に付けて欲しい。				

科目名	指導技術	単位数	2	実務経験	担当教員 みやばやし よしこ 宮林 佳子
ナンバリングコード	EDU1214	授業形態	演習	有・無	
授業の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児の発達段階に沿った、興味・関心を引き出せるような活動方法を身につける。 ・ 各教科で培った知識を総合的に活用し、保育者として必要な心構えや専門性を高め、保育現場をイメージしながら指導技術を習得する。 ・ 未分化な子ども達にとって園生活は関係性と連続性が求められる子ども達の感性を広げていけるよう物を作る、描くということを中心に様々な保育技術を習得する。 ・ 子ども達一人ひとりの気持ちに寄り添える言葉や態度を身につけていく。 				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの発達の特徴を知ると共に、興味・関心を捉える視点を身につけている。 2. 子どもに適した絵本やおはなしについて説明できる。 3. 子どもの気持ちや表現に寄り添う力を身につけている。 4. 協力しながら進めることで保育者としての資質を身につけている。 				
学位授与方針	幼児教育学科 (1・2・3・4・5・6・7) 地域保育学科 (1・2・3・4・5) 文化表現学科 (1・2・3・4)				
授業計画	第1回	内容	授業の概要説明 (構成、展開、目的、成績評価など)	予習	シラバスを読む
				復習	この科目で習得すべき内容を理解する
	第2回	内容	保育園の基本的な生活と一日の活動	予習	保育園と幼稚園、こども園の違いを調べる
				復習	保育園の基本的な活動をまとめる
	第3回	内容	絵本の世界を楽しみながら想像を広げる	予習	自分の好きな絵本を読む
				復習	各年齢向けの絵本を選べるよう注意点をまとめる
	第4回	内容	絵本の選び方	予習	読み聞かせの環境について考える
				復習	アクセントやイントネーションについてまとめる
	第5回	内容	展開と導入について	予習	導入について手遊びを考えてくる
				復習	対象年齢の絵本をまとめる
	第6回	内容	第3回～第5回の活動を基に計画を立てる	予習	第3回～第5回の授業の内容を読む
				復習	指導案にまとめる
	第7回	内容	計画を基に実践発表し自己評価する	予習	実践発表できるよう準備する
				復習	自己評価で足らなかった部分を考える
	第8回	内容	計画を基に実践発表し学び合う	予習	発表絵本を読んでくる
				復習	他の発表から学んだことをまとめる
	第9回	内容	集団遊び (ゲーム、ダンス等)	予習	発達や運動をイメージできるようにする
				復習	実践例をまとめる
	第10回	内容	紙遊び1 (折って遊ぶ)	予習	折り紙を折ってみる
				復習	子ども達への指導を考えながら折ってみる
	第11回	内容	紙遊び2 (ハサミの使い方)	予習	年齢に適したハサミを考える
				復習	指導の仕方と安全について考える
	第12回	内容	乳児期の活動 手作りオモチャ 1 (手の発達とオモチャ)	予習	乳児期をイメージできるようにする
				復習	発達を確認する
	第13回	内容	乳児期の活動 手作りオモチャ 2 (手の発達とオモチャ)	予習	実際の使用を考え教材を揃える
				復習	オモチャを作成し使用してみる
	第14回	内容	子ども達の気持ちに寄り添う保育とは (言葉かけ)	予習	実習日誌などを読み返してくる
				復習	気づいた事をまとめておく
	第15回	内容	前期の振り返りとまとめ	予習	ファイルをまとめる
				復習	ファイルを確認する
	第16回	内容	後期の授業の概要説明 (構成、展開、目的、成績評価など)	予習	後期のシラバスを読む
				復習	後期に習得すべき内容を理解する
	第17回	内容	発達と造形表現の活動のねらいと指導上の留意点	予習	テキストの発達指標を確認してくる
				復習	レポートを仕上げてくる
	第18回	内容	季節別・年齢別教材の作成 (切り紙構成1 指人形)	予習	テキストの必要箇所を読む
				復習	応用して作成してみる
	第19回	内容	季節別・年齢別教材の作成 (切り紙構成2 人体)	予習	テキストの必要箇所を読む
				復習	応用して作成してみる

	第20回	内容	季節別・年齢別教材の作成（幼児期の特徴的表現）	予習	テキストの必要箇所を読む
				復習	子供達の描いた絵を見る
授 業 計 画	第21回	内容	季節別・年齢別教材の作成 （絵の具での表現 1）	予習	テキストの必要箇所を読む
				復習	テキストで確認する
	第22回	内容	季節別・年齢別教材の作成 （絵の具での表現 2）	予習	テキストの必要箇所を読む
				復習	テキストで確認する
	第23回	内容	実習に向けて第17回～第22回の授業を基 に考え、指導案を作成する	予習	第17回～第22回の授業の内容を確認しておく
				復習	指導案にまとめる
	第24回	内容	計画を基に実践発表し自己評価する	予習	指導案を作成し発表準備をする
				復習	自己評価で足らなかった部分を考える
	第25回	内容	計画を基に実践発表し学び合う	予習	指導案を作成し発表準備をする
				復習	他の発表から学んだことをまとめる
	第26回	内容	みんなでつくる造形表現 （集合制作・共同制作）	予習	テキストの必要箇所を読む
				復習	共同で作る時と個人で作る時の目的を考える
	第27回	内容	運動遊び1（座学）	予習	運動遊びについて調べる
				復習	様々な目的をまとめる
	第28回	内容	運動遊び2（実践）	予習	実際に動けるようにしておく
				復習	子ども達が集団で遊ぶ際の留意点をまとめる
	第29回	内容	子ども達の気持ちに寄り添う保育とは （資質向上）	予習	実際の出来事を振り返る
				復習	子どもにとって大切なことは何か考える
	第30回	内容	一年間の振り返りとまとめ	予習	30回のファイルをまとめる
				復習	30回を振り返り今後役に立てる
予習に要する学習時間：概ね 20 分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね 30 分を目安とする。					
課題へのフィードバック	レポート課題などに対しては参考資料等を提示する。□作品・発表・実技等はモデルを示すとともに個々にフィードバックを行う。				
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（ ○ ）しない 成績評価の方法： レポート・課題（30%）、作品・発表（20%）、実技（20%）、授業態度（30%）				
教科書	『絵の具大好き絶対描きたくなる！幼児の絵画活動季節別・年齢別題材50』宮林佳子著 明治図書				
参考文献					
注意事項					

科目名	教育相談	単位数	2	実務経験	担当教員	あおやま ゆき 青山 有希	
ナバリングコード	EDP1222	授業形態	講義	有・無			
授業の内容	教育相談は、保護者に対して、家庭や園における子どもの問題について、プラスの方向にもっていくアドバイス等を行う実践活動である。本講義では、現場で役に立ち、かつ保護者の気持ちに寄り添う教育相談の実践力を身に付ける。						
到達目標	1. 教育相談の基本を習得している。 2. 保護者が元気に子育てできるようなアドバイス等を習得している。 3. 保護者の気持ちに寄り添うセンスや工夫を習得している。						
学位授与方針	幼児教育学科 (①・②・③・④・⑤・⑥・⑦) 地域保育学科 (1・2・3・4・5) 文化表現学科 (1・2・3・4)						
授業計画	第1回	内容	オリエンテーション	予習	シラバスから分からない用語を調べレポートにまとめる		
				復習	この科目で習得すべき内容を理解する		
	第2回	内容	親になるということ① 妊娠期	予習	妊娠期の気持ちについて調べノートにまとめる		
				復習	学んだことをレポートにまとめる		
	第3回	内容	親になるということ② 出産	予習	出産時の気持ちについて調べノートにまとめる		
				復習	学んだことをレポートにまとめる		
	第4回	内容	保護者の信頼を得る文章作成方法	予習	アカデミックライティングについて調べノートにまとめる		
				復習	自分のノートの文法のミス等を赤で訂正する		
	第5回	内容	第一子の子育ての意味合い	予習	保護者に子育てについての感想を聞いてノートにまとめる		
				復習	学んだことをレポートにまとめる		
	第6回	内容	発達の凸凹のある子どもの子育て	予習	発達の凸凹について調べノートにまとめる		
				復習	学んだことをレポートにまとめる		
	第7回	内容	障がいのある子どもの子育て	予習	障がいについて調べノートにまとめる		
				復習	学んだことをレポートにまとめる		
	第8回	内容	難しい親への対応	予習	難しい親への対応について調べノートにまとめる		
				復習	保育者として心がける点をノートにまとめる		
	第9回	内容	教育相談で心がけること	予習	保育者として面談等で心がける点をノートにまとめる		
				復習	学んだことをレポートにまとめる		
	第10回	内容	学習到達確認課題	予習	今までのノート・資料を読んでおく		
				復習	シラバスと照らし合わせ自分の学びの状況を振り返る		
	第11回	内容	教育相談の支援内容	予習	実習で出会った難しい事例をノートにまとめる		
				復習	保育者として心がける点をノートにまとめる		
	第12回	内容	グループワーク① 親を元気にする支援方法	予習	保護者を元気にする言葉をリストアップする		
				復習	他の学習者から得た言葉をノートにまとめる		
	第13回	内容	グループワーク② 子どもを元気にする支援方法	予習	子どもを元気にする言葉をリストアップする		
				復習	他の学習者から得た言葉をノートにまとめる		
	第14回	内容	グループワーク③ 親子を元気にする支援方法	予習	親子を元気にする言葉をリストアップする		
				復習	他の学習者から得た言葉をノートにまとめる		
	第15回	内容	振り返りとまとめ	予習	自分の学びを振り返ってまとめる		
				復習	講師・他の学習者の視点をノートにまとめる		
	予習に要する学習時間：概ね 90 分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね 90 分を目安とする。						
	課題へのフィードバック	コメントを添えて返却する					
成績評価	試験期間における定期試験：実施 () する / (○) しない 成績評価の方法：筆記試験 () %、レポート・課題 (25%)、作品・発表 (25%)、実技 () %、授業態度 (50%)						
教科書	出版後指示する。それまでは適宜資料を配布する。						
参考文献	『子どものこころを育てる「ひとこと」探し』(菅野 純、ほんの森出版) 『子どもの問題と「いまできること」探し』(菅野 純、ほんの森出版)						
注意事項	1. 積極的に自分の感じ考えたことを発言することを期待する。 2. 体験学習も行うので「楽しみながら」取り組むことを期待する。						

科目名	教育相談	単位数	2	実務経験	担当教員 いまみず ゆたか 今水 豊
ナバリングコード	EDP1222	授業形態	講義	有・無	
授業の内容	教育相談は、家庭や幼稚園における子どものさまざまな問題について、その望ましい解決に向けて助言や援助を行う実践活動である。もちろんその有用性は保育園においても同様である。授業ではまず援助の前提となる子どもの発達の総まとめをする。次に子どもに起こりうる問題と相談場面の実際を紹介していく。				
到達目標	1.発達を多角的にとらえることができる 2.発達の知識と臨床心理学的な知識を援助活動に活かすことができる 3.相談に必要な臨床心理学的な見立てについて理解している				
学位授与方針	幼児教育学科（1・2・③・4・⑤・6・⑦）地域保育学科（1・2・3・4・5）文化表現学科（1・2・3・4）				
授業計画	第1回	内容	I 教育相談とは何か ①相談の必要性	予習	相談やカウンセリングについて考える
				復習	教育相談の意義を理解する
	第2回	内容	I 教育相談とは何か ②相談のながれ	予習	相談場面を想像する
				復習	相談のパターンを理解する
	第3回	内容	II 子どもの発達の特徴 ①発達の表の作成 (身体・運動・言語の発達)	予習	左記の子どもの発達について考える
				復習	表を通して発達の特徴を理解する
	第4回	内容	II 子どもの発達の特徴 ②発達の表の作成 (認知・親子関係の発達)	予習	左記の子どもの発達について考える
				復習	表を通して認知の発達を理解する
	第5回	内容	II 子どもの発達の特徴 ③発達の表の作成 (親子関係の発達)	予習	母子関係の発達について考える
				復習	表を通して人間関係の発達を理解する
	第6回	内容	II 子どもの発達の特徴 ④発達の表の作成 (社会心理的発達)	予習	身体から親子関係までの発達を把握する
				復習	表を通じて子どもの発達を多角的に理解する
	第7回	内容	III 子どもに見られる発達・心理的問題 ①発達障害の実際	予習	発達障害の記事や話題を調べる
				復習	発達障害の実際を理解する
	第8回	内容	III 子どもに見られる発達・心理的問題 ②特別支援教育	予習	義務教育の支援について調べる
				復習	義務教育の支援を把握する
第9回	内容	III 子どもに見られる発達・心理的問題 ③養育者の実際	予習	養育者の苦勞を考える	
			復習	障害受容について理解する	
第10回	内容	III 子どもに見られる発達・心理的問題 ④虐待	予習	虐待の記事や話題を調べる	
			復習	虐待の心理的影響を把握する	
第11回	内容	III 子どもに見られる発達・心理的問題 ⑤大震災とPTSD	予習	東日本大震災当時を思い起こす	
			復習	PTSDについて理解する	
第12回	内容	III 子どもに見られる発達・心理的問題 ⑥心のケアの実際	予習	震災が子どもに及ぼす影響を考える	
			復習	子どもの反応と対応を理解し、その時に備える	
第13回	内容	IV 相談の実際 ①教育相談の意義	予習	連携する相談機関を調べる	
			復習	教育相談の利点を理解する	
第14回	内容	IV 相談の実際 ②遊戯療法	予習	遊戯療法について調べる	
			復習	遊戯療法の利点を理解する	
第15回	内容	IV 相談の実際 ③遊戯療法の実際	予習	遊戯療法について調べる	
			復習	子どもの見立てについて理解するw	
	予習に要する学習時間：概ね 90分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね 90分を目安とする。				
課題へのフィードバック	わからない内容や疑問に思うことは、授業後質問して理解すること。 定期テストについては実施後に答え合わせと解説を行う。				
成績評価	試験期間における定期試験： 実施（○）する／（ ）しない 成績評価の方法：筆記試験（50%）、レポート・課題（30%）、作品・発表（ %）、実技（ %）、授業態度（20%）				
教科書	なし（適宜資料を配布）				
参考文献	授業にて適宜紹介				
注意事項	教育相談では、保護者の相談ごとに耳を傾け、その心情を理解する謙虚な態度が不可欠である。 その姿勢を身につけるためにも、授業をしっかり聞き理解するという構えを求める。				

科目名	教育実習	単位数	4	実務経験	担当教員 おおくまみかこ しまださだこ 大熊美佳子・畠田貞子 他
ナンバリングコード	EDU1215	授業形態	実習	有・無	
授業の内容	教育実習は幼稚園教諭の免許状を取得するための必修科目である。これまで学んできた学校での理論を統合的に整理し、保育の場でどのように具現化・統合化されているのかを理解する。また、前期実習・後期実習を通し、幼稚園での子どもの生活や保育者の日々の営みについて理解し、幼稚園教諭（保育者）として必要な技術を習得していく。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育実習の意義を理解し、課題を持ち実習に臨むことができている。 2. 幼稚園の機能や活動内容を理解し、幼稚園教育の場を統合的に理解している。 3. 実習を通し、社会人としてのマナー、保育者としての使命感を認識することができている。 				
学位授与方針	幼児教育学科 ①・②・③・④・5・6・⑦ 地域保育学科 (1・2・3・4・5) 文化表現学科 (1・2・3・4)				
授業計画	<p>○前期教育実習：見学・観察・参加実習</p> <p>幼稚園で生活する子どもや保育者の日々の営みについて、見学・観察をする。また、子どもの実態や保育内容、保育者の職務等について理解を深める。具体的には、以下の5つのねらいを持ち10日間の実習を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 一日の保育の流れを理解する。 (2) 子どもの生活実態と活動の様子を理解する。 (3) 保育者の職務内容や保育活動について理解する。 (4) 保育者としての自覚・態度を確認する。 (5) 今後の学習の目標や自己課題について確認する。 <p>○後期教育実習：参加・指導実習</p> <p>前期実習での体験、大学で学んだ理論や技術を基に、幼稚園教育の場を統合的に理解する。また、実習生が主体となって指導する実践体験を積み重ねることにより、保育者論や指導技術の向上を図る。具体的には以下の3つのねらいを持ち、10日間の実習を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 幼稚園の機能や活動内容を理解する。 (2) 大学で学んだ理論や技術と実践との関連性を確認する。 (3) 社会人としてのマナー、保育者としての使命感等を認識する。 				
成績評価	<p>試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない</p> <p>成績評価の方法： 実習園による評価（50%）、実習日誌評価（50%）</p>				
教科書	『実習の手引き』（実習委員会）				
参考文献	『幼稚園教育要領』（文部科学省）				
注意事項	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「幼児教育研究」を履修し、準備をすると同時に実習生としてふさわしい言動を心がけること。 2. 実習関係書類の提出期限は厳守すること。 3. 「実習派遣規制」に基づき、実習の停止、中止等が行われる場合があるため注意すること。 				

科目名	幼児教育研究	単位数	1	実務経験	担当教員 おおくまみかこ しまださだこ 大熊美佳子・鳶田貞子 他
ナンバリングコード	EDU1224	授業形態	実習	㊦・無	
授業の内容	教育実習と並行して行われる授業であり、教育実習に関する事前事後の指導を行う。具体的には、教育実習の目的、幼稚園の機能、幼稚園教諭の職務内容について学ぶとともに、実習手続きに必要な書類の作成の指導を行っていく。前期・後期実習の各段階における実習内容や目的、実習記録の方法、指導計画の理解と作成について学習することを目的とする。				
到達目標	1. 教育実習の事前準備として、実習の心構えを理解し、実習に必要な態度や意欲を持つ。 2. 教育実習の事前準備として、実習の課題を明確にしている。 3. 2回の実習の事前事後指導を通し、保育者としての資質・能力を身につけている。				
学位授与方針	幼児教育学科 ①・②・③・④・5・6・7) 地域保育学科 (1・2・3・4・5) 文化表現学科 (1・2・3・4)				
授業計画	第1回	内容	幼稚園教育の意義・目的の理解	予習	
				復習	
	第2回	内容	教育実習の目的の理解	予習	
				復習	
	第3回	内容	前期実習の目的の理解	予習	
				復習	
	第4回	内容	前期実習参加の心得	予習	
				復習	
	第5回	内容	前期実習手続き書類の作成指導① 配当資料について	予習	
				復習	
	第6回	内容	前期実習手続き書類の作成指導② 調査書について	予習	
				復習	
	第7回	内容	前期実習内容① 幼稚園の一日の流れ	予習	
				復習	
	第8回	内容	前期実習内容② 参加・観察実習の留意点	予習	
				復習	
	第9回	内容	オリエンテーションについて	予習	
				復習	
	第10回	内容	実習中のマナーについて	予習	
				復習	
第11回	内容	前期実習日誌の作成指導① 実習園の概況・環境等	予習		
			復習		
第12回	内容	前期実習日誌の作成指導② 実習課題について	予習		
			復習		
第13回	内容	前期実習日誌の作成指導③ 保育の記録・振り返り	予習		
			復習		
第14回	内容	直前指導・まとめ	予習		
			復習		
第15回	内容	前期実習評価と反省	予習		
			復習		
第16回	内容	後期実習の目的・心得の理解	予習		
			復習		
第17回	内容	後期実習手続き書類の作成指導 調査書について	予習		
			復習		
第18回	内容	部分・責任実習の留意点	予習		
			復習		
第19回	内容	後期実習日誌の作成指導① 実習課題について	予習		
			復習		
第20回	内容	後期実習日誌の作成指導② 後期実習での視点について	予習		
			復習		

授 業 計 画	第 21 回	内容	後期実習日誌の作成指導③ 保育の記録・振り返り	予習	
				復習	
	第 22 回	内容	指導計画面案の作成指導① 指導案とは	予習	
				復習	
	第 23 回	内容	指導計画面案の作成指導② 指導案作成の留意点	予習	
				復習	
	第 24 回	内容	指導計画面案の作成指導③ 部分指導案作成（主活動：制作）	予習	
				復習	
	第 25 回	内容	指導計画面案の作成指導④ 部分指導案作成（主活動：ゲーム）	予習	
				復習	
	第 26 回	内容	指導計画面案の作成指導⑤ 日案作成	予習	
				復習	
第 27 回	内容	直前指導・まとめ	予習		
			復習		
第 28 回	内容	実習の総括① 振り返り（自己評価）	予習		
			復習		
第 29 回	内容	実習の総括② 振り返り（グループワーク）	予習		
			復習		
第 30 回	内容	実習の総括③ 成果報告	予習		
			復習		
予習に要する学習時間：概ね 分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね 分を目安とする。					
課題へのフィードバック	個別面談にて実習に関する評価を伝える。				
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法：レポート・課題（60%）、授業態度（40%）				
教科書	『実習の手引き』（実習委員会）				
参考文献	『幼稚園教育要領』（文部科学省）				
注意事項	1. 実習について必要な事柄や注意事項の説明、提出書類の作成を行うので、原則として欠席は認めない。 2. 実習書類の遅延、授業態度の怠慢等は「実習派遣規制」によって禁じられており、実習派遣できなくなるので十分に留意すること。				

科目名	保育・教職実践演習(幼稚園)		単位数	2	実務経験	担当教員 とよはずみ まるはし おおくま しまだ 豊 泉・丸橋・大熊・鳶田
ナンバリングコード	EDU1225		授業形態	演習	有・無	
授業の内容	<p>これまでの教育に関する科目および教職に関する科目の学修や実習経験を踏まえ、保育士・幼稚園教諭として必要な以下の4つの事項を中心に学びを振り返り、将来の教職生活のために自己課題を見つける。</p> <p>① 使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項 ② 社会性や対人関係能力に関する事項 ③ 幼児理解や学級経営等に関する事項 ④ 教科・保育内容等の指導力に関する事項</p> <p>尚、学生が主体的に学ぶことを基本とし、これまで履修してきた科目や実習のつながりを理解し、保育を総合的にとらえることができるよう演習を展開する。</p>					
到達目標	<p>幼児教育学科のディプロマポリシーに照らして、本演習を通して保育士・幼稚園教諭として必要な以下の資質能力を身につける。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 誠実で責任感が強く、社会人としての良識をわきまえた言動ができる。 2. 幼児教育学・保育学の知識と技能をしっかりと習得している。 3. 自分で積極的に課題を見つけて考えることができる。 4. 他の人たちと対話を重ね、互いの良さを生かして協働する姿勢を身につけている。 5. 子どもを取り巻く環境や、子どもを巡る様々な社会問題の理解を通して、多様なものの見方ができる。 6. 自然と生命を大切にする心を持ち、子どもと共に育ち合う姿勢を身につけている。 7. 他者の表現を認め、自らものびのびと自己表現をすることができる。 					
学位授与方針	幼児教育学科(①②③④⑤⑥⑦) 地域保育学科(1・2・3・4・5) 文化表現学科(1・2・3・4)					
授業計画	第1回	内容	保育・教職実践演習の授業の進め方について	予習	この授業についてシラバスを読んでおく。	
				復習	授業の概要をまとめる。	
	第2回	内容	保育者の役割、職務内容、子どもに対する責任等について (1)(講義・レポート)	予習	保育者の役割・職務内容について調べる。	
				復習	授業内容を振り返り、レポートを書く。	
	第3回	内容	保育者の役割、職務内容、子どもに対する責任等について (2)(グループ討論)	予習	グループ討論に必要な情報を集める。	
				復習	グループ討論の内容をまとめる。	
	第4回	内容	学級経営、学級経営案の作成について(講義・レポート)	予習	学級経営について調べる。	
				復習	授業内容を振り返り、レポートを書く。	
	第5回	内容	幼児の理解について(講義・レポート)	予習	幼児を理解する方法について調べる。	
				復習	講義内容を振り返り、レポートを書く。	
	第6回	内容	組織の一員としての自覚(講義・レポート)	予習	組織で協働することについて調べる。	
				復習	講義内容を振り返り、レポートを書く。	
	第7回	内容	保護者や地域の関係者との人間関係の構築について(グループ討論・ロールプレイ)	予習	保護者、地域関係者との交流について調べる。	
				復習	グループ討論、ロールプレイを振り返り、まとめる。	
	第8回	内容	子どもを取り巻く環境、子育てに関する社会問題について(講義・レポート)	予習	子どもを巡る社会問題について調べる。	
				復習	講義内容を振り返り、レポートを書く。	
	第9回	内容	感性と認識についてのフィールドワーク(自然保育実習)	予習	幼児の感性について調べる。	
				復習	自然保育実習を振り返り、レポートを書く。	
	第10回	内容	保育内容「表現」のグループワーク	予習	幼児の表現方法について調べる。	
				復習	講義内容を振り返り、まとめる。	
	第11回	内容	各種実習の振り返り(講義)	予習	各種実習について振り返る。	
				復習	講義内容を振り返り、まとめる。	
	第12回	内容	各種実習についてポスター作成(1)話し合い・作成の準備	予習	ポスター作成に必要な資料を集める。	
				復習	グループの話し合いを振り返り、まとめる。	
	第13回	内容	各種実習についてポスター作成(2)	予習	ポスターの完成に必要な資料を準備する。	
				復習	ポスターを完成する。	
	第14回	内容	ポスター発表	予習	ポスター発表の準備・練習をする。	
				復習	発表の振り返りをし、まとめる。	
	第15回	内容	授業全体の振り返り・資質能力の確認	予習	学科のディプロマポリシーを読み、自己課題を考える。	
				復習	授業全体を振り返り、自己課題をまとめる。	
予習に要する学習時間：概ね20分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね25分を目安とする。						

課題へのフィードバック	課題や発表、ドキュメンテーション等の作成後、講評を行う。
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法：筆記試験（ %）、レポート・課題（30%）、作品・発表（40%）、実技（ %）、授業態度（30%）
教科書	なし
参考文献	必要に応じて資料を配布する。
注意事項	

科目名	保育所実習 I	単位数	2	実務経験	担当教員	おぐち すぐる とりうみひろこ 小口 偉 ・ 鳥海弘子
ナンバリングコード	CHS1218	授業形態	実習	㊦・無		
授業の内容	<p>これまでに講義、演習で学んだ内容を基礎として、保育所保育、保育所の機能・役割、保育士の職務内容について、実際の保育の場で観察・参加実習をすることで理解を深める。実習中は課題を明確にし、日誌へ記録し考察をする。</p> <p>保育所実習のうち保育所実習 I は前期実習となる。</p>					
到達目標	<p>1. 保育所の 1 日の流れを理解している。</p> <p>2. 保育所の役割や機能について理解している。</p> <p>3. 保育士の職務内容を理解している。</p> <p>4. 観察、参加実習や子どもとの関わりを通して子どもを理解しようとする姿勢を身に付けている。</p>					
学位授与方針	<p>幼児教育学科 (①・②・③・④・⑤・⑥・⑦) 地域保育学科 (1・2・3・4・5) 文化表現学科 (1・2・3・4)</p>					
授業計画	第 1 回	内容	実習施設について理解する	予習		
				復習		
	第 2 回	内容	保育所における一日の流れを学ぶ	予習		
				復習		
	第 3 回	内容	観察と記録により子どもを理解する	予習		
				復習		
	第 4 回	内容	子どもの生活と遊びについて学ぶ	予習		
				復習		
	第 5 回	内容	子どもの発達過程を理解し援助や関わり方を学ぶ	予習		
				復習		
	第 6 回	内容	保育計画や発達過程に応じた保育内容を学ぶ	予習		
				復習		
	第 7 回	内容	保育の環境について学ぶ	予習		
				復習		
	第 8 回	内容	安全への配慮について学ぶ	予習		
				復習		
第 9 回	内容	保育者の個々の子どもへの対応について学ぶ	予習			
			復習			
第 10 回	内容	保育士の業務内容や役割分担、連携方法について学ぶ	予習			
			復習			
第 11 回	内容	保育士の役割と職業倫理について学ぶ	予習			
			復習			
第 12 回	内容	反省会を通し実習を振り返る	予習			
			復習			
第 13 回	内容		予習			
			復習			
第 14 回	内容		予習			
			復習			
第 15 回	内容		予習			
			復習			
予習に要する学習時間：概ね 分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね 分を目安とする。						
課題へのフィードバック	評価面談を実施する					
成績評価	<p>試験期間における定期試験：実施 () する / (○) しない</p> <p>成績評価の方法： 実習課題 (20%)、実習日誌 (30%)、施設による評価 (50%)</p>					
教科書	『実習の手引き』(実習委員会)、『保育所保育指針』・解説書、『幼稚園・保育所・施設実習』(茗井香保里 編著)					
参考文献	参考資料等、その都度プリント配布する					
注意事項	「保育所実習研究 I」等で学んだ内容を実践し、実習先にて指導を受けるとともに、しっかりと内容等について振り返りをする。書類、日誌等の提出の遅れや未提出などがあった場合、本学の「実習派遣規制」にのっとりた処分をする場合がある。					

科目名	施設実習	単位数	2	実務経験	担当教員	しのはらあみ みよしちから 志濃原亜美・三好力
ナンバリングコード	SOW1223	授業形態	実習	④・無		
授業の内容	施設実習を通して、施設の役割や機能、日々の生活の展開、利用者の理解と関係の形成、保育者としての職務内容等について実際に学習する。 保育士証を取得するため、保育実習（必修）の中に施設実習を行なうことが定められており、保育に関する講義や演習で学んできた内容を児童福祉施設、障害者支援施設等で実践するものである。					
到達目標	1. 居住型及び通所型児童福祉施設等の利用者の生活が理解できる。 2. 居住型及び通所型児童福祉施設等の保育士の役割について理解できる。 3. 居住型及び通所型児童福祉施設等の機能が理解できる。					
学位授与方針	幼児教育学科（1・②・3・4・⑤・6・7） 地域保育学科（1・2・3・4・5） 文化表現学科（1・2・3・4）					
授業計画	第1回	内容	実習施設の目的・機能の理解①（一日の生活の理解）	予習	一日の目標を立てる	
				復習	実習日誌をまとめる	
	第2回	内容	実習施設の目的・機能の理解②（利用児・者についての理解）	予習	一日の目標を立てる	
				復習	実習日誌をまとめる	
	第3回	内容	実習施設の人的・物的環境の理解①（施設職員の役割・協働について）	予習	一日の目標を立てる	
				復習	実習日誌をまとめる	
	第4回	内容	実習施設の人的・物的環境の理解②（施設の物的環境について）	予習	一日の目標を立てる	
				復習	実習日誌をまとめる	
	第5回	内容	施設の利用者の生活実態の把握と援助技術の習得①（利用者の生活実態の把握）	予習	今までの実習を振り返り次の目標を立てる	
				復習	実習日誌をまとめる	
	第6回	内容	施設の利用者の生活実態の把握と援助技術の習得②（利用者への援助）	予習	一日の目標を立てる	
				復習	実習日誌をまとめる	
	第7回	内容	施設の利用者の生活実態の把握と援助技術の習得③（利用者への援助のための間接業務）	予習	一日の目標を立てる	
				復習	実習日誌をまとめる 実習課題についてまとめ始める	
	第8回	内容	保育士の職務内容・役割・他職種との連携の理解①（施設で働く保育士の役割）	予習	一日の目標を立てる	
復習				実習日誌をまとめる		
第9回	内容	保育士の職務内容・役割・他職種との連携の理解②（保育士と他職種との連携）	予習	一日の目標を立てる		
			復習	実習日誌をまとめる		
第10回	内容	施設と地域・家庭・関係機関等との連携についての理解	予習	一日の目標を立てる		
			復習	実習日誌をまとめる		
第11回	内容	反省会・まとめ①	予習	一日の目標を立てる		
			復習	実習後半に向けての省察を行う 実習日誌をまとめる		
第12回	内容	実習施設の役割の理解	予習	一日の目標を立てる		
			復習	実習日誌をまとめる		
第13回	内容	実習施設の社会的機能の理解	予習	一日の目標を立てる		
			復習	実習日誌をまとめる		
第14回	内容	これからの施設の在り方への考察	予習	一日の目標を立てる		
			復習	実習日誌をまとめる		
第15回	内容	反省会・まとめ②	予習	一日の目標を立てる		
			復習	実習の総括をする日誌をまとめる		
予習に要する学習時間：概ね30分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね 30分を目安とする。						
課題へのフィードバック	実習巡回訪問指導による指導、および実習終了後の評価面談にて行う					
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（ ○ ）しない 成績評価の方法： 実習（ 80%）、レポート・課題（ 10%）、日誌等書類作成（ 10%）					
教科書	『保育福祉小六法2019年版』（保育福祉小六法編集委員会編、みらい）					
参考文献	施設種別毎の「実習園資料」（本学実習資料室のもの）等を、数多く参照すること。					

注意事項	<p>「福祉施設実習研究」で履修した内容を理解して実践すると同時に、施設の指導を受け、実習生としてふさわしい言動がとれるように、十分に留意すること。</p> <p>また、実習関係報告書類の提出遅延、実習中の怠惰、非行等があった場合は、本学の「実習派遣規制基準」によって、実習の停止、中止等が行なわれる場合があり、保育士証取得ができないことになるので注意すること。</p>
-------------	---

科目名	保育所実習Ⅱ		単位数	2	実務経験	担当教員 まるはしさとみ あさいたくや 丸橋聡美・浅井拓久也
ナンバリングコード	CHS1224	授業形態	実習	㊦・無		
授業の内容	保育士証取得を目的とする保育実習は、保育に関する講義や演習で学んできた内容を保育所及び保育所以外の児童福祉施設等で実践するものである。保育所実習のうち後期実習が保育所実習Ⅱとなる。					
到達目標	1. 保育所保育の実際を体験し、子ども理解、関わりの視点を身につけている 2. 指導計画の作成・実践など保育士としての資質・能力・技術を身につけている 3. 保護者支援、地域の子育て家庭への支援について理解している 4. 保育の理論と技能を総合的に体験し実践できる					
学位授与方針	幼児教育学科（①・②・③・④・⑤・⑥・⑦）地域保育学科（1・2・3・4・5）文化表現学科（1・2・3・4）					
授業計画	第1回	内容	保育所の社会的役割と責任を学ぶ	予習		
				復習		
	第2回	内容	養護と教育が一体となって行なわれる保育を学ぶ	予習		
				復習		
	第3回	内容	子どもの心身の状態や活動の観察をする	予習		
				復習		
	第4回	内容	保育士等の動きや実践の観察をする	予習		
				復習		
	第5回	内容	保育所の生活の流れや展開の把握を学ぶ	予習		
				復習		
	第6回	内容	環境を通して行なう保育、生活や遊びを通して総合的に行なう保育を理解する	予習		
				復習		
	第7回	内容	入所している子どもの保護者支援及び地域の子育て家庭への支援を学ぶ	予習		
				復習		
	第8回	内容	地域社会との連携を学ぶ	予習		
				復習		
第9回	内容	保育課程に基づく指導計画の作成・実践・省察・評価と保育の過程を理解する	予習			
			復習			
第10回	内容	作成した指導計画に基づく保育実践と評価を行なう	予習			
			復習			
第11回	内容	多様な保育の展開と保育士としての業務、職業倫理を理解する	予習			
			復習			
第12回	内容	保育士としての自己の課題を明確化する	予習			
			復習			
第13回	内容		予習			
			復習			
第14回	内容		予習			
			復習			
第15回	内容		予習			
			復習			
	予習に要する学習時間：概ね 分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね 分を目安とする。					
課題へのフィードバック	評価面談を実施する					
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法： 実習課題（20%）、実習日誌（30%）、施設による評価（50%）					
教科書	『実習の手引き』（実習委員会）、『保育所保育指針』・解説書 『幼稚園・保育所・施設実習 ～子どもの育ちと安全を守る保育者を目指して～（仮題）』（若井編著、大学図書出版）					
参考文献	なし					
注意事項	「保育所実習研究Ⅱ」で履修した内容を実践すると同時に、実習先の指導を受け、実習生としてふさわしい言動がとれるように、日常生活において十分に留意すること。また、実習関係報告書類の提出遅延、実習中の怠惰、非行等があった場合は、本学の「実習派遣規制」によって、実習の停止、中止等が行なわれる場合があり、保育士証取得が出来ないことになるので厳重に注意すること					

科目名	保育所実習研究 I		単位数	1	実務経験	担当教員 おぐち すぐる とりうみひろこ 小口 偉 ・ 鳥海弘子
ナンバリングコード	CHS1219		授業形態	演習	有・無	
授業の内容	保育所実習に並行して行われる授業である。保育所実習の目的、内容、方法、実習施設の機能を学ぶとともに、手続書類の作成等について指導を行う。実習に対する課題を立て、事後の学習目標を明確にしていくことで実習に対する意欲を高める。					
到達目標	1 保育所実習の意義・目的・内容を理解している。 2. 実習の計画、実践、観察、評価の方法について理解し実践できる。 3. 事前準備として実習課題を明確にし、取り組むことができる。 4. 事後指導の実習の統括と自己評価から、課題と目標を明確にしている。					
学位授与方針	幼児教育学科 (1・2・3・4・5・6・7) 地域保育学科 (1・2・3・4・5) 文化表現学科 (1・2・3・4)					
授業計画	第1回	内容	保育所実習の意義・目的	予習		
				復習		
	第2回	内容	保育所実習の目的理解	予習		
				復習		
	第3回	内容	前期実習の目的 (参加、観察実習)	予習		
				復習		
	第4回	内容	前期実習参加の心得	予習		
				復習		
	第5回	内容	実習手続き書類の作成指導 (配当資料について)	予習		
				復習		
	第6回	内容	実習手続き書類の作成指導 (調査書について)	予習		
				復習		
	第7回	内容	参加、観察実習の留意点	予習		
				復習		
	第8回	内容	保育園の一日の流れ、実習中の注意事項	予習		
				復習		
第9回	内容	実習日誌の作成指導①	予習			
			復習			
第10回	内容	実習日誌の作成指導②	予習			
			復習			
第11回	内容	オリエンテーションについて	予習			
			復習			
第12回	内容	実習課題についての説明	予習			
			復習			
第13回	内容	部分実習指導計画案作成指導	予習			
			復習			
第14回	内容	持ち物、身だしなみについて	予習			
			復習			
第15回	内容	実習の総括と自己評価	予習			
			復習			
	予習に要する学習時間：概ね 分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね 分を目安とする。					
課題へのフィードバック	評価面談を実施する。					
成績評価	試験期間における定期試験：実施 () する / (○) しない 成績評価の方法： 実習課題 (20%)、実習日誌 (30%)、施設による評価 (50%)					
教科書	『実習の手引き』(実習委員会)、『保育所保育指針』・解説書 『幼稚園・保育所・施設実習~子どもの育ちと安全を守る保育者を目指して~』(若井香保里編著、大学図書出版)					
参考文献	必要があれば授業内で紹介					
注意事項	1. 実習について必要な注意事項の説明、提出書類の作成等を行うので、原則として欠席は認めない。 2. 実習提出書類の遅延、授業態度の怠惰等は、「実習派遣規制」によって禁じられており、実習派遣ができなくなるので十分に留意すること。					

科目名	保育所実習研究Ⅱ	単位数	1	実務経験	担当教員	まるはしさとみ あさいたくや 丸橋 聡美・浅井拓久也
ナンバリングコード	CHS1225	授業形態	演習	有・無		
授業の内容	この保育所実習研究Ⅱは、保育所実習に並行して行われる授業であり、実習の目的、実習施設の機能、保育者の職務内容や、実習書類の作成について学習し、実習参加意識の高揚、各自の実習課題と事後の学習目標を立てる等、保育実習の意義を高めるものである。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育所実習の意義、目的を総合的に理解している 2. 保育の全体的計画に基づく具体的な計画や保育実践力を身につけている 3. 保育士の専門性と職業倫理を理解している 4. 保育に対する課題や認識を明確にしている 					
学位授与方針	幼児教育学科 (①・②・③・④・⑤・⑥・⑦) 地域保育学科 (1・2・3・4・5) 文化表現学科 (1・2・3・4)					
授業計画	第1回	内容	後期実習の目的(参加、責任指導実習)	予習	前期実習での自己課題を明確にする	
				復習	保育士資格取得に向けての意欲をまとめる	
	第2回	内容	後期実習参加の心得	予習	前期実習での実習課題を明確する	
				復習	保育者になる心構えを再確認しまとめる	
	第3回	内容	部分、責任指導実習の留意点	予習	参加・観察実習について確認する	
				復習	部分実習・責任実習の留意点をまとめる	
	第4回	内容	実習日誌の作成指導	予習	前期実習の日誌から実習を振り返る	
				復習	ワークを行い、日誌作成について理解する	
	第5回	内容	実習日誌の作成(乳児クラス)	予習	前期実習日誌を振り返る(乳児クラス)	
				復習	乳児クラスの実習日誌を作成する	
	第6回	内容	実習日誌の作成(幼児クラス)	予習	前期実習日誌を振り返る(幼児クラス)	
				復習	幼児クラスの実習日誌を作成する	
	第7回	内容	指導計画案の作成指導	予習	教科書を読む	
				復習	ワークを行い、指導案について理解する	
	第8回	内容	指導計画案の作成(乳児クラス)	予習	乳児の発達と遊びを調べる	
				復習	指導案を仕上げる(乳児クラス)	
第9回	内容	指導計画案の作成(3歳児クラス)	予習	3歳児の発達と遊びを調べる		
			復習	指導案を仕上げる(3歳児クラス)		
第10回	内容	指導計画案の作成(4・5歳児クラス・異年齢児保育)	予習	4・5歳児・異年齢児クラスの発達や遊びを調べる		
			復習	指導案を仕上げる(4・5歳児・異年齢児クラス)		
第11回	内容	実習課題と準備の説明・作成	予習	他の実習での体験や学びを振り返る		
			復習	実習課題を考え、仕上げる		
第12回	内容	オリエンテーション報告書、実習報告書の作成	予習	該当プリントを読んでおく		
			復習	各書類を仕上げる		
第13回	内容	実習の総括①実習の振り返り・自己評価	予習	前期後期の実習を振り返る		
			復習	実習について自己評価を行う		
第14回	内容	実習の総括②グループワーク	予習	テーマを考える		
			復習	テーマに即した内容を調べる		
第15回	内容	実習の総括③自己課題の明確化	予習	自己課題を考える		
			復習	保育に対する課題や認識をまとめる		
予習に要する学習時間：概ね 20 分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね 80 分を目安とする。						
課題へのフィードバック	課題に対して、添削を行なう。学生の学習進度に応じて個別指導を行う。 評価面談を実施する。					
成績評価	試験期間における定期試験：実施()する/ (○)しない 成績評価の方法： 課題・レポート(60%)、授業態度(30%)、諸手続き(10%)					
教科書	『実習の手引き』(実習委員会)、『保育所保育指針』 『幼稚園・保育所・施設実習 ～子どもの育ちと安全を守る保育者を目指して～』(若井編著、大学図書出版)					
参考文献	なし					
注意事項	各実習園に対する注意事項の説明、提出書類の作成等を行うので、原則として欠席は認めない。また、実習提出書類の遅延、授業態度の怠惰等は、「実習派遣規制」によって禁じられており、実習派遣ができなくなるので十分に留意すること					

科目名	保育所実習研究Ⅱ	単位数	1	実務経験	担当教員	まるはしさとみ あさいたくや 丸橋 聡美・浅井拓久也
ナンバリングコード	CHS1225	授業形態	演習	有・無		
授業の内容	保育実習Ⅱに必要な知識や技術を学ぶ。特に、指導実習での指導計画や実習日誌の考え方や書き方について重点を置く。受講生が自分で調べる、話し合う、まとめる、発表することを中心とした能動的な授業を行う。また、現役保育士によるゲスト講義も行う。					
到達目標	1. 保育実習Ⅱの意義と目的を理解し、保育を総合的に理解している。 2. 指導実習での指導計画の基本的な考え方や書き方を身につけている 3. 実習日誌を適切に作成することができる。					
学位授与方針	幼児教育学科 ①②③④⑤⑥⑦ 地域保育学科 (1・2・3・4・5) 文化表現学科 (1・2・3・4)					
授業計画	第1回	内容	保育所実習研究Ⅱの目的と概要	予習	シラバスの目次を読む	
				復習	保育所実習研究Ⅱを学ぶ理由を3つ書く	
	第2回	内容	保育実習Ⅱにおける心構えとマナー	予習	なぜ保育実習にマナーが必要か考える	
				復習	保育実習Ⅰと保育実習Ⅱの違いをまとめる	
	第3回	内容	保育実習Ⅱに必要な書類の準備	予習	どのような書類が必要になるか調べる	
				復習	個人情報とは何かまとめる	
	第4回	内容	指導実習での指導計画の書き方：ねらいの書き方	予習	保育所保育指針の第2章を読む	
				復習	ねらいの書き方をまとめる	
	第5回	内容	指導実習での指導計画の書き方：援助や配慮の書き方	予習	援助と配慮とは何か考える	
				復習	援助と配慮の違いをまとめる	
	第6回	内容	指導実習での指導計画の書き方：乳児クラスの指導計画	予習	乳児～2歳児の発達の特徴を調べる	
				復習	2歳児クラスの指導計画を書く	
	第7回	内容	指導実習での指導計画の書き方：4歳児クラスの指導計画	予習	3歳～5歳児の発達の特徴を調べる	
				復習	5歳児クラスの指導計画を書く	
	第8回	内容	指導実習での指導計画の書き方：実際に作成し発表する	予習	見本となる指導計画を用意する	
				復習	3歳児クラスの指導計画を書く	
第9回	内容	実習日誌の書き方：目的と概要	予習	なぜ実習日誌が必要か考える		
			復習	なぜ実習課題が必要か考える		
第10回	内容	実習日誌の書き方：エピソードの選び方と書き方	予習	保育実習Ⅰの日誌を読みなおす		
			復習	考察の書き方をまとめる		
第11回	内容	実習日誌の書き方：2歳児クラスのエピソードの事例分析	予習	保育実習Ⅰの日誌を読みなおす		
			復習	なぜ振り返りが必要か考える		
第12回	内容	実習日誌の書き方：3歳児クラスのエピソードの事例分析	予習	保育実習Ⅰの日誌を読みなおす		
			復習	乳児クラスのエピソードを調べる		
第13回	内容	実習日誌の書き方：他者の日誌を添削する	予習	第9回から第12回までのノートを見直す		
			復習	保育実習Ⅰの日誌を添削する		
第14回	内容	訪問指導の意義と目的	予習	なぜ訪問指導が必要か考える		
			復習	訪問指導時に質問すべきことをまとめる		
第15回	内容	保育所実習研究Ⅱでの学びを振り返る	予習	第1回から第14回までのノートを見直す		
			復習	保育所実習研究Ⅱから学んだことを書く		
予習に要する学習時間：概ね30分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね15分を目安とする。						
課題へのフィードバック	課題や発表に関しては確認後、授業内で補足説明や解説講義を行う。					
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法： レポート・課題（40%）、作品・発表（40%）、授業態度（20%）					
教科書	なし					
参考文献	『保育所保育指針（平成29年告示）』（厚生労働省、フレーベル館）、『保育所保育指針解説 平成30年3月』（厚生労働省、フレーベル館）					
注意事項	幼児教育研究の授業内容や各種実習時期等の関係で、授業計画の順番を変更することがある。					

科目名	福祉施設実習研究		単位数	1	実務経験	担当教員 しのはらあみ みよしちから 志濃原亜美・三好力
ナンバリングコード	SOW1224		授業形態	演習	有・無	
授業の内容	この授業は、施設実習の前後に行なわれるものである。事前授業では実習の目的、実習施設の機能、保育者の職務内容、および実習手続き書類の作成等について学習し、実習心得を身に付け、実習参加意欲の高揚を図るとともに、各自の実習課題を確立する。 実習後授業は、実習報告会の参加、実習報告書と実習アンケートの作成等を通して、自己の適性を見直し、保育者としての使命感や人権意識等を考え今後の学習課題を設定する。					
到達目標	1. 実習施設について理解を深めることができる 2. 実習課題が設定できる 3. 自己の適性を知ることができる					
学位授与方針	幼児教育学科 (1・②・3・4・⑤・6・7) 地域保育学科 (1・2・3・4・5) 文化表現学科 (1・2・3・4)					
授業計画	第1回	内容	オリエンテーション(履修上の諸注意)		予習	シラバスを確認する
					復習	履修上の諸注意を確認する
	第2回	内容	施設実習の意義の理解		予習	実習の手引きを一読する
					復習	実習の手引きを確認しながら理解を深める
	第3回	内容	実習施設の配当発表及び各実習施設の理解	配当発表	予習	配当の確認をする
					復習	配当の施設について調べる
	第4回	内容	居住型福祉施設の生活実態を知る(乳児院)		予習	児童福祉施設の知識の復習をする
					復習	感想文を書く
	第5回	内容	実習生調書の作成		予習	実習生調書下書き
					復習	実習生調書清書
	第6回	内容	居住型福祉施設の生活実態を知る(児童養護施設)		予習	児童福祉施設の知識の復習をする
					復習	感想文を書く
	第7回	内容	居住型福祉施設の生活実態を知る(障害児関連施設)	レポート提出	予習	レポート提出準備
					復習	感想文を書く
	第8回	内容	居住型福祉施設の生活実態を知る(障害者関連施設)		予習	障がい福祉の知識を確認する
					復習	感想文を書く
第9回	内容	各施設への実習前訪問と諸注意		予習	実習先の概要を確認する	
				復習	実習先への交通経路等の確認をする	
第10回	内容	外部講師の話		予習	実習に向けての準備を整える	
				復習	感想文を書く	
第11回	内容	実習の日誌の書き方		予習	実習日誌を一読する	
				復習	日誌の記入方法等を確認する	
第12回	内容	実習の各種手続き		予習	実習に向けての準備を整える	
				復習	各種手続きの確認をする	
第13回	内容	実習に向けての心構え		予習	実習への持ち物等を確認する	
				復習	実習に向けての準備を整える	
第14回	内容	実習概要報告書の作成		予習	報告書の下書きをする	
				復習	報告書の作成	
第15回	内容	評価面談、まとめ		予習	自己評価を考察する	
				復習	実習全体を総括する	
予習に要する学習時間：概ね30分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね30分を目安とする。						
課題へのフィードバック	実習の評価面談、及び反省を通して、フィードバックする					
成績評価	試験期間における定期試験： 実施()する/ (○)しない 成績評価の方法： 、課題(30%)、レポート(20%)、授業態度(50%)					
教科書	『保育・教育・施設実習』(福田真奈他著者、大学図書出版)					
参考文献	『保育福祉小六法2019年版』(保育福祉小六法編集委員会編、みらい)					
注意事項	各実習園に対する注意事項の説明、提出書類の作成等を行うので、原則として欠席は認めない。また、実習提出書類の遅延、非行・怠惰等は、「実習派遣規制基準」によって禁じられているので十分に留意すること。 ◎派遣施設が決まったら、自主的にその施設機能や利用者について予備学習を行うこと。					

(添付資料)

【幼児教育学科第一部・二部】

「実務経験のある教員等による授業科目」一覧

(シラバスリンク：新カリキュラム)

https://www.akikusa.ac.jp/akitan/wordpress/wp-content/themes/akikusaTheme/assets/pdf/yk_syllabus_2019_new.pdf#pagemode=bookmarks

	科目名	単位数	授業形態	担当教員	シラバスページ
1	保育所実習Ⅰ	2	実習	小口・鳥海	44
2	施設実習	2	実習	志濃原・三好	本年度配当無し
3	保育所実習Ⅱ	2	実習	丸橋・浅井	本年度配当無し
4	教育実習Ⅰ	2	実習	大熊・長谷川・北澤	46
5	教育実習Ⅱ	2	実習	大熊・伊澤・長谷川・北澤・ 畷田・早坂	本年度配当無し
	計	10			

(シラバスリンク：旧カリキュラム)

https://www.akikusa.ac.jp/akitan/wordpress/wp-content/themes/akikusaTheme/assets/pdf/yk_syllabus_2019_old.pdf#pagemode=bookmarks

	科目名	単位数	授業形態	担当教員	シラバスページ
1	保育所実習Ⅰ	2	実習	小口・鳥海	67
2	施設実習	2	実習	志濃原・三好	68
3	保育所実習Ⅱ	2	実習	丸橋・浅井	70
4	教育実習	4	実習	大熊・畷田 他	62
	計	10			

注) 「実務経験のある教員等による授業科目」とは、担当する授業科目に関連した実務経験を有している者が、その実務経験を十分に授業に活かしつつ、実践的教育を行っている授業科目を指す。実務経験があっても、担当する授業科目の教育内容と関わりがなく、授業に実務経験を活かしているとは言えない場合は対象とはならないことに注意すること。また、必ずしも実務経験のある教員が直接の担当でなくとも、例えば、オムニバス形式で多様な企業等から講師を招いて指導を行う場合や、学外でのインターンシップや実習等を授業の中心に位置付けているなど、主として実践的教育から構成される授業科目もこれに含む。必修科目、選択科目又は自由科目の別を問わない。